



デジタル印刷機

RISOGRAPH *SF*

939/939G

取扱説明書

本機について	1
基本操作	2
製版機能を設定する	3
印刷機能を設定する	4
便利な機能を使う	5
スキャン機能を設定する	6
連携機（Prioα）を利用する	7
利用環境を設定する	8
RISO コンソールを利用する	9
消耗品を交換する	10
お手入れについて	11
こんなときには	12
付録	13



当社は国際エネルギー・プログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギー・プログラムの基準に適合していると判断します。

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。



注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになった後は、いつでも取り出せるように所定の場所に保管してください。

ごあいさつ

このたびは、本機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本機は、コピー機感覚の操作で鮮明な印刷ができるデジタル印刷機です。
紙原稿をスキャンしてプリントするだけでなく、パソコンからのプリントやスキャンした
原稿データの活用など、さまざまな機能を利用していただくことができます。

■ 本書の記述内容について

- 本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは固くお断りします。
- 本書の内容につきましては、商品の改良などのため、将来予告なしに変更する場合があります。
- 本書および本機を運用した結果の影響につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 商標について

- 、RISO、**riso iQualitySystem**、RISOGRAPH および Prioa は、理想科学工業株式会社の登録商標または商標です。
- Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- SD、SDHC ロゴは SD-3C、LLC の商標です。
- その他の社名、商品名は各社の登録商標または商標です。



本機は色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮して作られていると、
NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構により認証されています。

取扱説明書について

同梱されている取扱説明書

本機には、以下の取扱説明書が同梱されています。

ご使用になる前に、よくお読みください。

また、ご使用中に不明な点があるときや、必要なときにお読みいただき、本機とともに末永くお役立てください。

■ RISOGRAPH SF939/939G 取扱説明書（本書）

本機の基本的な操作方法をはじめとして、高度なプリント機能や便利な機能の使い方などについて説明しています。

また、使用上のご注意、消耗品の取り扱いや交換方法、トラブル発生時の対処方法についても説明しています。

■ リソープリンタードライバー取扱説明書

付属の DVD-ROM に、PDF ファイルとして収録されています。

パソコンから本機でプリントするときの操作手順や、各種設定について説明しています。

■ リソーユーティリティソフトウェア取扱説明書

付属の CD-ROM に、PDF ファイルとして収録されています。

「理想集計アプリケーション」と「理想 USB メモリマネージャー」の使い方について説明しています。

マークについて



安全にご利用いただくための警告や注意事項です。



気を付けていただきたいことなどの重要事項です。よく読んで、指示に従ってください。



知っておくと便利なことや、補足説明です。



参照ページを示しています。

画面、イラストについて

本書に掲載している画面やイラストは、機種やオプションの装着状況など、ご使用の環境によって異なる場合があります。

目次

ごあいさつ	1
取扱説明書について	2
同梱されている取扱説明書	2
マークについて	2
画面、イラストについて	2
目次	3
安全上のご注意	9
警告表示について	9
設置場所について	9
電源の接続について	9
アースの接続について	9
取り扱いについて	10
インクについて	11
注意ラベルの位置について	11
ご使用の前に	11
設置上の注意	11
ご使用上の注意	12
消耗品について	12
原稿データのプリントについて	13
ソフトウェアについて	13
原稿について	13
用紙について	14
プリント範囲について	16
印刷に関する注意	16

第 1 章 本機について

各部の名称とはたらき	18
給紙側	18
排紙側	19
オプション	20
操作パネル	21
タッチパネルの表示について	22
[ホーム] 画面	22
認証画面	22
製版基本画面	22
印刷基本画面	24
スキャン基本画面	24
RLP 基本画面	25
[名称入力] 画面	25
プリントの流れ	26
「製版」と「印刷」	26
「連続」とは	26

第2章 基本操作

概要.....	28
プリント前の準備.....	28
給紙台と用紙のセット	28
排紙台のセット	29
原稿をセットする.....	31
原稿台ガラスにセットする場合	31
自動原稿送り装置にセットする場合	32
紙原稿をプリントする	32
パソコンからプリントする	34
[連続モード] が [OFF] の場合	35
[認証プリント] が設定されている場合	36
紙原稿をデータとして保存する.....	37
メモリーカードの装着	37
メモリーカードの取り出し.....	38
紙原稿のスキャン	38
保存された原稿データをプリントする	39
[ホールド] からのプリント.....	39
[USB メモリー] からのプリント.....	40
[USB メモリー (自動製版)] からのプリント	41
認証データをプリントするには	42

第3章 製版機能を設定する

製版するときに設定する機能	44
原稿に適した画像処理をする [原稿モード]	45
写真の階調の処理方法を選択する [網点]	47
写真の明暗を調節する [コントラスト強調]	47
写真の階調を調節する [トーンカーブ選択]	48
原稿の読取濃度を調節する [読取濃度]	48
冊子になっている原稿を使う [ブックモード]	49
インクを節約する [省インク]	50
製版時間を短縮する [速度優先製版]	51
原稿を拡大／縮小する [変倍]	51
[固定変倍]	51
[独立変倍]	52
[ズーム変倍]	52
不定形の用紙を使う [用紙サイズ]	53
余白を最小限にする [フルサイズ製版]	54
1 枚の用紙に原稿を複数ページ割り付ける [N アップ]	54
1 枚の用紙に原稿を複数割り付ける [連写]	56
[1 原稿連写] [多原稿連写]	56
[チケット連写]	58

かんたんに2面連写する【かんたん連写】	59
原稿の先端をカットする【レイアウト原稿】	60
製版位置を調整する【とじしろ】	61
原稿データの画像を確認する【プレビュー表示】	61
【プレビュー表示】の手順	62
ページごとに試し刷りを確認する【AF オート製版】	62
最後のページからプリントする【逆順印刷】	63
原稿の読取面を設定する【AF 読取面指定】	64
紙メモリー原稿を使う【紙メモリープリント】	65
保存された原稿データを操作する【ホールド】【USB メモリー】	66
リスト表示形式の変更	66
原稿データの削除	67
原稿データの詳細表示	67
【USB データ選択】画面への切り替え	68
原稿データを紙原稿に合成する【オーバーレイ】	68

第4章 印刷機能を設定する

印刷するときに設定する機能	72
印刷速度を調節する【速度】	72
印刷濃度を調節する【濃度】	73
印刷位置を調整する【印刷位置】	74
インクの裏移りを抑える【インターバル印刷】	75
製版をやり直す【再製版】	75
製版を自動的にやり直す【オート再製版】	76
給紙・排紙条件を調整する【特殊用紙設定】	76
特殊用紙の給紙調整	76
特殊用紙の排紙調整	77
排紙フェンスの調整（オプション）	77
調整値の登録	78
調整値の呼び出し	78
調整値の設定変更	79
調整値の名称変更	79
調整値の消去	79
排紙ウイングの位置を調節する【排紙ウイング特殊】	80
給紙状況を監視する【重送検知】	81

第5章 便利な機能を使う

便利な機能	84
組分けしてプリントする【プログラム】	84
【1 原稿プログラム】の設定	85
【多原稿プログラム】の設定	85
【プログラム】の中止	86
【プログラム】の登録	86

[プログラム] の呼び出し	87
[プログラム] の設定内容変更	87
[プログラム] の名称変更	87
[プログラム] の消去	88
合紙を入れる [合紙仕分け]	88
ST ソーターを使う [テープ仕分け]	89
各種設定を登録して使う [メモリー]	89
[メモリー] の登録	89
[メモリー] の呼び出し	90
[メモリー] の名称変更	90
[メモリー] の消去	90
占有時間を延長する [占有延長]	91
インクかすれを防ぐ [アイドリング]	92
機密書類の複製を防ぐ [機密]	92
よく使う機能をユーザーごとに登録する [認証 POP 登録]	93
利用枚数を表示する [カウンター表示]	94
利用枚数を集計する [利用枚数集計]	95
[集計出力] の実行	95
集計出力のお知らせ日の設定	95

第 6 章 スキャン機能を設定する

スキャンするときに設定する機能	98
原稿データの表示名を設定する [データ名]	99
原稿データの保存場所を設定する [保存場所]	99
原稿データの保存者名を設定する [オーナー]	100
[オーナー] の設定	100
オーナー名の変更	101
原稿データの保存サイズを設定する [サイズ]	101

第 7 章 連携機 (Prioa) を利用する

連携機を利用する	104
連携機を利用するための準備	105
[RLP 情報設定] 項目一覧	105
RLP モードでプリントする	106
RLP モードで設定する機能	107

第 8 章 利用環境を設定する

利用環境を設定する [環境設定]	110
[環境設定] 画面の表示	110
[環境設定] 画面の終了	110
設定項目一覧	111
よく使う機能を [基本] タブ画面に登録する [POP 登録]	118
よく使う機能を [お気に入り] タブ画面に登録する [お気に入り登録]	119

不定形用の紙を登録する【用紙サイズ登録】	120
用紙サイズの登録	120
用紙サイズの変更	120
用紙サイズの名称変更	121
用紙サイズの消去	121
ネットワークに接続する【ネットワーク設定 (IPv4)】【ネットワーク設定 (IPv6)】	121
IPv4 のネットワークに接続する場合	121
IPv6 のネットワークに接続する場合	122
ユーザーを識別する【認証設定】	122
[認証方式]	123
[認証有無]	123
[ユーザー登録]	124
ユーザーの情報変更	126
一般ユーザーの消去	126
グループの名称変更	127
全ユーザーの利用枚数クリア	127
認証設定の消去	127
使用済みのマスターを管理する【プロテクト】	128
[プロテクト] の設定	128
[プロテクト] の解除	128

第 9 章 RISO コンソールを利用する

RISO コンソールについて	130
RISO コンソールへのアクセス	130
ログイン	130
ログアウト	130
【モニタリング】メニュー	131
[一般情報] タブ画面	131
[システム情報] タブ画面	131
[ユーザー情報] タブ画面	131
【プリンター】メニュー	132
[処理中] タブ画面	132
[ホールド] タブ画面	132
[フォルダー] タブ画面	133
【ネットワーク】メニュー	133
[ネットワーク設定] 画面	133
[SNMP 設定] 画面	134

第 10 章 消耗品を交換する

消耗品の残量を確認する	136
マスターをセットする	137
インクボトルを交換する	140
排版ボックスのマスターを廃棄する	141
ドラムを交換する	143
ドラムの取り外し	143
ドラムのセット	144

使用済み消耗品の回収・廃棄について	145
インクボトル	145
マスター芯	145
使用済みのマスター	145

第 11 章 お手入れについて

クリーナーについて	148
お手入れのしかた	148
サーマルヘッド	149
外装部	149
原稿台ガラスと原稿パッド	150
自動原稿送り装置（オプション）	150
プレスローラー	151

第 12 章 こんなときには

メッセージが表示されたときは	154
メッセージの見かた	154
メッセージの例	155
「消耗品情報入力ウィザード」画面が表示されたら	161
「故障？」と思ったときは	165

第 13 章 付録

消耗品について	176
マスター・インク	176
用紙	176
オプションについて	176
仕様	178
索引	181

安全上のご注意

ご使用前に知っておいていただきたいことを記載しています。必ずお読みください。

警告表示について

本機を正しくお使いいただき、人体への危害や財産への損害を未然に防止するため、以下のような警告表示を使用しています。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を説明しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負うおそれがある内容および物的損害のみの発生が予想される内容を説明しています。

絵表示の例

	○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為の強制または指示を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

設置場所について

注意

- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。

電源の接続について

警告

- 本機の定格電圧値でご使用ください。また、定格電流値より容量の大きい電源コンセントに接続して使用してください。定格電圧値および定

格電流値は、本書巻末の仕様「電源」の項をご確認ください。

- 分岐コンセントのご使用、タコ足配線は、おやめください。火災、感電のおそれがあります。
- 電源コードを傷付けたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、引っばったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災、感電のおそれがあります。
- 同梱の電源コードは本機専用です。他の電気製品では使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

注意

- プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください（必ずプラグを持って抜いてください）。コードが傷付き、火災、感電の原因となることがあります。
- 連休などで長期間、本機をご使用にならない場合は、安全のために必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源プラグは年1回以上コンセントから抜いて、プラグの刃の周辺部分を清掃してください。ほこりがたまると、火災の原因となることがあります。

アースの接続について

警告

- アース線を必ず接続してください。アースの接続は、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。アース接続しないで万一、漏電した場合は、火災や感電のおそれがあります。なお、アース接続ができない場合は、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にご相談ください。
- 次のようなところには絶対にアース線を取り付けないでください。火災、感電のおそれがあります。
 - ガス管
 - 電話専用アース線
 - 避雷針

- 途中がプラスチックになっている水道管や蛇口
- アース線は次の場所に取り付けてください。
 - 電源コンセントのアース端子
 - 銅片などを、75cm 以上地中に埋めたもの
 - 接地工事（第 A 種～第 D 種）が行われている接地端子
 - 水道局がアースの対象物として承認した水道管

取り扱いについて

警告

- 本機の上に水などの入った容器または金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電のおそれがあります。
- 本機の近くで、可燃性のスプレーや引火性溶剤などを使用しないでください。スプレーのガスや引火性溶剤が機械内部の電子部品などに接触すると、火災や感電のおそれがあります。
- 本機のすきまなどから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としこんだりしないでください。火災、感電のおそれがあります。
- 本機のカバーは外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。
- 本機を分解したり改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。
- 万一、発熱していたり、煙が出てい、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そして販売会社（あるいは保守・サービス会社）にご連絡ください。
- 万一、異物が機器の内部に入った場合は、まず本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売会社（あるいは保守・サービス会社）にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。



注意

- 本機を移動する場合は、販売会社（あるいは保守・サービス会社）に連絡してください。無理に移動させると、機械が転倒して、けがの原因となることがあります。
- 本書に記載されている以外の作業（調整や修理など）は行わないでください。調整や修理は、必ず販売会社（あるいは保守・サービス会社）に依頼してください。
- 印刷中は十分な換気を行ってください。
- サーマルヘッドには、指で直接触れないでください。高温になっている場合、やけどをすることがあります。
- 本機の動作している部分には、触らないでください。けがの原因となることがあります。
- 給紙台や排紙台周りのすきまには、指などを差し込まないでください。けがの原因となることがあります。
- 本体内部に手を入れるときは、突起物や板金の端に触れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
- 本体内部に手を入れるときは、分離爪や排版爪に触れないように注意してください。分離爪や排版爪の先端は鋭利なため、けがの原因となることがあります。
- プレスローラーの清掃時には、本機の電源を必ず切ってください。
- ドラム周辺や、ドラムユニットを外した本体内部にはインクが付いていることがありますので、手や衣服などが触れないように注意してください。手などにインクが付いたときは早めに洗剤で洗い落としてください。
- ドラムは垂直に立てないでください。床などを汚すことがあります。
- 本機のクリーニングに使うクリーナーは、顔や手など人体に付いた汚れには使用しないでください。
- クリーナーを使用した後は、必ず手を洗ってください。



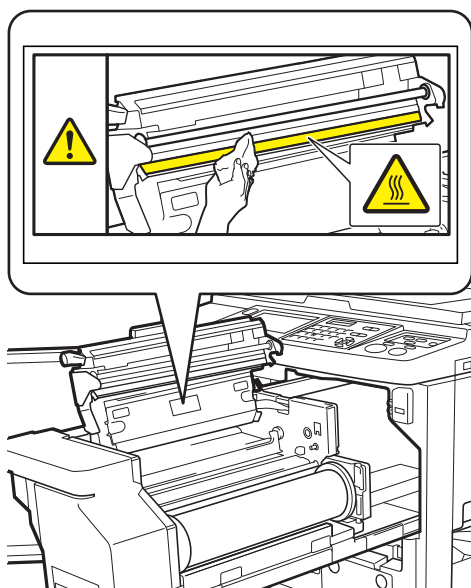
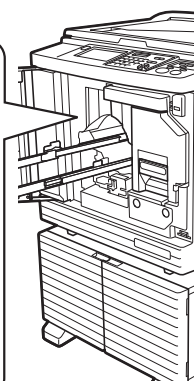
インクについて

⚠ 注意

- 目に入った場合は、速やかに多量の水でよく洗い流してください。
- 皮膚に付いた場合は、せっけんなどでよく洗ってください。
- 誤って飲み込んだ場合は、吐かせずに多量の水（または牛乳）を飲ませ、様子をみてください。
- 万一、異常を感じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。
- 印刷以外の用途には使用しないでください。
- 小さなお子さまの手の届かないところに保管してください。

注意ラベルの位置について

本機には、安全にお使いいただくために注意ラベルを貼っています。表示にしたがって安全にお使いください。



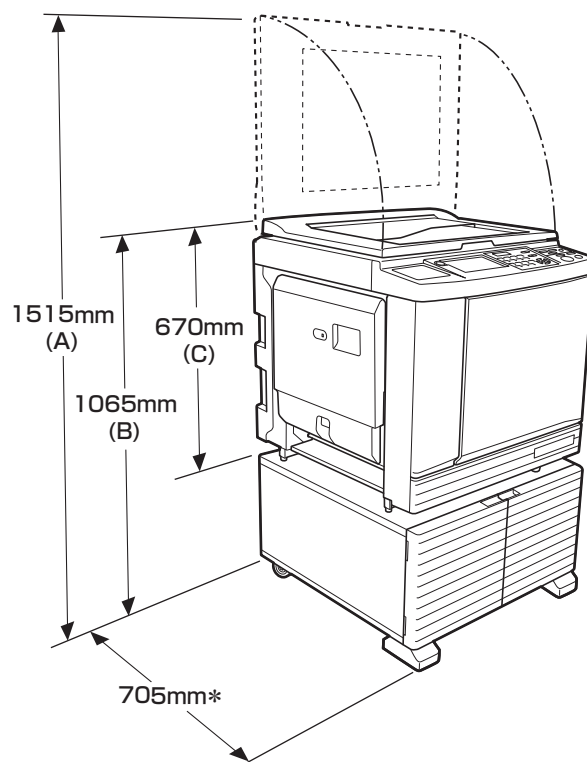
ご使用の前に

本機をご使用になる際に気をつけていただきたいことや、ご使用前に必ず知っておいていただきたいことを記載しています。

設置上の注意

■ 設置に必要なスペース

本機を使用するには、以下のスペースが必要です。



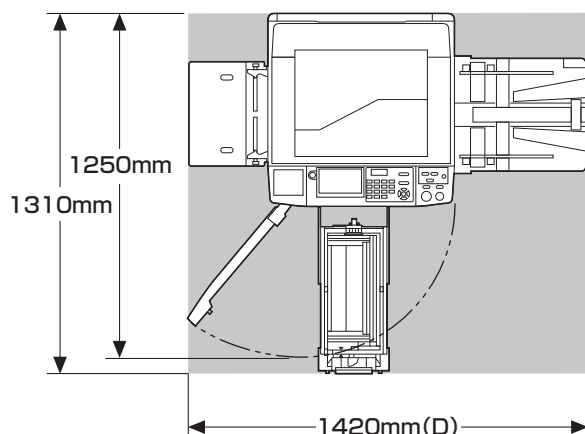
自動原稿送り装置（オプション）装着時は、上図中の（A）～（C）は以下の数値になります。

- (A) 1440mm
- (B) 1100mm
- (C) 705mm

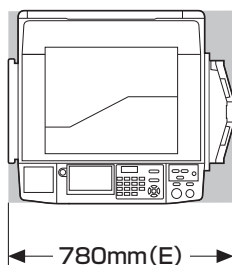
*：RISO 架台 D タイプⅢに設置した場合の奥行きです。補助足を含みます。

上から見た図

・ 使用時



・ 収納時



オートフェンス排紙台装着時は、上図中の (D)、
(E) は以下の数値になります。

(D) 1430mm

(E) 835mm

■ 設置場所について

- ・ 本機の設置場所は、納入時にお客様とご相談のうえ決定させていただきます。
- ・ 本機は設置場所を固定することになっています。
本機を移動するときは、販売会社（あるいは保守・サービス会社）に連絡してください。
- ・ 次のような場所には設置しないでください。誤動作や故障、事故の原因となる場合があります。
 - 直射日光のあたる場所や窓際などの明るい場所（やむをえない場合は、窓にカーテンなどを付けてください）
 - 温度が急激に変化する場所
 - 高温多湿、低温少湿の場所
 - 火気・熱気のある場所、クーラーなどの冷風、ストーブなどの温風が直接あたる場所や、熱が伝わる場所
 - 通気性、換気性の悪い場所
- ・ 本機が水平に設置できる場所を選んでください。（設置の水平度：前後 10mm 以下、左右 10mm 以下）
- ・ 適正環境は次の通りです。
温度範囲：15℃～30℃
湿度範囲：40%～70%
（結露しないこと）



ご使用上の注意

■ 電源の接続について

- ・ 電源プラグ部の接触不良がないように、プラグをコンセントに確実に接続してください。
- ・ 本機はコンセントの近くに設置してください。



■ 操作について

- ・ 動作中に電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしないでください。
- ・ 動作中にカバーを開けたり、機械を移動させたりしないでください。
- ・ カバー類の開閉は静かに行ってください。
- ・ 本機の上に重いものを載せないでください。
- ・ 本機に衝撃を与えないでください。
- ・ 本機内部には精密部品および駆動機構部があります。取扱説明書に書かれていること以外は行わないでください。
- ・ 日本国外へ移動した場合は、保守サービスの責任を負いかねますのでご了承ください。

消耗品について

- ・ マスターロールとインクボトルは、当社推奨品を使用してください。本機は当社推奨の消耗品を使うことによって最大限の性能を発揮できるように設計されています。
当社推奨品は、推奨使用期限までの残日数のような経時情報を本機に伝達します。
本機は、その情報に基づいて制御を調整します。
- ・ マスターとインクは、製造日から 24 カ月以内（未開封、常温保存）を目安にご使用ください。より良い状態でお使い頂くため、購入後はできるだけ早めにご使用頂くことをおすすめいたします。それぞれの製造日は、梱包箱（外箱、内箱）と、マスター芯の内側、インクボトルの表面に記載されています。
- ・ 用紙、マスターロール、インクボトルは、それぞれの梱包箱などに記載されている使用説明に従って、正しく保管してください。
- ・ 次のような場所での保管は、おやめください。
 - 直射日光のあたる場所や窓際などの明るい場所（やむをえない場合は、窓にカーテンなどを付けてください）
 - 温度が急激に変化する場所
 - 高温多湿、低温少湿の場所



原稿データのプリントについて

パソコンで作成した原稿データをプリントする方法は、以下の4通りです。

■ USB ケーブルでパソコンと接続する方法

市販のUSB ケーブルが必要です。3m 以内のUSB2.0規格準拠品を使用してください。



- ▶ USB ケーブルで接続する場合は、本機とパソコンの電源が入っている状態で接続してください。
- ▶ USB ハブを使用すると、正常に動作しない場合があります。

■ ネットワーク経由でパソコンと接続する方法

市販のイーサネットケーブル（10BASE-T または 100BASE-TX に対応した STP ケーブル）を使用してください。

■ USB メモリーを使う方法

- マスストレージクラスに対応したUSB メモリーを使用してください。USB メモリーによっては、正常に動作しない場合があります。
- FAT 形式でフォーマットされたUSB メモリーを使用してください。
- セキュリティ機能を搭載したUSB メモリーは、正常に動作しない場合があります。



- ▶ USB メモリーを挿入または取り外す際は、正しい手順で、ゆっくりと抜き差ししてください。
（[40](#) 「[USB メモリー] からのプリント」）
- ▶ 天災や不測の事態により、USB メモリー内のデータが損傷した場合、保証はいたしかねます。
重要なデータは、作成元のパソコンでバックアップをとっておくことをおすすめします。

■ 紙メモリー原稿を使う方法

- 本機のプリンタードライバーの機能を使って、原稿データを紙メモリー原稿に変換し、当社推奨のプリンターでプリントします。当社推奨のプリンターについては、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。
- 紙メモリー原稿は、本機の「紙メモリープリント」機能（[65](#)）で扱うことができます。



- ▶ 以下の場合、紙メモリー原稿を本機で適切に読み取れないことがあります。
 - 原稿台ガラスや原稿パッドに汚れがある。
 - 紙メモリー原稿が当社推奨のプリンター以外でプリントされた。
 - 紙メモリー原稿に汚れ、しわ、折れ目などがある。
 - 紙メモリー原稿の指定外の場所（[65](#)）に書き込みがある。

ソフトウェアについて

同梱のDVD-ROM とCD-ROM には次のソフトウェアを収録しています。

■ リソースプリンタードライバー

パソコンから原稿データを送信してプリントするための本機専用のプリンタードライバーです。

パソコンで作成した原稿データを変換して、[紙メモリープリント]（[65](#)）で使う紙メモリー原稿を作成することもできます。

詳しくは、DVD-ROM に収録されている取扱説明書（PDF ファイル）をご覧ください。

■ リソースユーティリティソフトウェア

以下の2つが収録されています。

- 理想 USB メモリマネージャー
USB メモリー内の原稿データの情報を、パソコン上で管理できます。
 - 理想集計アプリケーション
本機の「利用枚数集計」（[95](#)）でUSB メモリーに保存した利用枚数データを、パソコン上で管理できます。
- 詳しくは、CD-ROM に収録されている取扱説明書（PDF ファイル）をご覧ください。

原稿について

■ サイズ・重さについて

使用可能な原稿は以下の通りです。

原稿台ガラス使用時

サイズ	50 mm×90 mm ～ 310 mm×432 mm
重さ	10 kg まで

自動原稿送り装置（オプション）使用時

サイズ	100 mm×148 mm ～ 300 mm×432 mm
重さ	片面搬送時：50 g/m ² ～ 128 g/m ² 両面搬送時：52 g/m ² ～ 105 g/m ²

- 自動原稿送り装置には、サイズの異なる原稿を混ぜてセットしないでください。
- 自動原稿送り装置に一度にセットできる原稿は約50枚（80g/m² 以下の原稿使用時）までです。

参考

▶ 次の原稿は自動原稿送り装置では使用できません。
原稿台ガラスにセットしてください。

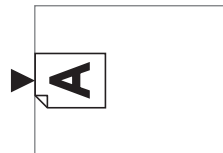
- 切り貼りされたもの
- しわ、カール、折れ曲がりが激しいもの
- 糊付け、穴あけがあるもの
- 破れていたり、先端がギザギザなもの
- 感熱紙、カーボン紙など、化学処理されたもの
- OHP フィルム、トレーシングペーパーなど透
過度が高いもの
- 修正液、糊などを使用しているもの
- 紙厚の薄い原稿（50g/m²未満）
- 紙厚の厚い原稿（128g/m²を越えるもの）
- アート紙、コート紙などの表面が滑りやすいもの
- 表面に光沢があるもの
- クリップやステーブラでとじてあるもの

- しわ、カール、折れ曲がりの激しい原稿は、よく伸ば
して原稿台ガラスから浮かないようにセットしてくだ
さい。浮いている部分が黒くプリントされることがあ
ります。
- インクや修正液を使用した原稿は、よく乾かしてから
セットしてください。原稿台ガラスが汚れ、きれいに
印刷できなくなります。

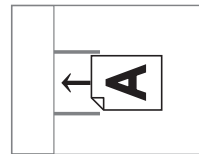
■ 原稿の方向について

本書では、原稿の方向を以下のように呼びます。

- 原稿台ガラスにセットする場合：
基準位置（▶ 印）に接する側を「天方向」と呼びま
す。



- 自動原稿送り装置（オプション）にセットする場合：
搬送される先頭の側を「天方向」と呼びます。



用紙について

- 機械の性能やインクの特性を十分に活かす「理想用紙
薄口」「理想用紙マルチ」「理想環境用紙」の使用をお
すすめします。詳細については、本体お買い上げの販
売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせ
ください。
- 本機の仕様に定められている範囲を超える用紙をご利
用いただく場合は、その紙に対しての通紙および印刷
に関しては製品保証対象外となります。



▶ 本機仕様内の「用紙サイズ」および「用紙の重さ」
であっても、紙質・環境・保管状態などにより通
紙できない場合があります。あらかじめ、ご了承
ください。詳しくは、販売会社（あるいは保守・
サービス会社）にご相談ください。

■ 用紙サイズ

使用可能な用紙は以下の通りです。

100 mm × 148 mm ～ 320 mm × 432 mm*

*：オプションの排紙台 W 装着時は、[用紙サイズ登録]（ 120）
を設定することで 340 mm×555 mm まで使用できます。
ただし、紙質や用紙サイズによっては、紙揃えが安定しない場
合があります。

- 本機では、以下の用紙が定形サイズとして検知されま
す。

A3 	297 mm×420 mm
A4 	210 mm×297 mm
A4 	297 mm×210 mm
A5 	148 mm×210 mm
B4 	257 mm×364 mm
B5 	182 mm×257 mm
B5 	257 mm×182 mm
B6 	128 mm×182 mm
ハガキ 	100 mm×148 mm

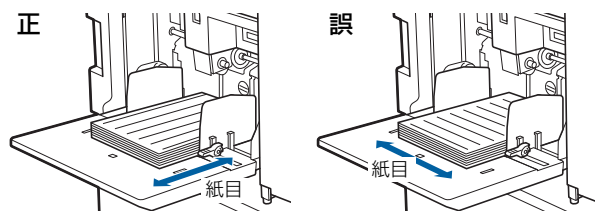
■ 紙質

- 使用可能な紙質は以下の通りです。
46g/m² ～ 210g/m²
（上質紙、中質紙、白更、上更、更紙、画用紙、再生
紙、日本郵便株式会社製はがき）

■ 紙づまりや給紙不良を避けるために

- 用紙は、紙目（繊維の流れ）が通紙方向に沿うようにセットしてください。

紙目が通紙方向に直交する方向ではコシが弱くなるため、紙づまりの原因となることがあります。



紙目を確認するには、紙を裂いてみると分かります。まっすぐに裂ける方向が、紙目です。



紙目に沿っていると、まっすぐに裂ける。



紙目に沿っていないと、まっすぐに裂けない。

- 裁断が悪い用紙や表面が粗い紙（画用紙など）は、よくさばいてから使用してください。
- 使用する用紙によっては機械の使用時に紙粉が発生することがあります。清掃、換気を充分に行うように心がけてください。
- 厚紙（画用紙など）や、表面が滑りやすい用紙を使用するときは、給紙圧レバーや排紙台の紙揃えプレートを調節してください。

（[28](#)「プリント前の準備」）

- なるべくカールしていない用紙を使用してください。やむを得ず使用する場合は、山なりになっている面を上にしてセットしてください。



- 印刷物の天方向（排紙方向の先端）に余白が少なすぎる場合や、天方向に密度の濃い画像がある場合に、用紙がドラムに張り付いてしまうことがあります。その場合は、天方向に余白ができるように印刷位置を下げるか、原稿の天地を180度回転して製版し直してください。

■ 用紙の保管について

用紙は湿気の少ない場所に保管してください。湿気を含んだ用紙は、紙づまりや印刷品質の低下の原因になります。

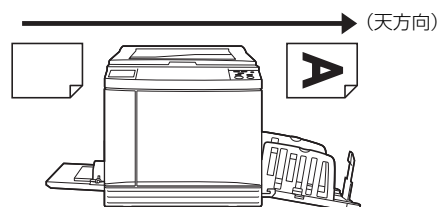
■ 印刷に適さない用紙について

次のような用紙は、紙づまりなどの原因となりますので使用しないでください。

- 紙厚の薄い用紙（ 46g/m^2 未満）
- 紙厚の厚い用紙（ 210g/m^2 を超えるもの）
- 感熱紙、表カーボン紙など、化学処理した用紙
- しわ、カール、折り曲がり、破損（破れ）などの激しい用紙
- 片面または両面がコーティングされている用紙
- 先端がギザギザになっている用紙
- アート紙
- 糊付け、穴がある用紙

■ 用紙の方向について

本書では、用紙が搬送される先端の側を「天方向」と呼びます。



プリント範囲について

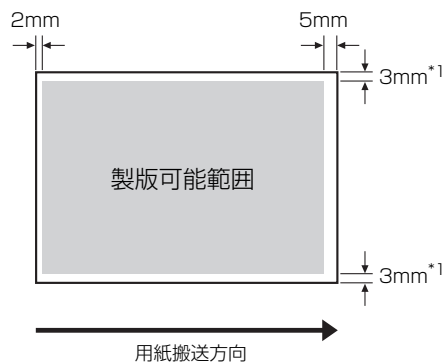
■ 最大印刷範囲

本機で印刷できる最大範囲は以下の通りです。

ドラムサイズ	最大印刷範囲
A3	291 mm×413 mm
A4 横	291 mm×203 mm

■ 製版範囲

給紙台にセットした用紙サイズで、製版範囲が決まります。製版範囲は、用紙サイズに対して、下図の余白を除いた範囲です。



* 1：定形サイズ of 用紙を使用した場合の数値です。不定形サイズ of 用紙を使用した場合は、5mm になります。

原稿は、上記の余白を考慮して作成してください。パソコンから原稿データを送信して印刷する場合も製版範囲は同様です。



- ▶ 大きな用紙をセットしても、製版範囲が最大印刷範囲を超えることはありません。
- ▶ 【フルサイズ製版】（[図 54](#)）を使っても、用紙の先端から 5mm の範囲は製版されません。



- ▶ 周囲に余白のない原稿をプリントするときは、【周囲余白】（[図 51](#)）で縮小すると便利です。
- ▶ 【フルサイズ製版】（[図 54](#)）を使うと、用紙のサイズに関係なく、製版範囲を最大印刷範囲まで広げることができます。

印刷に関する注意

個人が利用する場合でも、法律により、複写することや印刷物を所有することを禁止されているものがあります。以下の禁止事項をご理解いただき、十分にご注意ください。

■ 法律で印刷を禁止されているもの

次の文書は、法律で印刷を禁止されています。

- 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券（たとえ「見本」の印があっても複写することは禁じられています）
- 外国において流通する紙幣、貨幣、証券類
- 未使用郵便切手、郵便はがきの類で、政府の模造許可をとっていない場合
- 政府発行の印紙、酒税法などで規定されている証紙類



- 関係法律
- ▶ 通貨及び証券模造取締法
 - ▶ 外国ニオイテ流通スル貨幣、紙幣、銀行券、証券、偽造変造及び模造ニ関スル法律
 - ▶ 郵便切手類模造等取締法
 - ▶ 印紙等模造取締法
 - ▶ 紙幣類似証券取締法

■ 営利目的での印刷を禁止されているもの

次のような複写は、おやめください。

- 民間発行の有価証券（株券、手形、小切手など）、定期券、回数券などの、事業会社が業務に使用する最低必要部数以外の複写
- 政府発行のパスポート、公共機関や民間団体発行の免許証、許可証、身分証明書や通行券、食券などの切符類の複写
- 書籍、絵画、版画、地図、図面、写真など著作権の対象となっているものの複写（個人的または家庭内、あるいはこれに準ずる限られた範囲内で使用する場合以外、複写することを禁じられています）



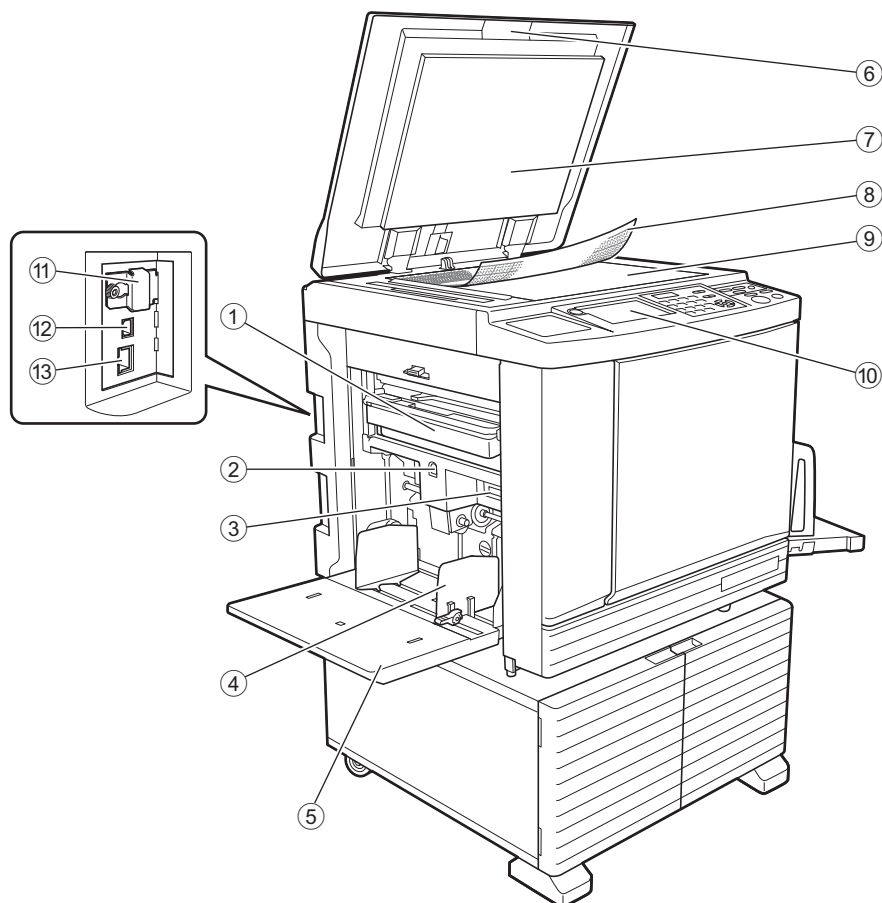
第 1 章

1

本機について

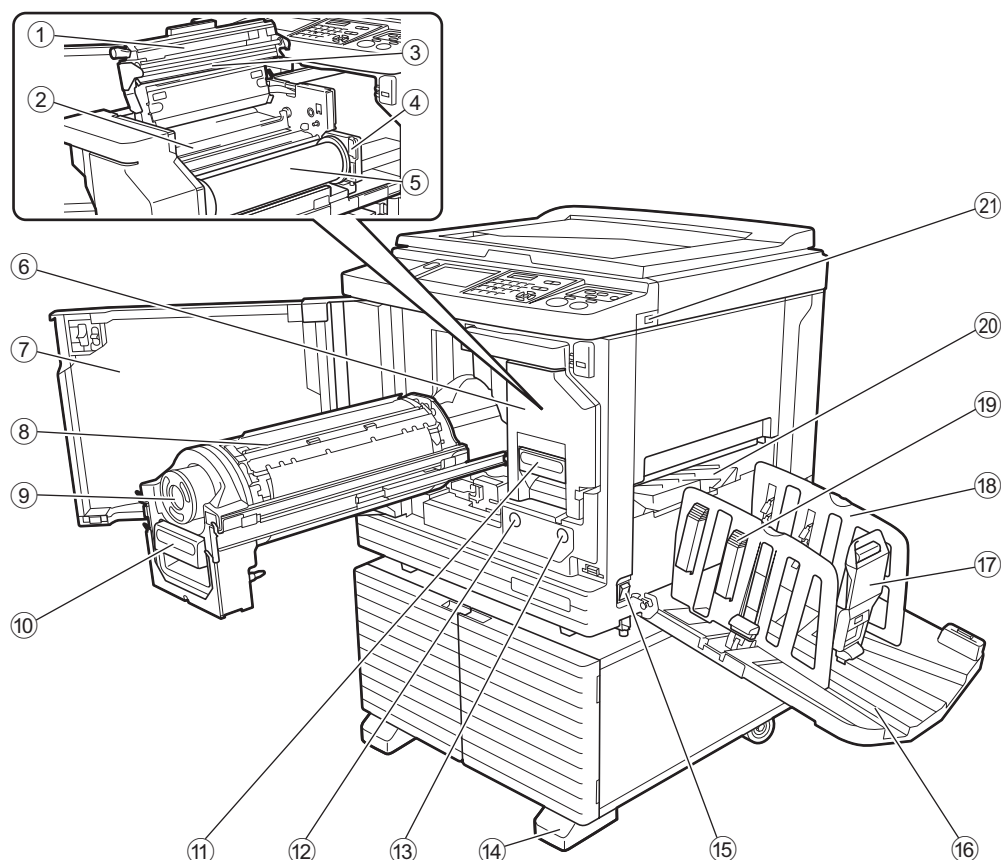
各部の名称とはたらき

給紙側



- | | |
|--|---|
| <p>① 排版ボックス (📖 141)
排版されたマスターを収納します。</p> <p>② 給紙台上下ボタン (📖 29)
用紙を載せ換えたり追加したりするときに、給紙台を上昇または下降させます。</p> <p>③ 給紙圧レバー (📖 28)
用紙の紙質に合わせて、給紙の圧力を調節します。</p> <p>④ 給紙フェンス (📖 28)
用紙の幅に合わせてスライドさせ、用紙のずれを防ぎます。</p> <p>⑤ 給紙台 (📖 28)
用紙を載せます。</p> <p>⑥ 原稿台カバー (📖 31)
原稿をセットするときに開閉します。</p> | <p>⑦ 原稿パッド (📖 150)</p> <p>⑧ ゲージシート (📖 31)
原稿の位置を調整しやすくします。
(機種によっては、オプション装備になります。)</p> <p>⑨ 原稿台ガラス (📖 31)
原稿を下向きにセットします。</p> <p>⑩ 操作パネル (📖 21)
各種操作を行います。</p> <p>⑪ メモリーカードスロット (📖 37)
[ホールド] 機能を使うためのメモリーカードを装着します。</p> <p>⑫ USB コネクター (📖 13)
パソコンと接続するための USB ケーブルを装着します。</p> <p>⑬ LAN コネクター (📖 13)
ネットワークに接続するためのイーサネットケーブルを装着します。</p> |
|--|---|

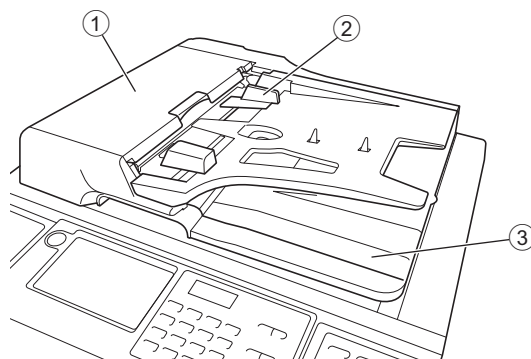
排紙側



- | | |
|---|---|
| <p>① 製版ユニットカバー (138)</p> <p>② マスターガイド (138)</p> <p>③ サーマルヘッド (149)</p> <p>④ マスターロールストッパー (138)
セットしたマスターロールを固定します。</p> <p>⑤ マスター (137)</p> <p>⑥ 製版ユニット (137)
① ～ ⑤ をご覧ください。</p> <p>⑦ 前カバー (137)</p> <p>⑧ ドラム (143)</p> <p>⑨ インクボトル (140)</p> <p>⑩ ドラムレバー (143)
レバーを握ってドラムを引き出します。</p> <p>⑪ 製版ユニットレバー (137)
レバーを握って製版ユニットを引き出します。</p> <p>⑫ ドラム OK ボタン (143)
ボタン点灯時に、ドラムを引き出せます。
消灯しているときは、ボタンを押して点灯させてから引き出してください。</p> | <p>⑬ 製版ユニット OK ボタン (137)
ボタン点灯時に、製版ユニットを引き出せます。
消灯しているときは、ボタンを押して点灯させてから引き出してください。</p> <p>⑭ 補助足</p> <p>⑮ 電源スイッチ (32)
電源の ON/OFF を切り替えます。</p> <p>⑯ 排紙台 (29)
印刷物が排出されます。</p> <p>⑰ ストッパー (29)
スライドさせて、用紙のサイズに合わせます。</p> <p>⑱ 排紙フェンス (29)
スライドさせて、用紙のサイズに合わせます。</p> <p>⑲ 紙揃えプレートノブ (29)
ノブを押すと、紙揃えプレートが出ます。
印刷物の紙揃えを良くします。</p> <p>⑳ 排紙ウイング (80)</p> <p>㉑ USB スロット (40)
認証用またはプリント用の USB メモリーを挿入します。</p> |
|---|---|

オプション

■ 自動原稿送り装置



① **AF 給紙カバー** (図 160)

原稿がつまった場合に開けて、原稿を取り除きます。

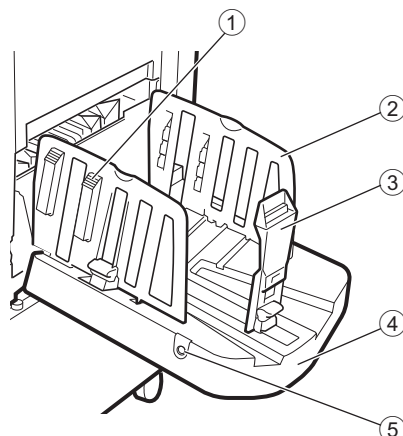
② **原稿セットフェンス** (図 32)

原稿の幅に合わせてスライドさせ、原稿のずれを防ぎます。

③ **原稿排出トレイ**

読み取った原稿が排出されます。

■ オートフェンス排紙台



① **紙揃えプレートノブ** (図 30)

ノブを押すと、紙揃えプレートが出ます。
印刷物の紙揃えを良くします。

② **排紙フェンス**

製版・印刷開始時に、用紙サイズに応じた位置に自動的に移動されます。
[特殊用紙設定] の [排紙フェンス調整] (図 77) で調整できます。

③ **ストッパー**

製版・印刷開始時に、用紙サイズに応じた位置に自動的に移動されます。
[特殊用紙設定] の [排紙フェンス調整] (図 77) で調整できます。

④ **排紙台**

印刷物が排出されます。

⑤ **排紙フェンスオープンボタン**

ボタンを押したときの動作は、本機の状態によって以下のように異なります。

- 待機中 (オートフェンス排紙台に用紙がある場合)
排紙フェンスとストッパー (初期設定では排紙フェンスのみ *) が、用紙を取り出しやすい位置に移動します。

* : [環境設定] の [排紙フェンス取出位置] (図 115) で、設定を変更できます。

- 待機中 (オートフェンス排紙台に用紙がない場合)
排紙フェンスとストッパーが、オートフェンス排紙台を収納できる位置に移動します。

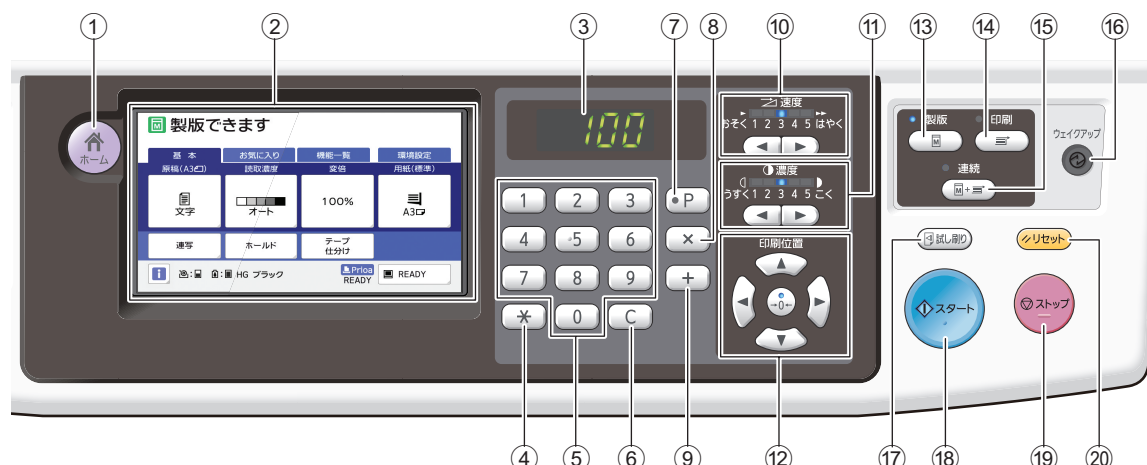
- 印刷中

ボタンを 1 回押すたびに、排紙フェンスが約 1mm 外側に移動します。排出された用紙がきれいに揃わないときに押してください。

参考

▶ その他のオプション (図 176) の詳細については、各オプションの取扱説明書をご覧ください。

操作パネル



- ① **【ホーム】キー** (22)
[ホーム] 画面を表示させるときに押します。
- ② **タッチパネル** (22)
- ③ **枚数カウンター**
印刷枚数や各種設定の入力値が表示されます。
- ④ **【*】キー**
[メモリ] (89) を呼び出すときや、[プログラム] (85) で項目間を移動するときなどに押します。
- ⑤ **テンキー**
印刷枚数や各種設定値を入力するときを押します。
- ⑥ **【C】キー**
入力した文字や数字を取り消すときに押します。
- ⑦ **【P (プログラム)】キー** (85)
[プログラム] を呼び出すときに押します。
[プログラム] が ON のときは、キー上のランプが点灯します。
- ⑧ **【×】キー**
[プログラム] (85) で項目間を移動するときを押します。
- ⑨ **【+】キー**
[プログラム] (85) で項目間を移動するときを押します。
- ⑩ **印刷速度調節キー** (72)
印刷速度を調節するときを押します。キー上部のランプに、そのときの速度が表示されます。
- ⑪ **印刷濃度調節キー** (73)
印刷濃度を調節するときを押します。キー上部のランプに、そのときの印刷濃度が表示されます。
- ⑫ **印刷位置調整キー** (74)
製版後、印刷位置を調整するときを押します。
- ⑬ **【製版】キー** (32)
製版基本画面に切り替えるときに押します。
- ⑭ **【印刷】キー**
印刷基本画面に切り替えるときに押します。
- ⑮ **【連続】キー** (26)
[連続] の ON/OFF を切り替えるときに押します。
[連続] ON のときは、キーの上側のランプが点灯します。
- ⑯ **【ウェイクアップ】キー**
 - 本機がスリープ (節電) 状態のときは、キーが点灯します。押すと、使用可能な状態になります。
 - 認証機能 (122) が有効な場合、認証されている状態のときにキー全体が点灯します。押すと、認証が解除されます。
- ⑰ **【試し刷り】キー** (32)
試し刷りをするときを押します。
- ⑱ **【スタート】キー**
製版や印刷を開始するときや、各種動作を実行するときを押します。
キー上のランプは、動作できるときは点灯、動作できないときは消灯しています。
- ⑲ **【ストップ】キー**
実行中の動作を中止するときを押します。
ただし、製版動作中は、製版終了後に停止します。
- ⑳ **【リセット】キー**
現在の設定を初期値に戻すときや、トラブル処理後にエラー表示を解除するときなどに押します。

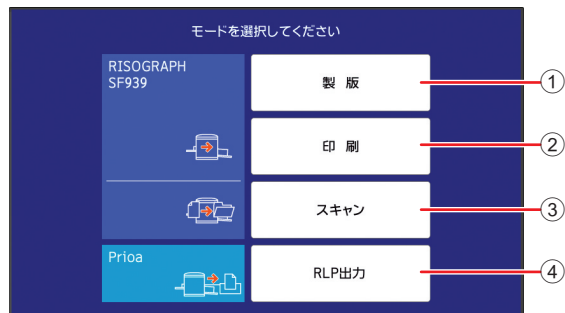
タッチパネルの表示について

代表的な画面表示について説明します。

【ホーム】画面

モードを選択する画面です。

【ホーム】キーを押すと表示されます。



① 【製版】

タッチすると、製版基本画面に移行します。

② 【印刷】

タッチすると、印刷基本画面に移行します。

③ 【スキャン】

タッチすると、スキャン基本画面に移行します。

(37 「紙原稿をデータとして保存する」)

④ 【RLP出力】

タッチすると、RLP 基本画面に移行します。

参考

▶ 【RLP 出力】は、連携機が接続され、必要な設定がされている場合に表示されます。

(105 「連携機を利用するための準備」)

認証画面

認証機能 (122) が有効なときに表示されます。

ガイダンスに従って操作してください。

■ 認証方式が【暗証番号】の場合



■ 認証方式が【USB メモリー】の場合

認証用USBメモリーを挿入してください



■ 認証方式が【IC カード】の場合

ICカードをかざしてください

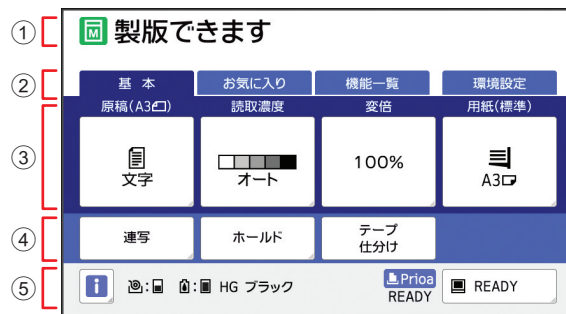


製版基本画面

製版の機能を設定する画面です。

紙原稿の場合とデータ原稿の場合で、一部の表示項目が異なります。

■ 紙原稿の場合



① メッセージエリア

本機の状態や操作指示が表示されます。

表示	説明
	製版モード
	[速度優先製版] (51)
	[アイドリング] (92)

② タブボタン

各タブをタッチすると、タブ画面を切り替えられます。

③ 機能設定エリア

設定できる機能のボタンが表示されます。

④ POP エリア

よく使う機能を登録しておくで便利です。

(☞ 93 「よく使う機能をユーザーごとに登録する [認証 POP 登録]」)

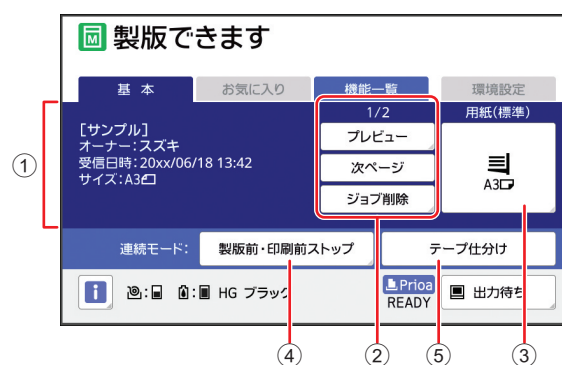
(☞ 118 「よく使う機能を [基本] タブ画面に登録する [POP 登録]」)

⑤ ステータスエリア

本機と連携機の状態が表示されます。

表示	説明
	[i] をタッチすると、消耗品の残量情報などが表示されます。 [i] アイコンの色は、本機の動作状態を表します。 (☞ 136 「消耗品の残量を確認する」)
	本機にセットされているマスターの残量が表示されます。 (☞ 136 「消耗品の残量を確認する」)
	本機にセットされているインクの残量と色名が表示されます。 (☞ 136 「消耗品の残量を確認する」)
	連携機「Prioa」の状態です。連携機が接続され、必要な設定 (☞ 105) がされている場合に表示されます。 [READY]：連携機を使える状態です。 [ERROR]：連携機でエラーが起きています。 [---]：連携機の情報取得できません。
	パソコンから受信した原稿データの状態が表示されます。 [READY]：受信待ちです。 [展開中]：プリントするための処理中です。 [出力待ち]：プリントできる原稿データがあります。 [通信 ER]：通信エラーが起きています。 [受信不可]：受信できません。 このボタンをタッチすると、[受信ジョブ] 画面が表示されます。 (☞ 34 「パソコンからプリントする」)

■ データ原稿の場合



① 原稿データ情報エリア

原稿データの名称やサイズなどが表示されます。

② 原稿データ操作エリア

[n/m]：現在のページ / 総ページ数が表示されています。

[プレビュー]：現在のページの [プレビュー表示] (☞ 61) を確認できます。

[次ページ]：現在のページを製版せずに、次ページの製版に進むことができます。

[ジョブ削除]：現在の原稿データの処理を中止します。

③ [用紙]

原稿データのサイズに合った用紙がセットされていることを確認します。不定形用紙を使う場合は、登録済みの用紙サイズを選択してください。

(☞ 53 「不定形の用紙を使う [用紙サイズ]」)

④ [連続モード]

プリント中の停止タイミングを変更できます。

(☞ 34 「パソコンからプリントする」)

⑤ [テープ仕分け]

ST ソーター (オプション) が装着されている場合に表示されます。

印刷基本画面

印刷の機能を設定する画面です。

紙原稿の場合とデータ原稿の場合で、一部の表示項目が異なります。

■ 紙原稿の場合



- ① **【190ppm】**
印刷速度をワンタッチで 190 枚／分に切り替えられます。
(72 「印刷速度を調節する [速度]」)
- ② **【160ppm】**
印刷速度をワンタッチで 160 枚／分に切り替えられます。
(72 「印刷速度を調節する [速度]」)
- ③ **【静音】**
印刷速度をワンタッチで最低速に切り替えられます。
(72 「印刷速度を調節する [速度]」)
- ④ **【印刷位置】**
印刷位置調整値が表示されます。
(74 「印刷位置を調整する [印刷位置]」)

■ データ原稿の場合



- ① **原稿データ操作エリア**
[再製版]：印刷中のマスターが劣化したときなどに、製版をやり直せます。
(75 「製版をやり直す [再製版]」)
その他の表示項目については、製版基本画面の説明をご覧ください。

スキャン基本画面

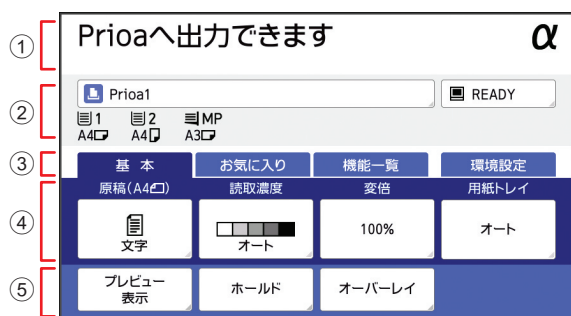
紙原稿を本機でスキャンして、データとして保存するための設定画面です。



- ① **メッセージエリア**
本機の状態や操作指示が表示されます。
[終了] をタッチすると、スキャンした原稿データが保存されます。
- ② **基本情報エリア**
保存する原稿データの情報を設定できます。
[データ名] (99)
[保存場所] (99)
[オーナー] (100)
- ③ **タブボタン**
各タブをタッチすると、タブ画面を切り替えられます。
- ④ **機能設定エリア**
設定できる機能のボタンが表示されます。
- ⑤ **POP エリア**
よく使う機能を登録しておくくと便利です。
(93 「よく使う機能をユーザーごとに登録する [認証 POP 登録]」)
(118 「よく使う機能を [基本] タブ画面に登録する [POP 登録]」)

RLP 基本画面

紙原稿を本機でスキャンして、ネットワーク上の連携機（別売）でプリントするための設定画面です。



① メッセージエリア

本機の状態や操作指示が表示されます。

② 連携機情報エリア

- 使用する連携機（Prtoa）を選択できます。
- 選択した連携機のトレイ情報が表示されます。
- [■] には、パソコンから受信した原稿データの状態が表示されます。このボタンをタッチすると、[受信ジョブ] 画面が表示されます。
([図 34 「パソコンからプリントする」](#))

③ タブボタン

各タブをタッチすると、タブ画面を切り替えられます。

④ 機能設定エリア

設定できる機能のボタンが表示されます。

⑤ POP エリア

よく使う機能を登録しておくくと便利です。

([図 93 「よく使う機能をユーザーごとに登録する \[認証 POP 登録\]」](#))

([図 118 「よく使う機能を \[基本\] タブ画面に登録する \[POP 登録\]」](#))

[名称入力] 画面

文字入力が必要な場面で表示されます。



① カーソル移動ボタン

文字を入力する場所を左右に移動できます。

② 1 文字消去ボタン

タッチすると、1 文字ずつ消去できます。

③ 文字種類切替ボタン

入力する文字の種類を切り替えられます。

④ 文字ボタン

タッチすると、文字を入力できます。

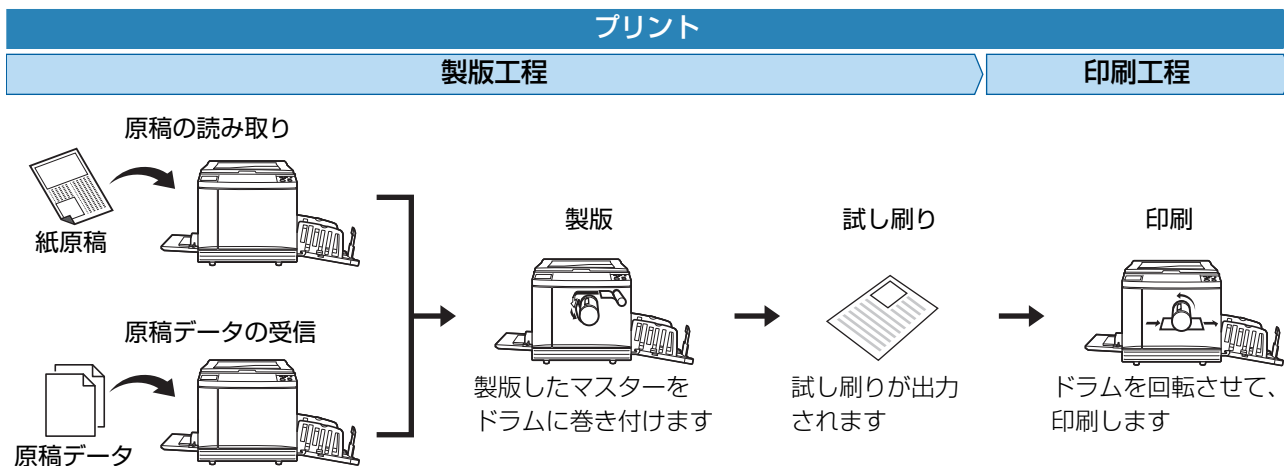
プリントの流れ

「製版」と「印刷」

本機は、孔版印刷方式のデジタル印刷機です。孔版印刷とは、印刷の元となるマスター（版）に細かい孔（あな）を開け、そこから押し出したインクを用紙に転写する印刷方式です。

孔版印刷では、マスターを作ること「製版」、製版されたマスターを通してインクが染み出し、用紙に画像が転写されることを「印刷」と呼びます。

また、本書では、この「製版」と「印刷」の工程をまとめて「プリント」と呼びます。



「連続」とは

製版工程と印刷工程を続けて行うことを「連続」と呼びます。

「連続」の ON/OFF は、操作パネルの「連続」キー（ 21）を押すことで切り替えられます。

■「連続」が ON の場合

製版工程の後に、続いて印刷工程が始まります。

印刷完了後、自動原稿送り装置（オプション）に次の原稿がある場合には、次の原稿の製版が始まります。

（原稿台ガラスに原稿をセットした場合は、印刷完了後に停止します。）

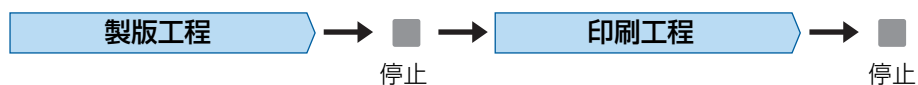
試し刷りの確認や、印刷条件、製版条件の変更が必要ない場合に設定します。



■「連続」が OFF の場合

試し刷りの後と印刷完了後に、本機の動作が停止します。

試し刷りを確認して印刷条件を変更したり、用紙を交換したりする場合に設定します。





第 2 章

2

基本操作

概要

この章では、以下の手順についてご説明します。

■ 準備のしかた

プリント前の準備 (図 28)

給紙台と用紙をセットする手順、および排紙台をセットする手順をご説明します。

原稿をセットする (図 31)

原稿を、原稿台ガラスと自動原稿送り装置（オプション）のそれぞれにセットする手順をご説明します。

■ 操作のしかた

紙原稿をプリントする (図 32)

紙の原稿を読み取ってプリントする手順をご説明します。

パソコンからプリントする (図 34)

本機に接続されているパソコンから原稿データをプリントする手順をご説明します。

紙原稿をデータとして保存する (図 37)

紙原稿を本機のスキャナーで読み取って、原稿データとして保存する手順をご説明します。
また、原稿データを本機に保存するためのメモリーカードを装着する手順もご説明します。

保存された原稿データをプリントする (図 39)

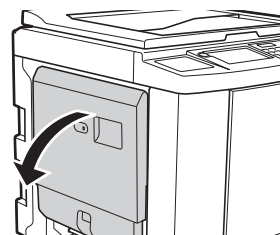
保存されている原稿データをプリントする手順をご説明します。

プリント前の準備

給紙台と用紙のセット

1 給紙台を開く

給紙台に手を添えたまま、止まるまで開きます。



2 給紙台に用紙を置く

用紙は、印刷する面を上にしします。用紙をセットする向きは、原稿の向きと合わせます。

(図 31 「原稿をセットする」)



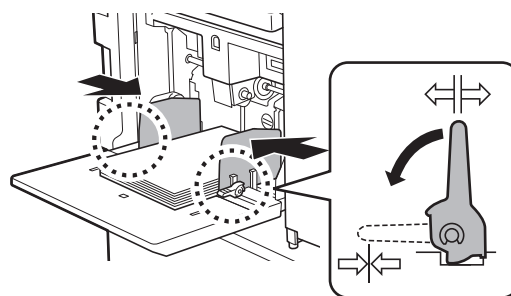
▶ 不適切な用紙の使用や、サイズが異なる用紙の混載はしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

(図 14 「用紙について」)

3 給紙フェンスを調節する

給紙フェンスの左右にあるロックレバーを立てると、給紙フェンスを手でスライドできます。

給紙フェンスを用紙にぴったりと合わせた後、左右のロックレバーを倒して固定します。

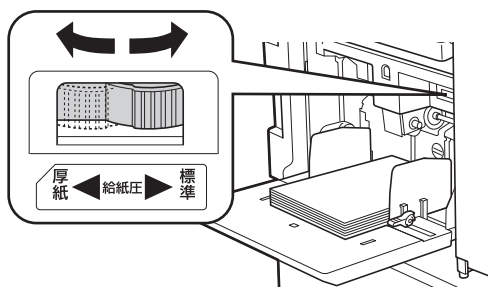


▶ 本機は、給紙フェンスの位置によって用紙サイズを識別しています。給紙フェンスを用紙にぴったりと合わせていないと、用紙サイズが正しく識別されません。

▶ 不定形サイズ of 用紙を使用する場合は、操作パネルで用紙サイズを指定してください。
(図 53 「不定形の用紙を使う【用紙サイズ】」)

4 給紙圧を調節する

用紙の紙質に合わせて、給紙圧レバーを切り替えます。

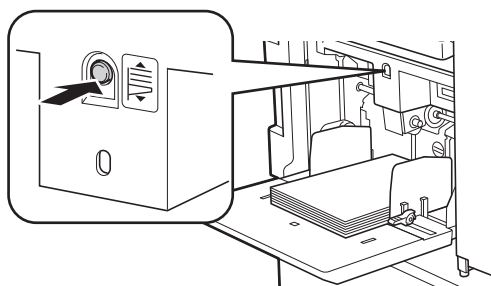


レバー	紙質
標準	理想用紙、更紙、上質紙など
厚紙	画用紙などの厚紙、滑りやすい用紙

参考 ▶ 製版基本画面の「用紙」の横に、給紙圧レバーの位置が表示されます。

■ 用紙の追加と載せ替え

印刷の途中で用紙の追加や載せ替えを行うときは用紙の出し入れをしやすい位置まで給紙台を下げてから行います。給紙台上下ボタン (18) を押し続けると、指を離した位置で給紙台が止まります。



- ▶ 紙質が異なる用紙に載せ替えたときは、給紙圧レバーを切り替えてください。
- ▶ サイズが異なる用紙に載せ替えたときは、排紙フェンスとストッパーも調節してください。



- ▶ 用紙がなくなったときや用紙をすべて取り除いたときは、給紙台が自動で最下部まで下がります。

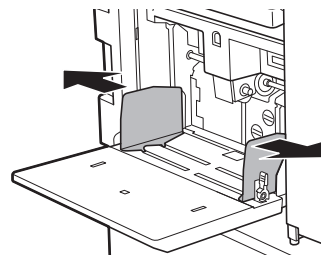
■ 給紙台の閉じかた

1 用紙をすべて取り除く

用紙を取り除いた後、給紙台が最下部まで下がったことを確認します。

2 給紙フェンスを端まで広げる

給紙フェンスのロックレバーを立て、給紙フェンスを手でスライドさせます。

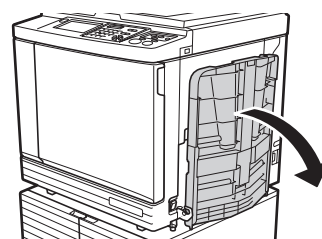


3 給紙台を閉じる

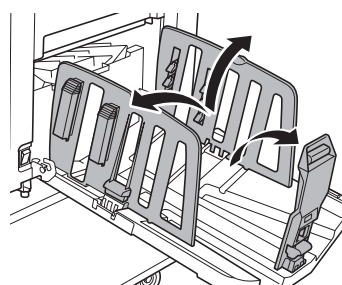
排紙台のセット

1 排紙台を開く

排紙台に手を添えたまま、止まるまで開きます。



2 排紙フェンスとストッパーを立てる

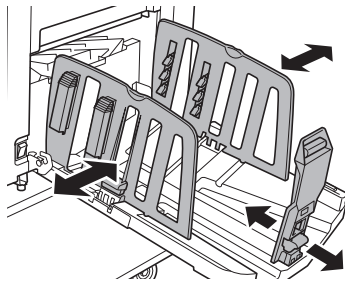


3 排紙フェンスとストッパーを用紙サイズに合わせる

排紙フェンスとストッパーは、下部を持ってスライドします。

排紙台についている目盛を目安として調節します。

ストッパーは、定形サイズの位置でカチカチと止まります。



- ▶ 排紙フェンスの最適な位置は、紙質、印刷速度、使用環境などによって異なります。排紙台についている目盛は目安とし、印刷物の紙揃え状態に応じて排紙フェンスの位置を調整してください。
- ▶ 厚紙を使用するときは、排紙フェンスを用紙の幅より少し広めにセットしてください。
- ▶ 印刷速度を [160ppm] または [190ppm] にする場合は、ストッパーを用紙サイズより広めにセットしてください。目安は以下の通りです。

用紙サイズ	ストッパー
A3	全開
B4	「A3」の位置

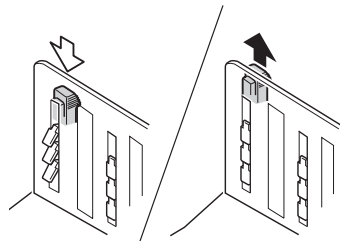


- ▶ オートフェンス排紙台（オプション）をお使いの場合は、製版または印刷の動作開始時に、用紙サイズに応じて排紙フェンスとストッパーの位置が自動的に調整されます。

4 紙揃えプレートを調節する

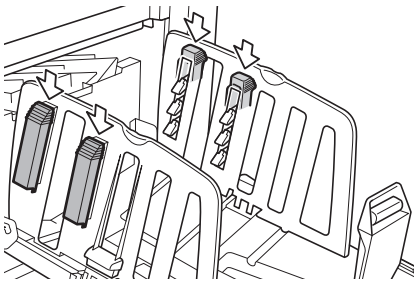
印刷物が揃うように、用紙に合わせて紙揃えプレートを調節します。

- 紙揃えプレートを出すときは、紙揃えプレートノブを押します。
- 紙揃えプレートをたたむときは、紙揃えプレートノブを引き上げます。



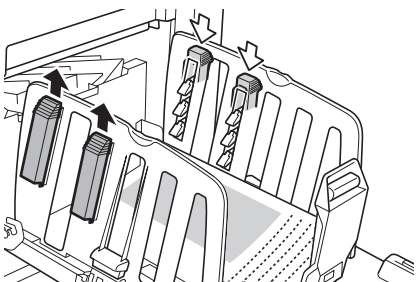
■ 通常の場合

4つの紙揃えプレートをすべて出します。



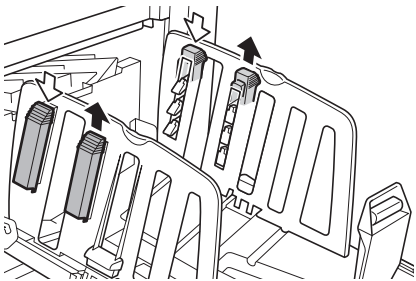
■ 印刷部分が片寄っている場合

塗りつぶし面が多い側の紙揃えプレートだけを出します。



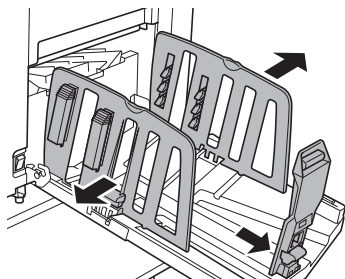
■ 厚い用紙の場合

本体に近い側の紙揃えプレートだけを出します。



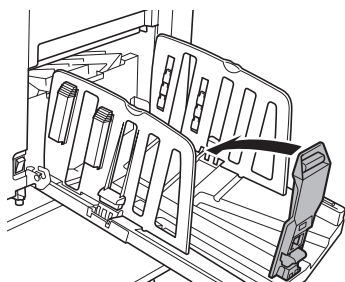
■ 排紙台の閉じかた

- 1 印刷物をすべて取り除く
- 2 排紙フェンスとストッパーを端まで広げる

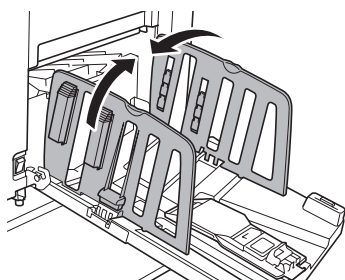


参考 ▶ オートフェンス排紙台（オプション）をお使いの場合は、排紙フェンスオープンボタン（ 20）を押すと、排紙フェンスとストッパーが端まで広がります。

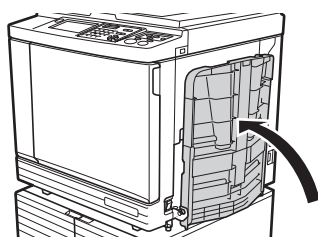
- 3 紙揃えプレートをすべてたたむ
- 4 ストッパーを内側に倒す



- 5 排紙フェンスを内側に倒す



- 6 排紙台を閉じる



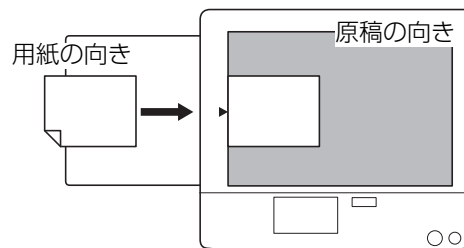
原稿をセットする

原稿台ガラスまたは自動原稿送り装置（オプション）を使って、原稿を読み取ることができます。

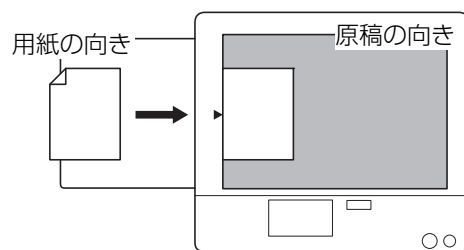
■ 原稿と用紙の向き関係

原稿と用紙の向きは、以下のように合わせます。

短辺給紙



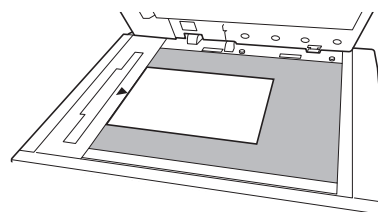
長辺給紙



参考 ▶ [N アップ]（ 54）、[連写]（ 56）または[かんたん連写]（ 59）の設定時は、設定に応じて原稿と用紙をセットする向きが異なります。

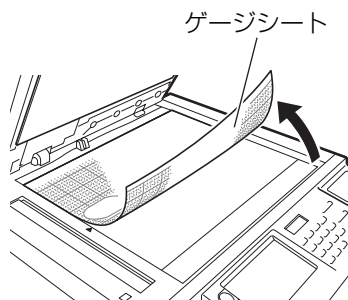
原稿台ガラスにセットする場合

- 1 原稿台カバーを開ける
- 2 原稿を原稿台ガラスに載せる
原稿の読み取り面を下向きにして、中央を[▶]マークに合わせます。



参考

- ▶ ゲージシートが装着されている場合は、ゲージシートの下に原稿をセットします。ゲージシートは右下からめくれます。



3 原稿台カバーを閉じる

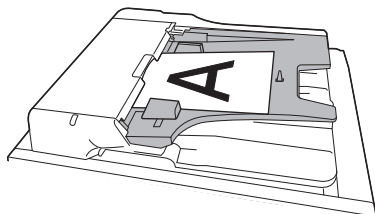
重要

- ▶ 原稿台カバーは静かに閉じてください。原稿台カバーを勢いよく閉じると、原稿台ガラスの破損や原稿読み取りエラーが発生する原因となります。

自動原稿送り装置にセットする場合

1 原稿を自動原稿送り装置に載せる

原稿の読み取り面を上向きにします。



重要

- ▶ 自動原稿送り装置は、セットできる原稿の種類と枚数に制限があります。
([図 13](#) 「原稿について」)

2 原稿セットフェンスを原稿の幅に合わせる

重要

- ▶ 本機は、原稿セットフェンスの位置によって原稿サイズを識別しています。原稿セットフェンスを原稿にぴったりと合わせていないと、原稿サイズが正しく識別されません。

紙原稿をプリントする

ここでは、紙の原稿を読み取ってプリントする操作手順を説明します。

1 本機の電源が ON になっていることを確認する

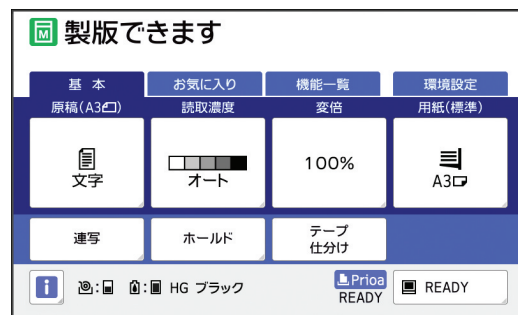
電源スイッチの [I] を押します。

参考

- ▶ 認証画面 ([図 22](#)) が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

2 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、[製版] キー ([図 21](#)) を押します。



3 原稿をセットする

([図 31](#) 「原稿をセットする」)

参考

- ▶ 製版基本画面の [原稿] に、セットした原稿のサイズが表示されます。セットした原稿と異なるサイズが表示されている場合は、再度セットします。

4 用紙を確認する

([図 28](#) 「給紙台と用紙のセット」)

参考

- ▶ 製版基本画面の [用紙] に、セットした用紙のサイズが表示されます。セットした用紙と異なるサイズが表示されている場合は、再度セットします。
- ▶ 製版基本画面の [用紙] の横に、給紙圧レバーの位置 ([図 29](#)) が表示されます。

5 排紙台を確認する

([図 29](#) 「排紙台のセット」)

6 [連続] の設定を確認する

([図 26](#) 「[連続] とは」)



- ▶ 自動原稿送り装置（オプション）に原稿をセットすると、[連続] が自動的に ON になります。
[環境設定] の [AF 連続自動設定] ([図 112](#)) で、初期設定を変更できます。

7 製版条件を設定する

([図 44](#) 「製版するときに設定する機能」)

([図 84](#) 「便利な機能」)

8 テンキーで印刷枚数を入力する



- ▶ 連携機 PrioA（別売）を接続してお使いの場合、印刷枚数に応じて出力先が切り替わる [自動振分] 機能が働きます。
([図 104](#) 「連携機を利用する」)

9 [スタート] キーを押す

製版が開始され、試し刷りが 1 枚排出されます。

- ・ [連続] が ON の場合：手順 12 へ進みます。
- ・ [連続] が OFF の場合：手順 10 へ進みます。



- ▶ アイドリング（インクをなじませる動作）が自動的に実行されることがあります。
[環境設定] の [オートアイドリング] ([図 115](#)) で、設定を変更できます。

10 印刷条件を設定する

試し刷りを見て、印刷位置や濃度などを確認します。

([図 72](#) 「印刷するときに設定する機能」)



- ▶ [試し刷り] キーを押すと、再度試し刷りで仕上がりを確認できます。
- ▶ 長期間使用していないとドラム上のインクが乾き、プリントしたときに色がかすれたり薄くなったりすることがあります。その場合は、インクをなじませるため、何枚か試し刷りをしてください。[試し刷り] キーを押し続けると、連続して試し刷りできます。

11 [スタート] キーを押す

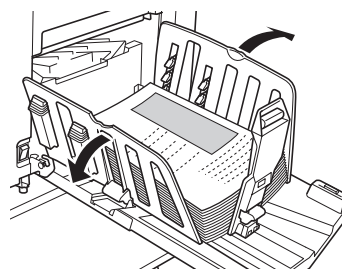
印刷が開始されます。



- ▶ 印刷を中断したいときは、[ストップ] キーを押します。

12 印刷物を取り出す

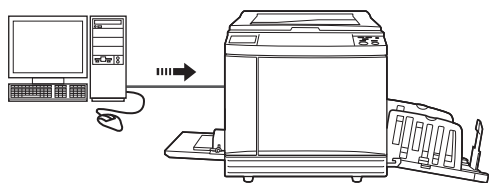
排紙フェンスを外側に倒すと、印刷物を取り出しやすくなります。



- ▶ 追加印刷したい場合は、印刷枚数を入力して [スタート] キーを押します。
- ▶ 次の原稿の製版に移りたい場合は、手順 3 から繰り返します。
- ▶ 自動原稿送り装置（オプション）に原稿をセットした場合、[AF オート製版] ([図 112](#)) が ON のときは自動で次の原稿の製版が始まります。原稿ごとに手順 10 から繰り返します。
- ▶ 認証状態を解除するには、[ウェイクアップ] キーを押します。
[オートスリープ設定] ([図 114](#)) または [オートクリア設定] ([図 114](#)) で設定された時間が経過しても、解除されます。
- ▶ オートフェンス排紙台（オプション）をお使いの場合は、排紙フェンスオープンボタン ([図 20](#)) を押すと、排紙フェンスとストッパー（初期設定では排紙フェンスのみ*）が広がり、印刷物を取り出しやすくなります。
*：[環境設定] の [排紙フェンス取出位置] ([図 115](#)) で、設定を変更できます。

パソコンからプリントする

パソコンで作成した原稿データを、本機でプリントできます。



重要

▶ あらかじめ、パソコンに本機専用のプリンタードライバーをインストールしておく必要があります。

1 本機の電源を ON にする

電源スイッチの [I] を押します。

参考

▶ 認証画面 (図 22) が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

2 用紙を確認する

(図 28 「給紙台と用紙のセット」)

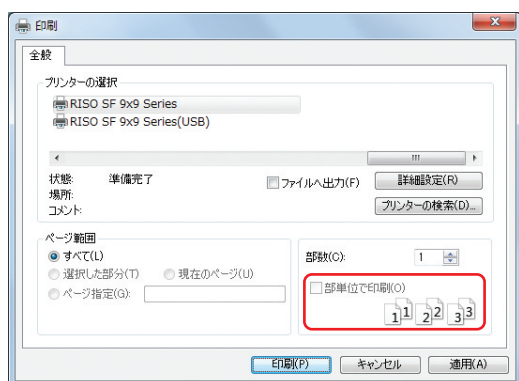
3 排紙台を確認する

(図 29 「排紙台のセット」)

4 パソコンの印刷ダイアログボックスでプリント条件を設定する

[プリンターの選択] でお使いの印刷機名を選択し、[部数] を入力します。

■ 印刷ダイアログボックスの例



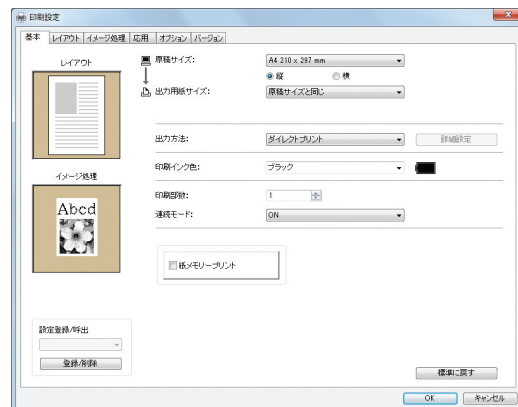
重要

▶ [部単位で印刷] のチェックを外してください。チェックが入っていると、1 枚印刷するたびに製版が繰り返されます。

5 [印刷設定] *1 画面で各種設定をする

印刷ダイアログボックスで [詳細設定] *1 をクリックし、以下の設定をします。

* 1：画面名とボタン名は、お使いのアプリケーションソフトにより異なることがあります。



■ [基本] タブ画面

[連続モード]：製版前・印刷前に、一時停止して各種設定、用紙の交換などができます。

■ [応用] タブ画面

[認証プリント]：機密性の高い原稿をプリントする場合に設定すると便利です。

■ その他のプリント設定

詳しくは、「リソープリンタードライバー取扱説明書」(DVD-ROM) をご覧ください。

6 [OK] をクリックする

印刷ダイアログボックスに戻ります。

7 [印刷] *2 をクリックする

プリンタードライバーの設定内容で原稿データがプリントされます。

* 2：ボタン名は、お使いのアプリケーションソフトにより異なることがあります。

・ [連続モード] が [ON] の場合：製版に続いて印刷が開始されます。

・ [連続モード] が [OFF] の場合：設定に応じて、必要な操作をします。

(図 35 「[連続モード] が [OFF] の場合」)

参考

▶ 手順 5 で [認証プリント] の設定をした場合、以下のページを参照して、必要な操作をします。

(図 36 「[認証プリント] が設定されている場合」)

▶ アイドリング (インクをなじませる動作) が自動的に実行されることがあります。[環境設定] の [オートアイドル] (図 115) で、設定を変更できます。

【連続モード】が【OFF】の場合

プリンタードライバーで選択した【連続モード】の設定に応じて、操作が異なります。

■【OFF- 製版前ストップ（オート印刷）】のとき

各ページの製版前に一時停止します。

製版後、印刷は自動で行われます。

1 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、
【製版】キー（ 21）を押します。

参考

▶【受信ジョブ】画面が表示されている場合は、手順3へ進みます。

2 【出力待ち】をタッチする



3 【出力】をタッチする



4 製版条件を確認する

（[図 22](#) 「タッチパネルの表示について」）



5 【スタート】キーを押す

製版後、印刷が開始されます。

試し刷りの後は一時停止しません。

印刷が終わると、次ページの製版が開始される前に、一時停止します。ページごとに手順4～5を繰り返します。

■【OFF- 印刷前ストップ（オート製版）】のとき

各ページの製版は自動で行われ、試し刷りが1枚印刷されて一時停止します。

1 印刷条件を確認する

試し刷りを見て、印刷位置や濃度などを確認します。必要に応じて各種設定をします。

2 【スタート】キーを押す

印刷が開始されます。

印刷が終わると、次ページの製版が開始され、試し刷りの後に一時停止します。ページごとに手順1～2を繰り返します。

■【OFF- 製版前、印刷前ストップ】のとき

各ページの製版前と印刷前に、一時停止します。

1 「【OFF- 製版前ストップ（オート印刷）】のとき」の手順1～3を行う

2 製版条件を確認する

（[図 22](#) 「タッチパネルの表示について」）

3 【スタート】キーを押す

製版が開始されます。

製版が終わると、試し刷りの後に一時停止します。

4 印刷条件を確認する

試し刷りを見て、印刷位置や濃度などを確認します。必要に応じて各種設定をします。

5 【スタート】キーを押す

印刷が開始されます。

印刷が終わると、次ページの製版が開始される前に一時停止します。ページごとに手順2～5を繰り返します。

【認証プリント】が設定されている場合

1 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、
[製版] キー (図 21) を押します。

参考 ▶ [受信ジョブ] 画面が表示されている場合は、手順 3 へ進みます。

2 [出力待ち] をタッチする



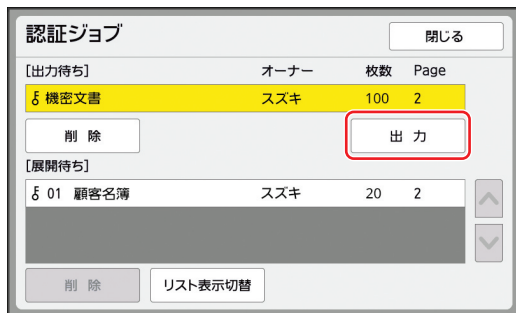
3 [認証ジョブ] をタッチする



画面の指示に従って認証操作をします。

参考 ▶ 【認証プリント】が設定されているジョブしかない場合は、手順 3 の画面は表示されません。手順 4 に進んでください。

4 [出力] をタッチする



5 製版条件を確認する

(図 22 「タッチパネルの表示について」)

6 [スタート] キーを押す

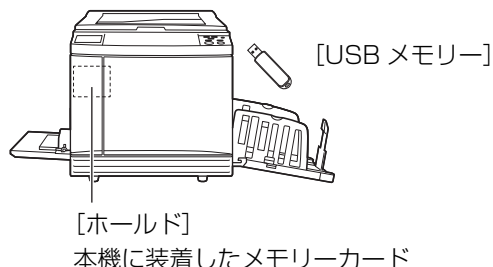
プリントが開始されます。

- [連続モード] が [ON] の場合：製版に続いて印刷が開始されます。
- [連続モード] が [OFF] の場合：設定に応じて、必要な操作をします。

(図 35 「[連続モード] が [OFF] の場合」)

紙原稿をデータとして保存する

紙原稿を本機のスキャナーで読み取って、[ホールド] または [USB メモリー] に保存できます。



原稿データを保存しておくと、以下のように活用できます。

- 原稿データを本機でプリントする
(39 「保存された原稿データをプリントする」)
- 原稿データを紙原稿に合成してプリントする
(68 「原稿データを紙原稿に合成する [オーバーレイ]」)



- ▶ [ホールド] を使用するには、本機にメモリーカードを装着する必要があります。
- ▶ 保存した原稿データは、本機独自のファイル形式です。「理想 USB メモリマネージャー」や「理想かんたんパレット SP」で使用できます。
- ▶ RISO コントローラ IS300 (オプション) を接続している場合、スキャンモードで読み取った原稿データは IS300 に保存されます。[ホールド] や [USB メモリー] には保存できません。

メモリーカードの装着

[ホールド] を使用するには、本機にメモリーカードを装着する必要があります。

装着されていない場合は、市販のメモリーカードをお買い求めください。

以下の種類のカードを使用できます。

- SD カード



- SDHC カード



- ▶ 天災や不測の事態により、カード内のデータが損傷した場合、保証はいたしかねます。重要なデータは、作成元のパソコンでバックアップをとっておくことをおすすめします。

1

本機の電源を OFF にする

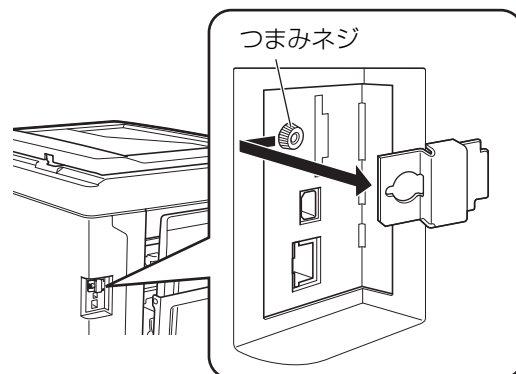
電源スイッチの [O] を押します。

2

カードスロットのカバーを取り外す

つまみネジを、手で反時計回りに回してゆるめます。

カバーを左にスライドしてから、取り外します。



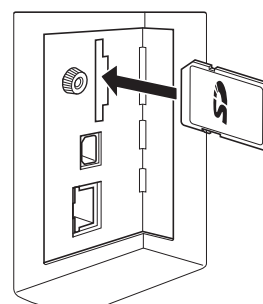
- ▶ 図示部分以外のネジは、ゆるめたり外したりしないでください。

2

3

カードをスロットに挿入する

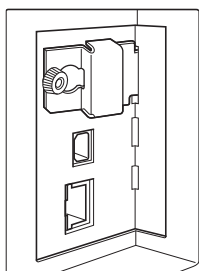
カードを図の向きにして、カチッと音がするまで挿入します。



- ▶ カードは、必ず正しい向きで挿入してください。間違った向きで挿入すると、故障の原因となります。
- ▶ 挿入する前に、カードの書き込み禁止を解除してください。
カードの側面や背面に「LOCK」などと記載されたスイッチがある場合は、スイッチをスライドして解除します。

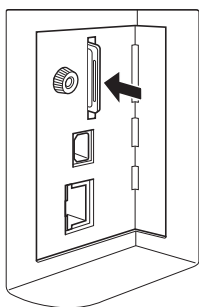
4 カバーを取り付ける

カバーを元の位置に戻し、つまみネジを時計回りに回して締めます。



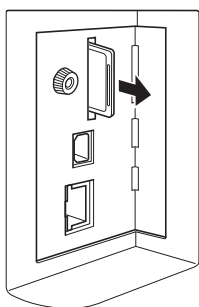
メモリーカードの取り出し

1 カチッと音がするまでカードを押し込む



2 ゆっくりと指を離す

カードが出てきます。
カードを指でつまんで引き出します。



紙原稿のスキャン

1 スキャンモードに切り替える

[ホーム] 画面 (図 22) で [スキャン] をタッチします。

2 保存するデータの情報を設定する

- [データ名] (図 99)
- [保存場所] (図 99)
- [オーナー] (図 100)

スクリーンショット: スキャンできます (1ページ目)

データ名: scan_0001

保存場所: 1_FOLDER オーナー: Owner-1

基本: 原稿 (A3) 機能一覧: 読取濃度 変倍: 100% 環境設定: サイズ

文字: オート プレビュー表示 フックモード

3 原稿をセットする

(図 28 「給紙台と用紙のセット」)

4 読取条件を設定する

(図 98 「スキャンするときに設定する機能」)

5 [スタート] キーを押す

原稿の読み取りが開始されます。
原稿が複数枚ある場合は、手順 3 ～ 5 を繰り返します。

参考 ▶ 原稿を自動原稿送り装置 (オプション) にまとめてセットした場合は、すべての原稿に同じ読取条件が適用されます。

6 [終了] をタッチする

1 つのデータとして保存したい原稿の読み取りが終了したら、[終了] をタッチします。
保存するかどうかを確認する画面が表示されます。

7 [はい] をタッチする

原稿データが保存されます。

参考 ▶ スキャンモードを終了するには、[ホーム] キーを押します。

保存された原稿データをプリントする

以下の方式で保存された原稿データを、プリントできます。

- [ホールド]：本機に保存された原稿データ
 - 紙原稿からの保存方法は以下をご覧ください。
([図 37](#)「紙原稿をデータとして保存する」)
 - パソコンからの保存方法は「リソープリンタードライバー取扱説明書」(DVD-ROM)をご覧ください。
- [USB メモリー]：USB メモリーに保存された原稿データ
 - 紙原稿からの保存方法は以下をご覧ください。
([図 37](#)「紙原稿をデータとして保存する」)
 - パソコンからの保存方法は「リソープリンタードライバー取扱説明書」(DVD-ROM)をご覧ください。
- [USB メモリー (自動製版)]：プリンタードライバーで USB メモリーに保存された原稿データ (最小限の操作でプリントできます)
 - 保存方法は「リソープリンタードライバー取扱説明書」(DVD-ROM)をご覧ください。

[ホールド] からのプリント

1 本機の電源を ON にする

電源スイッチの [I] を押します。

参考 ▶ 認証画面 ([図 22](#)) が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

2 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、[製版] キー ([図 21](#)) を押します。

3 用紙を確認する

([図 28](#)「給紙台と用紙のセット」)

4 排紙台を確認する

([図 29](#)「排紙台のセット」)

5 [機能一覧] タブ画面で、[ホールド] をタッチする

6 プリントしたい原稿データをタッチする

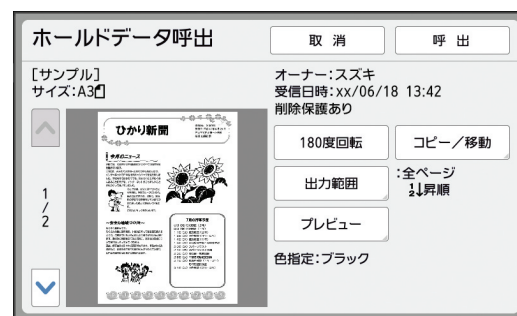


- 別のフォルダーに保存されている原稿データを選ぶ場合は、フォルダーのタブをタッチします。
- 原稿データが 6 件以上ある場合は、[^] [v] をタッチしてリストを切り替えます。

参考 ▶ 原稿データの種類に応じて、以下のアイコンが表示されます。
📄：[デジタイザ] で編集された原稿データ

7 [詳細表示] をタッチする

8 プリントする原稿データを確認する



参考 ▶ 原稿データの操作については、以下のページをご覧ください。
([図 66](#)「保存された原稿データを操作する [ホールド] [USB メモリー]」)

9 「[呼出]」をタッチする

10 「[連続モード]」の設定を確認する

選択できる設定は「パソコンからプリントする」(図 34)と同じです。



11 その他の操作を行う

製版基本画面の操作については、以下のページをご覧ください。

(図 22 「タッチパネルの表示について」)

12 テンキーで印刷枚数を入力する

13 「[スタート]」キーを押す

- ・「[連続モード]」が「[ON]」の場合：製版に続いて印刷が開始されます。
- ・「[連続モード]」が「[OFF]」の場合：設定に応じて、必要な操作を行います。

(図 35 「[連続モード]」が「[OFF]」の場合)

参考 ▶ アイドリング（インクをなじませる動作）が自動的に実行されることがあります。
[環境設定] の [オートアイドル] (図 115) で、設定を変更できます。

「[USB メモリー]」からのプリント

以下の設定で USB メモリーに保存された原稿データをプリントします。

- ・ USB メモリープリント専用のプリンタードライバーで、[出力方法] を [USB メモリーへ出力] に設定。

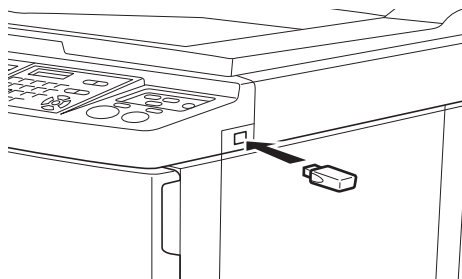


▶ 上記以外の方法で保存された原稿データ（PDF ファイルなど）はプリントできません。

1 本機の準備をする

「[ホールド]」からのプリント (図 39) の手順 1～4 を行います。

2 原稿データが保存された USB メモリーを USB スロットに挿入する



▶ USB メモリーは、プリントが終了するまで抜かないでください。
途中で抜くと、データの消失や設定内容の消失、または USB メモリーの故障の原因になります。

3 プリントしたい原稿データをタッチする



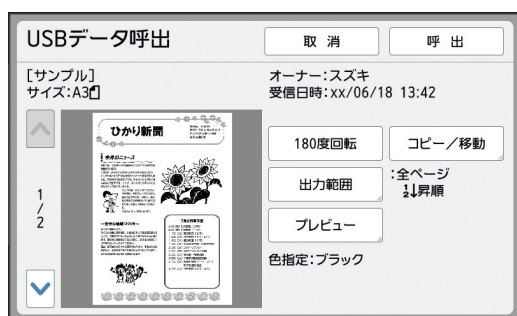
- ・ 別のフォルダーに保存されている原稿データを選ぶ場合は、フォルダーのタブをタッチします。
- ・ 原稿データが 6 件以上ある場合は、[^] [v] をタッチして切り替えます。



▶ 「[USB データ選択]」画面が自動的に表示されない場合は、[機能一覧] タブ画面で「[USB メモリー]」をタッチしてください。

4 「詳細表示」をタッチする

5 プリントする原稿データを確認する



- 参考** ▶ 原稿データの操作については、以下のページをご覧ください。
 (66 「保存された原稿データを操作する [ホールド] [USB メモリー]」)

6 「呼出」をタッチする

以降の操作は、「[ホールド] からのプリント」の手順 10～13 に従います。

【USB メモリー (自動製版)】からのプリント

以下の設定で USB メモリーに保存された原稿データをプリントします。

- USB メモリープリント専用のプリンタードライバーで、[出力方法] を [USB メモリーへ出力 (自動製版)] に設定。

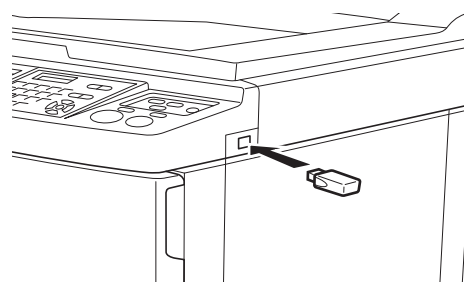


- ▶ 上記以外の方法で保存された原稿データ (PDF ファイルなど) はプリントできません。

1 本機の準備をする

「[ホールド] からのプリント」(39) の手順 1～4 を行います。

2 原稿データが保存された USB メモリーを USB スロットに挿入する



- [連続モード] が [ON] の場合：製版に続いて印刷が開始されます。
- [連続モード] が [OFF] の場合：設定内容に応じて、必要な操作をします。
 (35 「[連続モード] が [OFF] の場合」)



- ▶ USB メモリーは、プリントが終了するまで抜かないでください。
 途中で抜くと、データの消失や設定内容の消失、または USB メモリーの故障の原因になります。



- ▶ 製版後、USB メモリー内の原稿データは自動的に消去されます。

3 USB メモリーを取り外す

プリントが完了したら、USB メモリーを取り外します。

認証データをプリントするには

以下の原稿データを、「認証データ」と呼びます。

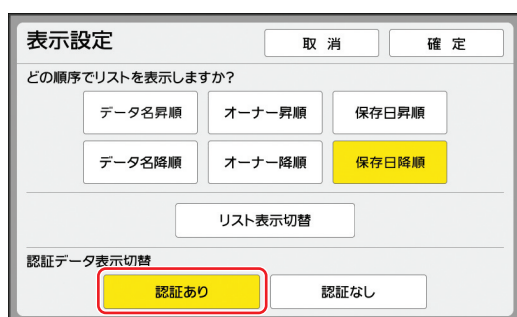
- ・ スキャンモードで「認証する」が設定された原稿データ
([図 37](#)「紙原稿をデータとして保存する」)
- ・ プリンタードライバーで「認証プリント」が設定された原稿データ
設定方法は「リソープリンタードライバー取扱説明書」(DVD-ROM)をご覧ください。

「ホールドデータ選択」画面や「USB データ選択」画面に認証データを表示させるには、以下の手順を行います。

1 「表示設定」をタッチする



2 「認証あり」をタッチする



参考 ▶ 「認証データ表示切替」は、「環境設定」の「認証設定」([図 122](#))で「本体認証、認証プリント」または「認証プリントのみ」が設定されている場合に表示されます。

3 「確定」をタッチする

「ホールドデータ選択」画面または「USB データ選択」画面に、認証データが表示されます。

- ・ 認証データのタブボタンには、「」（カギマーク）アイコンが表示されます。
- ・ 認証データ以外の原稿データを表示させるには、「認証なし」をタッチします。

以降は、「「ホールド」からのプリント」の手順 6 ([図 39](#)) 以降と同様に操作します。



第 3 章

3

製版機能を設定する

製版するときに設定する機能

各機能の詳細や設定手順については、参照ページをご覧ください。

■ 画像処理に関する機能

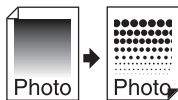
【原稿モード】 (📖 45)

原稿の種類に適した処理を設定できます。



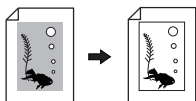
【網点】 (📖 47)

写真の階調を表現するための処理方法を設定できます。



【コントラスト強調】 (📖 47)

明暗がはっきりしない写真を、鮮明な仕上がりにすることができます。



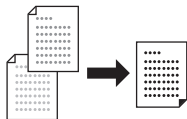
【トーンカーブ選択】 (📖 48)

写真などの明るい部分と暗い部分の調子を調整できます。



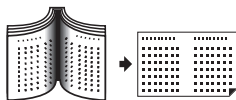
【読取濃度】 (📖 48)

原稿の地色や濃淡にあわせて、読取濃度を調節できます。



【ブックモード】 (📖 49)

冊子のとじ部分の影を消去または薄くできます。



【省インク】 (📖 50)

インク消費量を抑える処理ができます。

【速度優先製版】 (📖 51)

製版時間を短縮できます。

■ レイアウトに関する機能

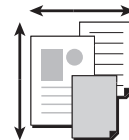
【変倍】 (📖 51)

原稿を拡大または縮小できます。



【用紙サイズ】 (📖 53)

不定形用の紙サイズを選択できます。



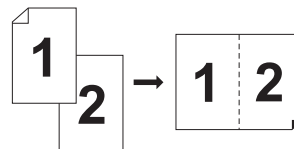
【フルサイズ製版】 (📖 54)

最大印刷範囲に製版できます。



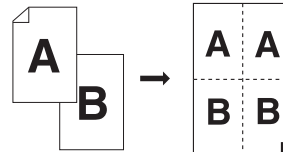
【Nアップ】 (📖 54)

1 枚の用紙に複数ページの原稿を割り付けられます。



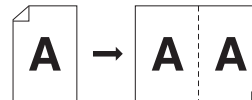
【連写】 (📖 56)

1 枚の用紙に原稿を複数割り付けられます。



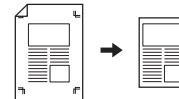
【かんたん連写】 (📖 59)

1 枚の用紙に原稿を 2 面割り付けられます。



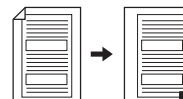
【レイアウト原稿】 (📖 60)

原稿の先端部分をカット（トリミング）できます。



【とじしろ】 (📖 61)

製版位置を調整できます。



■ その他の機能

【プレビュー表示】 (📖 61) 製版前に仕上がりイメージを確認できます。
【AF オート製版】 (📖 62) 自動原稿送り装置にセットされた原稿を、自動的に製版します。 (オプションの自動原稿送り装置が必要です。)
【逆順印刷】 (📖 63) 紙原稿の読み取り順と逆の順序でプリントできます。
【AF 読取面指定】 (📖 64) 自動原稿送り装置 (オプション) を使う場合に、原稿のどの面を読み取るかを設定します。
【紙メモリープリント】 (📖 65) 本機をパソコンに接続できない場合でも、パソコンから直接プリントする時と同じように、高精細にプリントできます。
【ホールド】 【USB メモリー】 (📖 66) 本機または USB メモリーに保存された原稿データを操作します。
【オーバーレイ】 (📖 68) 【ホールド】 または 【USB メモリー】 に保存された原稿データを、紙原稿に合成できます。 

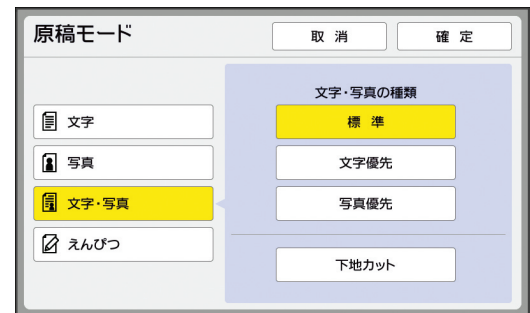
原稿に適した画像処理をする 【原稿モード】

原稿の種類に適した処理を選択することによって、より鮮明な画像を得ることができます。

参考 ▶ 【環境設定】の【原稿モード基本設定】(📖 112)で、初期設定を変更できます。

1 【基本】タブ画面で【原稿】をタッチする

2 原稿の種類を選択する



■ 【文字】

写真を含まない原稿に適しています。

参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。

- 【網点】(📖 47)
- 【コントラスト強調】(📖 47)
- 【トーンカーブ選択】(📖 48)

■ 【写真】

写真の鮮明さを重視したい場合に適しています。

参考 ▶ 【読取濃度】(📖 48)の【オート】とは併用できません。

- ▶ 【網点】(📖 47)で、写真の階調を表現するための処理方法を変更できます。
- ▶ 【コントラスト強調】(📖 47)で、明暗がはっきりしない写真を、鮮明な仕上がりにすることができます。
- ▶ 【トーンカーブ選択】(📖 48)で、明るい部分と暗い部分の調子を調節できます。

■ 【文字・写真】

文字と写真の鮮明さを両立したい場合に適しています。

参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。

- 【読取濃度】(📖 48)の【オート】
- 【コントラスト強調】(📖 47)
- ▶ 【網点】(📖 47)で、写真の階調を表現するための処理方法を変更できます。
- ▶ 【トーンカーブ選択】(📖 48)で、明るい部分と暗い部分の調子を調節できます。

■【えんぴつ】

えんぴつで書かれた原稿や、朱肉のスタンプなどの薄い原稿に適しています。

参考

▶ 以下の機能とは併用できません。

- [網点] (47)
- [読取濃度] (48) の [オート]
- [コントラスト強調] (47)

▶ [トーンカーブ選択] (48) で、明るい部分と暗い部分の調子を調節できます。

3 詳細な種類を選択する

[文字] 以外を選択した場合は、詳細な種類を選択します。

■【写真】を選択した場合

種類	説明
[標準]	下記の「顔写真」に該当しない場合に適しています。
[顔写真]	2人までのバストアップ写真に適しています。 (特に顔がきれいにプリントされるように画像処理します。)

■【文字・写真】を選択した場合

種類	説明
[標準]	文字と写真をバランスよく再現したい場合に適しています。色のついた原稿にも適しています。
[文字優先]	文字の鮮明さを際立たせたい場合に適しています。建物や金属の光沢のように、コントラストがハッキリした写真を含む場合にも適しています。
[写真優先]	食品や人物のように、階調の滑らかさを重視したい写真を含む場合に適しています。
[下地カット]	原稿の下地色を消去します。 新聞紙のように下地色のある原稿に適しています。 [下地カット] は、他の選択肢と同時に選択できます。

■【えんぴつ】を選択した場合

種類	説明
[こいめ]	薄い文字を鮮明にしたい場合に適しています。
[うすめ]	薄い文字を鮮明にすることと、切り貼りの影を抑えることを両立したい場合に適しています。

4 【確定】をタッチする

写真の階調の処理方法を選択する [網点]

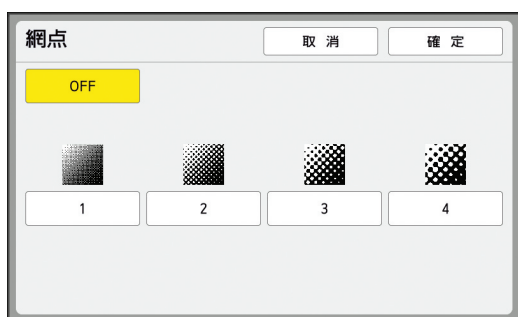
写真の階調を表現するための処理方法を設定できます。

参考

▶ [網点] を設定できるのは、[原稿モード] (45) を [写真] または [文字・写真] に設定しているときだけです。

1 [機能一覧] タブ画面で [網点] をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ [OFF]

写真の階調が誤差拡散法で処理されます。不規則に配置される点の密度の変化によって、階調が表現されます。

■ [1] ~ [4]

写真の階調が網点で処理されます。規則的に配置された点の大きさの変化によって、階調が表現されます。線数（1 インチに網点は何個入るか）のパターンを選択できます。線数が高いほど点の配置が細くなるので、階調をなめらかに表現できます。

[1] : 212 線相当

[2] : 106 線相当

[3] : 71 線相当

[4] : 53 線相当

3 [確定] をタッチする

写真の明暗を調節する [コントラスト強調]

明暗がはっきりしない写真を、鮮明な仕上がりにすることができます。

参考

▶ [コントラスト強調] を設定できるのは、[原稿モード] (45) を [写真] に設定しているときだけです。

1 [機能一覧] タブ画面で [コントラスト強調] をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ [OFF]

[コントラスト強調] の処理がされません。

■ [うすめ]

濃い部分が、より鮮明になります。写真全体が暗く、暗い被写体がはっきりしない場合に適しています。

■ [こいめ]

薄い部分が、より鮮明になります。写真全体が明るく、明るい被写体がはっきりしない場合に適しています。

3 [確定] をタッチする

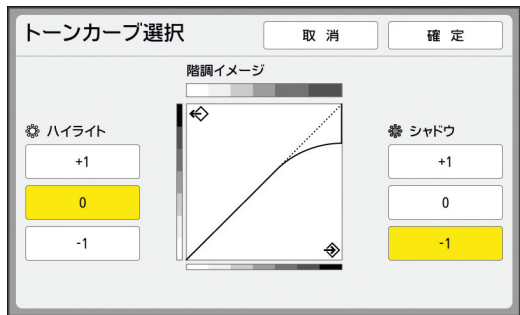
写真の階調を調節する [トーンカーブ選択]

写真の明るい部分と暗い部分の調子を、段階的に調節できます。

参考 ▶ [トーンカーブ選択] を設定できるのは、[原稿モード] (45) を [文字] 以外に設定しているときだけです。

1 [機能一覧] タブ画面で [トーンカーブ選択] をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ [ハイライト]

写真のうち、明るい部分の表現を調節します。

設定	説明
[+1]	明るく表現される範囲が狭くなります。明るい部分の細部が見えやすくなります。
[0]	標準的な処理が適用されます。
[-1]	明るく表現される範囲が広がります。明るい部分の細部が飛ぶことがあります。

■ [シャドウ]

写真のうち、暗い部分の表現を調節します。

設定	説明
[+1]	暗く表現される範囲が広がります。暗い部分の細部がつぶれることがあります。
[0]	標準的な処理が適用されます。
[-1]	暗く表現される範囲が狭くなります。暗い部分の細部が見えやすくなります。

3 [確定] をタッチする

原稿の読取濃度を調節する [読取濃度]

原稿の下地色や文字の濃淡などに合わせて、読取濃度を調節できます。

参考 ▶ [環境設定] の [読取濃度基本設定] (112) で、初期設定を変更できます。
▶ [省インク] (50) が ON のときは、[読取濃度] は変更できません。

1 [基本] タブ画面で [読取濃度] をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ [オート]

[原稿モード] (45) で [文字] を選択している場合にだけ、選択できます。

[オート] に設定すると、原稿の下地色に合わせて、最適な読取濃度に調節されます。

■ [1] ~ [5]

5段階で調節できます。

[1] に設定すると、最も薄くなります。

[5] に設定すると、最も濃くなります。

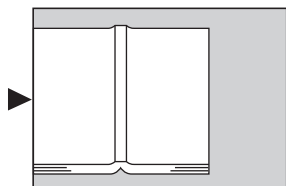
3 [確定] をタッチする

冊子になっている原稿を使う [ブックモード]

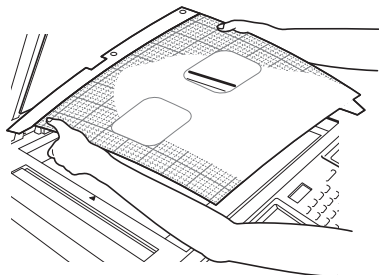
冊子のように中央でとじられている原稿を読み取る場合に、とじ部分の影を消去したり、薄くしたりすることができます。



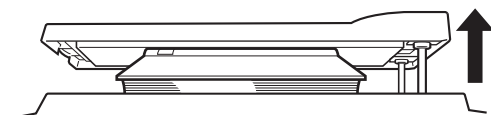
- ▶ 原稿は、必ず原稿台ガラスのセンターにあわせて下図の向きでセットしてください。



- ▶ ゲージシートが装着されている場合は、外してください。ゲージシートを装着したまま[ブックモード]を使用すると、周囲が黒く製版されてしまいます。



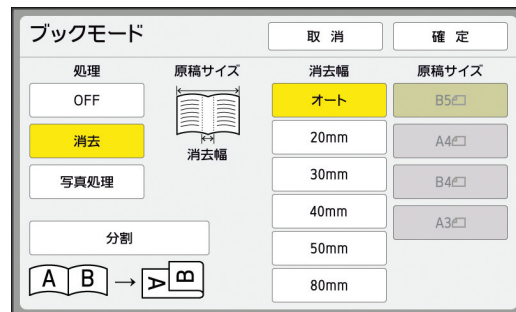
- ▶ 厚い冊子を読み取る場合は、原稿台カバーのヒンジを引き上げると、冊子を水平に押さえることができます。



- ▶ 以下の機能とは併用できません。
- [とじしろ] (61)
 - [AF 読取面指定] (64)
 - [省インク] (50)
 - [読取濃度] (48) の [オート]
 - [N アップ] (54)
 - [連写] (56)
 - [かんたん連写] (59)
 - [速度優先製版] (51)

1 [機能一覧] タブ画面で [ブックモード] をタッチする

2 処理方法を選択する

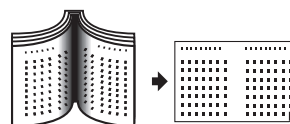


■ [OFF]

[ブックモード] の処理をしません。

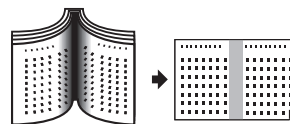
■ [消去]

とじ部分の影と、原稿の周りの影を消去します。



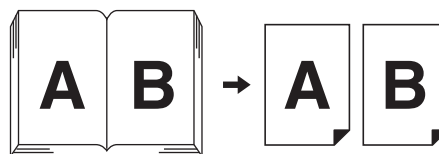
■ [写真処理]

とじ部分の影を写真処理で薄くし、原稿の周りの影を消去します。



■ [分割]

見開きページを左右に分割して読み取ります。(下図の例の場合、[B] のページが先にプリントされます。)



3 消去幅を選択する

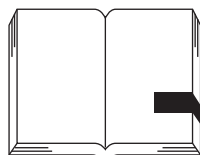
■ [オート]

とじ部分が自動的に検知され、消去幅が算出されます。

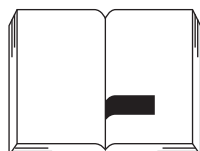


- ▶ [オート] を選択すると、以下の画像部分も消去または写真処理されます。

- 原稿の周囲から続いている黒い画像



- とじ部分から続いている黒い画像



■ [20mm] ~ [80mm]

[消去] の場合にだけ選択できます。



- ▶ [オート] 以外を選択すると、原稿の周りの影は消去されません。

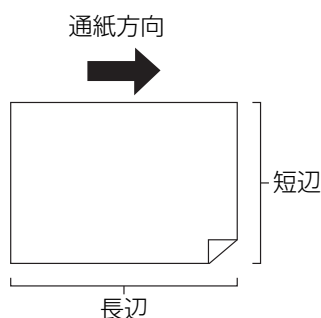
4 原稿サイズを選択する

[消去幅] で [オート] 以外を選択した場合は、原稿となる冊子を開いた状態のサイズを選択してください。

選択した [原稿サイズ] の中央部分が消去されます。

5 [確定] をタッチする

[分割] を設定した場合、用紙は短辺給紙になるようにセットします。



- ▶ [分割] を設定した場合、原稿の読み取りは2回行われます。読み取りが終わるまで、原稿を動かさないでください。

インクを節約する [省インク]

[省インク] を ON にして製版すると、印刷時のインク消費量を通常より減らすことができます。



- ▶ [省インク] を ON にすると、印刷濃度が薄くなります。
- ▶ 印刷時に [省インク] の設定を変更しても、ドラムにセットされている製版済みのマスターには反映されません。[省インク] の設定変更は、次の製版時に反映されます。

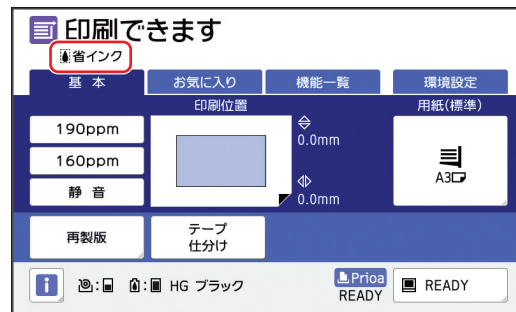


- ▶ [省インク] が ON のとき、以下の機能は設定変更できません。
- [読取濃度] (48)
- [印刷濃度] (73)
- [ブックモード] (49)
- [プレビュー表示] (61)
- [オーバーレイ] (68)

1 [機能一覧] タブ画面で [省インク] をタッチする



- ▶ [省インク] を ON にして製版した場合は、メッセージエリアに [省インク] アイコンが表示されます。

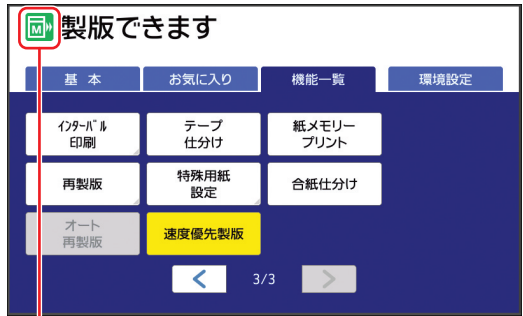


製版時間を短縮する [速度優先製版]

製版時間を短縮できます。

- 重要** ▶ [速度優先製版] を ON にして製版すると、印刷画像が低解像度になります。
- 参考** ▶ [環境設定] の [速度優先製版基本設定] (113) で、初期設定を変更できます。
- ▶ 以下の機能とは併用できません。
- [変倍] (51)
 - [N アップ] (54)
 - [連写] (56)
 - [かんたん連写] (59)
 - [ブックモード] (49)
 - [とじしろ] (61)
 - [プレビュー表示] (61)
 - [デジタイザ]
 - [紙メモリープリント] (65)
 - [ホールド] (66)
 - [USB メモリー] (66)
 - [オーバーレイ] (68)
- ▶ [速度優先製版] を設定しているときは、[環境設定] の [自動 90 度回転] (114) は動きません。

1 [機能一覧] タブ画面で [速度優先] をタッチする



[速度優先製版] を ON にすると、メッセージエリアのアイコンが変わります。

[速度優先製版]	アイコン
OFF	
ON	

原稿を拡大／縮小する [変倍]

原稿を拡大または縮小して読み取ることができます。

- 重要** ▶ 製版範囲より外側の画像はプリントされません。(16 「製版範囲」)
- 参考** ▶ [環境設定] の [変倍基本設定] (112) で、初期設定を変更できます。
- ▶ [環境設定] の [周囲余白縮小率] (114) で、[周囲余白] の縮小率を変更できます。
- ▶ 以下の機能とは併用できません。
- [速度優先製版] (51)

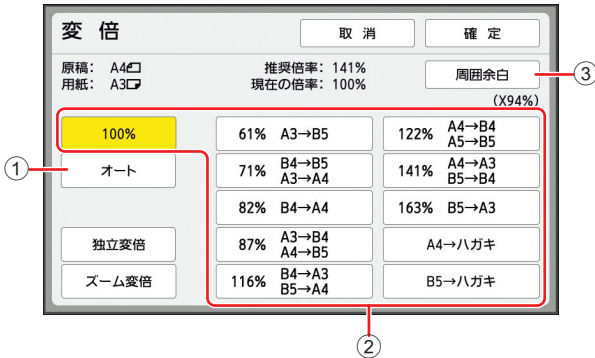
設定のしかたは、以下の 3 種類から選択できます。

- [固定変倍]：変倍率を選択するだけで設定できます。
- [独立変倍]：天地と左右の変倍率を、任意に設定できます。
- [ズーム変倍]：天地と左右の比率を変えずに、任意の変倍率を設定できます。

[固定変倍]

1 [基本] タブ画面で [変倍] をタッチする

2 設定したい変倍率をタッチする



- ① [オート]：給紙台にセットされている用紙サイズに合わせて、自動的に拡大／縮小されます。原稿と用紙の両方が定形サイズの場合にだけ使えます。
- ② [固定変倍]：定形サイズから定形サイズへの代表的な変倍率から選択できます。
- ③ [周囲余白]：選択されている変倍率に、さらに周囲余白の縮小率を掛け合わせます。

参考

- ▶ [A4 → ハガキ] [B5 → ハガキ] [オート] [独立変倍] [ズーム変倍] を選択しているときは、[周囲余白] は選択できません。
- ▶ [N アップ] (54)、[連写] (56) または [かんたん連写] (59) を設定しているときは、[変倍] の [オート] [A4 → ハガキ] [B5 → ハガキ] は使用できません。
- ▶ [A4 → ハガキ] は、原稿を自動原稿送り装置にセットしたときは使用できません。

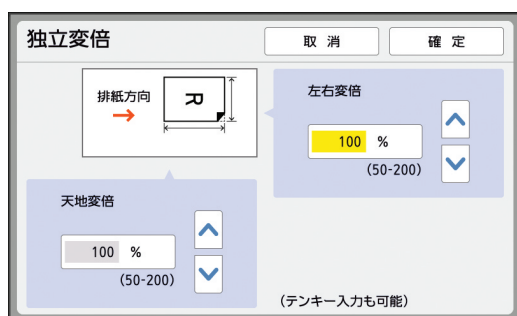
3 [確定] をタッチする

[独立変倍]

1 [基本] タブ画面で [変倍] をタッチする

2 [独立変倍] をタッチする

3 変倍率を変更する



以下のどちらの方法でも変更できます。

- テンキーで数値を入力する
- [▲] [▼] をタッチする

参考

- ▶ [C] キーを押すと、[100%] に戻ります。

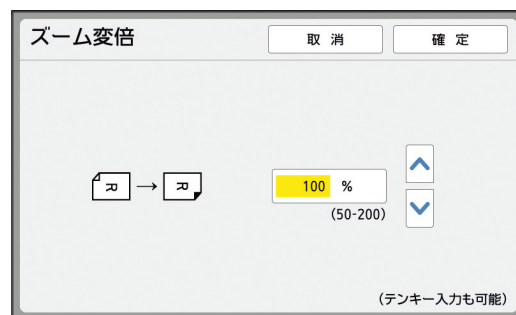
4 [確定] をタッチする

[ズーム変倍]

1 [基本] タブ画面で [変倍] をタッチする

2 [ズーム変倍] をタッチする

3 変倍率を変更する



以下のどちらの方法でも変更できます。

- テンキーで数値を入力する
- [▲] [▼] をタッチする

参考

- ▶ [C] キーを押すと、[100%] に戻ります。

4 [確定] をタッチする

不定形用の紙を使う【用紙サイズ】

給紙台にセットされた用紙が定形（[図 14](#)）であれば、用紙サイズが自動的に検知されて、適切な「製版範囲」（[図 16](#)）に製版されます。

しかし、定形ではない（不定形）用紙サイズは、自動的に検知されません。

製版の前に、適切な用紙サイズを【用紙サイズ】で選択する必要があります。



- ▶ 【用紙サイズ】の設定が【オート】のままでは不定形の用紙を使うと、印刷画像が欠けたり、ドラムが汚れたりする場合があります。



- ▶ 【環境設定】の【用紙サイズ登録】（[図 120](#)）で、使用する用紙サイズを登録しておく必要があります。



- ▶ 「長尺用紙」を使うには、オプションの排紙台 W が必要です。給紙台と排紙台のセット方法については、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。
- ▶ 紙質によっては、通紙できない場合や、印刷画像の位置によって部分的に汚れが発生する場合があります。詳しくは、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。

1 【基本】タブ画面で【用紙】をタッチする

2 使用する用紙のボタンをタッチする



- ▶ 定形サイズの用紙を使う場合は、【オート】を選択します。

3 【確定】をタッチする

■「長尺用紙」（奉書など）を使う場合

【H】（天地の長さ）が 436mm ～ 555mm の用紙を「長尺用紙」と呼びます。

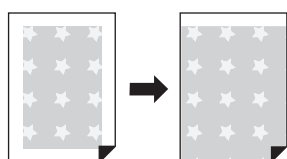
【用紙サイズ】画面で「長尺用紙」を選択すると、本機は「長尺モード」で動作します。

- 「長尺モード」のときは、印刷のタイミングや速度が、通常の印刷時とは異なります。
- 「長尺モード」のときは、メッセージエリアに【長尺】と表示されます。

余白を最小限にする [フルサイズ製版]

本機は、用紙サイズの内側に余白ができるように製版範囲を制限しています。これは、本機内部のローラーがインクで汚れたり、紙づまりを起こしたりすることを防ぐためです。

[フルサイズ製版] を ON にすると、製版範囲を用紙サイズで制限せずに、本機の「最大印刷範囲」(図 16) に製版できます。



重要 ▶ [フルサイズ製版] を ON にしても、用紙の先端から 5mm の範囲は製版されません。

1 [機能一覧] タブ画面で [フルサイズ製版] をタッチする

- 重要**
- ▶ 製版する前に、原稿パッドと原稿台ガラス全体に汚れがないかを確認してください。原稿の外側にある汚れも製版されるので、本機内部のローラーがインクで汚れる原因になります。
 - ▶ 原稿台カバーをしっかりと閉めて製版してください。原稿台カバーに隙間があると、原稿の影が製版されて、本機内部のローラーがインクで汚れる原因になります。
 - ▶ 製版された画像よりも小さい用紙は使わないでください。本機内部のローラーがインクで汚れ、以降の印刷物の裏面に汚れが転写されてしまいます。

1 枚の用紙に原稿を複数ページ割り付ける [N アップ]

1 枚の用紙に複数ページの原稿を割り付けることを [N アップ] といいます。

- 参考**
- ▶ 以下の機能とは併用できません。
 - [速度優先製版] (図 51)
 - [とじしろ] (図 61)
 - [連写] (図 56)
 - [かんたん連写] (図 59)
 - [レイアウト原稿] (図 60)
 - [サイズ] (図 101) の [オート]
 - ▶ [N アップ] を設定しているときは、[環境設定] の [自動 90 度回転] (図 114) は働きません。

■ 仕上がりイメージ

1 枚の用紙に、2 ～ 16 ページ分の原稿を割り付けます。

2 面 4 面 8 面 16 面

1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16

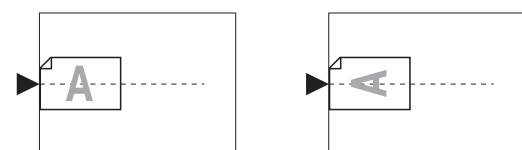
1 原稿をセットする

割り付ける面数に応じて、原稿をセットする向きが異なります。

2 面・8 面の場合：



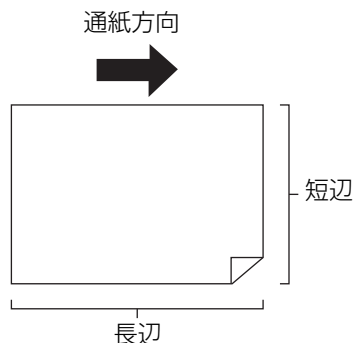
4 面・16 面の場合：



- 重要** ▶ 原稿台ガラスと自動原稿送り装置（オプション）の併用はできません。最初の原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、残りの原稿も原稿台ガラスにセットしてください。

2 用紙をセットする

短辺給紙になるようにセットします。



▶ 定形用紙を使用してください。不定形用紙や【環境設定】でサイズ登録した用紙は、使用できません。

3 排紙台をセットする

( 29 「排紙台のセット」)

4 【機能一覧】タブ画面で【N アップ】をタッチする

5 原稿サイズをタッチする



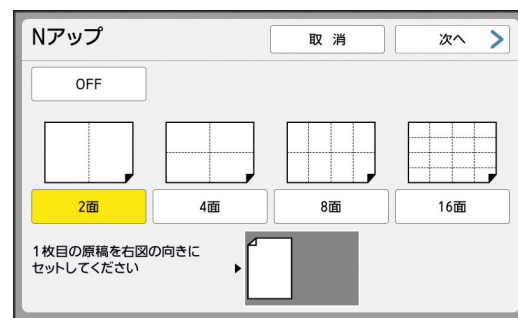
▶ 4面・16面の場合は、 が表示されている原稿サイズをタッチします。



▶ 選択した原稿サイズと、セットされている用紙のサイズから、変倍率が自動的に算出されます。変倍率が50～200%の範囲から外れる組み合わせは使用できません。

6 【次へ】をタッチする

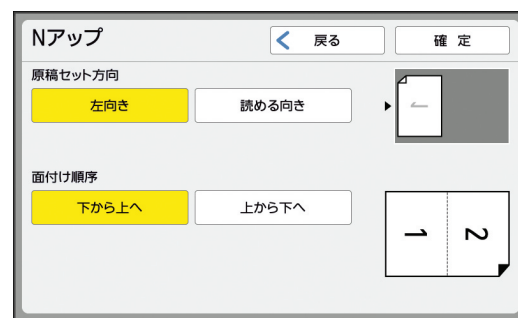
7 割り付ける面数をタッチする



▶ 画面下部に表示されている通りの向きに、原稿がセットされていることを確認します。

8 【次へ】をタッチする

9 【原稿セット方向】と【面付け順序】を設定する



10 【確定】をタッチする

11 その他のプリント条件を設定する

( 44 「製版するときに設定する機能」)



▶ 【N アップ】を解除するには、もう一度手順4を行って設定画面を表示させます。【OFF】をタッチしてから【確定】をタッチします。

12 【スタート】キーを押す

原稿の読み取りが開始されます。

以降は、通常の紙原稿のプリントと同様に操作します。

( 32 「紙原稿をプリントする」)

原稿の読み取り後、次に読み取る原稿をセットして【スタート】キーを押します。

原稿が面数より少ない場合は、すべての原稿を読み取った後、【読取終了】、【はい】の順にタッチします。原稿が足りない部分は空白になります。

1 枚の用紙に原稿を複数割り付ける [連写]

1 枚の用紙に原稿を複数割り付けることを「連写」といいます。用紙を節約したいときや伝言メモ用紙などをプリントするとき便利です。

参考

- ▶ 以下の機能とは併用できません。
 - [ブックモード] (49)
 - [N アップ] (54)
 - [レイアウト原稿] (60)
 - [とじしろ] (61)
 - [速度優先製版] (51)
 - [サイズ] (101) の [オート]
- ▶ [連写] を設定しているときは、[環境設定] の [自動 90 度回転] (114) は動きません。

■ [1 原稿連写]

1 枚の用紙に、1 枚の原稿を複数割り付けます。



■ [多原稿連写]

1 枚の用紙に、2 枚または 4 枚の原稿を複数割り付けます。

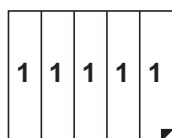


* 1 : 2 枚の原稿を割り付けられます。

* 2 : 4 枚の原稿を割り付けられます。

■ [チケット連写]

チケットのように細長い原稿を、1 枚の用紙に複数割り付けます。



[1 原稿連写] [多原稿連写]

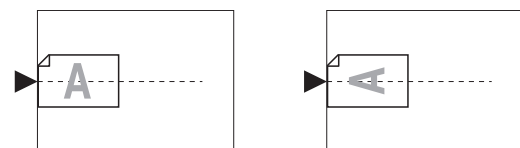
1 原稿をセットする

割り付ける面数に応じて、原稿をセットする向きが異なります。

2 面・8 面の場合：



4 面・16 面の場合：

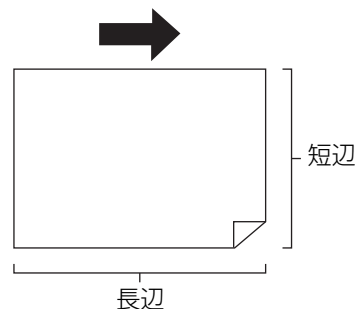


▶ 原稿台ガラスと自動原稿送り装置（オプション）の併用はできません。最初の原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、残りの原稿も原稿台ガラスにセットしてください。

2 用紙をセットする

短辺給紙になるようにセットします。

通紙方向



▶ 定形用紙を使用してください。不定形用紙や [環境設定] でサイズ登録した用紙は、使用できません。

3 排紙台をセットする

(29 「排紙台のセット」)

4 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、[製版] キー (21) を押します。

5 [機能一覧] タブ画面で [連写] をタッチする

6 原稿サイズをタッチする



重要 ▶ 4面・16面の場合は、が表示されている原稿サイズをタッチします。

参考 ▶ 選択した原稿サイズと、セットされている用紙のサイズから、変倍率が自動的に算出されます。変倍率が50～200%の範囲から外れる組み合わせは使用できません。

7 [次へ] をタッチする

8 [1 原稿] または [多原稿] をタッチする



9 [次へ] をタッチする

10 割り付ける面数をタッチする



参考

▶ 画面下部に表示されている通りの向きに、原稿がセットされていることを確認します。

11 [確定] をタッチする

12 その他のプリント条件を設定する

([図 44](#) 「製版するときの設定する機能」)

参考

▶ [連写] を解除するには、もう一度手順5を行って設定画面を表示させます。
[OFF] をタッチしてから [確定] をタッチします。

13 [スタート] キーを押す

原稿の読み取りが開始されます。

以降は、通常の紙原稿のプリントと同様に操作します。

([図 32](#) 「紙原稿をプリントする」)

次の原稿のセットを指示するメッセージが表示された場合は、次に読み取る原稿をセットして [スタート] キーを押します。

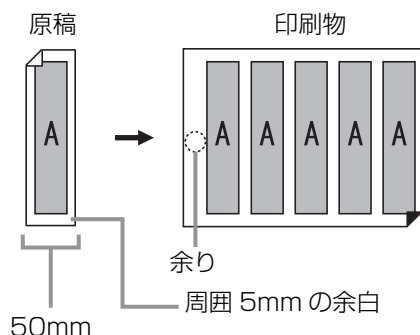
参考

▶ 次の原稿をセットせずに一定時間が経過すると、自動的に製版が始まります。読み取られなかった分は余白になります。
この一定時間を [連写待ち時間] と呼びます。
工場出荷時は 15 秒に設定されています。
[環境設定] の [連写待ち時間] ([図 114](#)) で変更できます。

[チケット連写]

原稿の短辺サイズ（幅）を指定するだけで、割り付けられる面数が自動的に決まります。

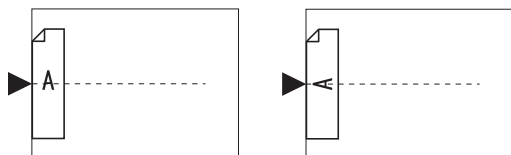
面数は「用紙の長辺サイズ ÷ 原稿の短辺サイズ」で算出されます。余りの部分は余白になります。
原稿の幅は 50 mm ～ 210 mm の間で指定できますが、原稿には周囲 5 mm 以上の余白が必要です。
例：



原稿の短辺 50 mm
用紙の長辺 297 mm (A4 サイズ)
 $297 \div 50 = 5$ 余り 47
用紙に 5 面が割り付けられ、残りが余白となります。

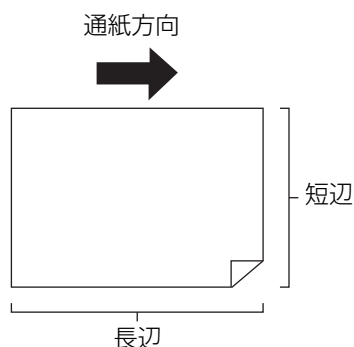
1 原稿をセットする

原稿は原稿台ガラスにセットします。
([図 28 「給紙台と用紙のセット」](#))



2 用紙をセットする

短辺給紙になるようにセットします。



- ▶ 定形用紙を使用してください。不定形用紙や【環境設定】でサイズ登録した用紙は、使用できません。
- ▶ プリント条件の設定（手順 13）で【変倍】をする場合は、拡大・縮小後のサイズに応じた用紙をセットしてください。

3 排紙台をセットする

([図 29 「排紙台のセット」](#))

4 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、
【製版】キー ([図 21](#)) を押します。

5 【機能一覧】タブ画面で【連写】をタッチする

6 任意のサイズをタッチする

どのサイズを選択しても、チケット連写に影響はありません。



7 【次へ】をタッチする

8 【チケット】をタッチする



9 [次へ] をタッチする

10 [ON] をタッチする



11 原稿の短辺（幅）を指定する

以下のどちらの方法でも指定できます。

- ・テンキーで数値を入力する
- ・[$\wedge$] [$\vee$] をタッチする



- ▶ プリント条件の設定 (手順 13) で [変倍] をする場合は、拡大・縮小後のサイズを指定してください。



- ▶ [C] キーを押すと、[50mm] に戻ります。

12 [確定] をタッチする

13 その他の製版条件を設定する

([44](#) 「製版するときに設定する機能」)

([84](#) 「便利な機能」)



- ▶ [連写] を解除するには、もう一度手順 5 を行って設定画面を表示させます。
[OFF] をタッチしてから [確定] をタッチします。

14 [スタート] キーを押す

原稿の読み取りが開始されます。

以降は、通常の紙原稿のプリントと同様に操作します。

([32](#) 「紙原稿をプリントする」)

かんたんに 2 面連写する [かんたん連写]

1 枚の用紙に原稿を複数割り付けることを「連写」といいます。

[かんたん連写] は、[連写] ([56](#)) のうち、1 枚の原稿を 2 面割り付ける連写を、[連写] よりも少ない手順で行える機能です。

参考

- ▶ 以下の機能とは併用できません。
 - ・[ブックモード] ([49](#))
 - ・[N アップ] ([54](#))
 - ・[レイアウト原稿] ([60](#))
 - ・[とじしろ] ([61](#))
 - ・[速度優先製版] ([51](#))
 - ・[サイズ] ([101](#)) の [オート]
- ▶ [かんたん連写] を設定しているときは、[環境設定] の [自動 90 度回転] ([114](#)) は動きません。

■ 仕上がりイメージ



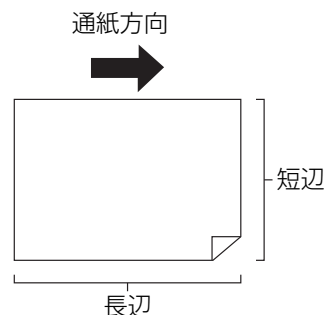
1 原稿をセットする

下図の向きでセットします。



2 用紙をセットする

短辺給紙になるようにセットします。



- ▶ 定形用紙を使用してください。不定形用紙や [環境設定] でサイズ登録した用紙は、使用できません。

3 排紙台をセットする

([29](#) 「排紙台のセット」)

4 製版基本画面が表示されていることを確認する

製版基本画面以外が表示されている場合は、
[製版] キー (21) を押します。

5 [機能一覧] タブ画面で [かんたん連写] をタッチする

6 その他の製版条件を設定する

(44 「製版するときを設定する機能」)

(84 「便利な機能」)

参考 ▶ 縮小または拡大する場合、通常と変倍率が異なります。下表の変倍率を指定してください。

		原稿			
		A4	B5	A5	B6
用紙	A3	100%	116%	141%	163%
	B4	87%	100%	122%	141%
	A4	71%	82%	100%	116%
	B5	61%	71%	87%	100%

		原稿			
		A6	B7	A7	B8
用紙	A3	200%	—	—	—
	B4	173%	200%	—	—
	A4	138%	163%	200%	—
	B5	122%	141%	173%	200%

7 [スタート] キーを押す

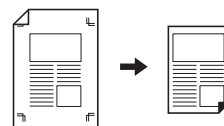
原稿の読み取りが開始されます。
以降は、通常の紙原稿のプリントと同様に操作します。

(32 「紙原稿をプリントする」)

原稿の先端をカットする [レイアウト原稿]

原稿の先端部分をカット（トリミング）できます。

例えば、トンボのある原稿を使う場合に、[レイアウト原稿] で先端のトンボまでの余白をカットします。トンボ内と同じサイズ of 用紙にプリントすると、トンボを省いた印刷物に仕上げることができます。

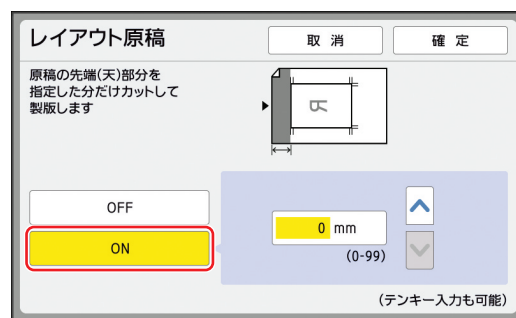


参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。

- [ブックモード] の [分割] (49)
- [N アップ] (54)
- [連写] (56)
- [かんたん連写] (59)
- [オーバーレイ] (68)
- [AF 読取面指定] (64)

1 [機能一覧] タブ画面で [レイアウト原稿] をタッチする

2 [ON] をタッチする



3 カットしたい幅を指定する

以下のどちらの方法でも指定できます。

- テンキーで数値を入力する
- [^] [v] をタッチする

参考 ▶ [C] キーを押すと、[0mm] に戻ります。

4 [確定] をタッチする

製版位置を調整する 【とじしろ】

印刷物をとじるために余白を広げたい場合などに、製版する位置を調整できます。

用紙搬送方向に向かって、余白を広げたい方向を選択し、移動量を指定します。



自動原稿送り装置（オプション）に複数の原稿をセットすると、すべての原稿の位置をずらして製版することができます。

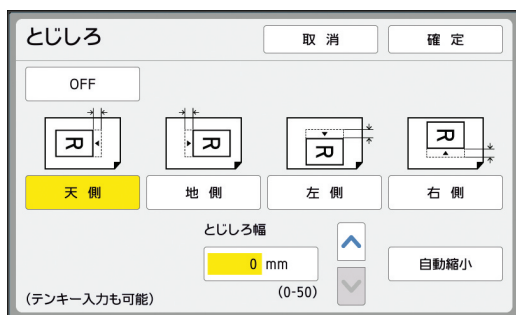
重要 ▶ 原稿に十分な余白がない場合、製版位置をずらすと反対側の画像が欠けてしまうことがあります。

参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。

- [N アップ] (45 54)
- [連写] (45 56)
- [かんたん連写] (45 59)
- [ブックモード] (45 49)
- [オーバーレイ] (45 68)
- [速度優先製版] (45 51)

1 【機能一覧】タブ画面で【とじしろ】をタッチする

2 余白を広げたい側のボタンをタッチする



3 移動量を指定する

以下のどちらの方法でも指定できます。

- テンキーで数値を入力する
- [▲] [▼] をタッチする

参考 ▶ [C] キーを押すと、[0mm] に戻ります。
▶ [自動縮小] にタッチすると、【とじしろ幅】で指定した移動量を除いた面の中央を基準として用紙サイズに収まるように、原稿が縮小されます。

4 【確定】をタッチする

原稿データの画像を確認する 【プレビュー表示】

スキャナーで読み取った原稿や、[ホールド] や [USB メモリー] から呼び出した原稿データの画像を確認できます。

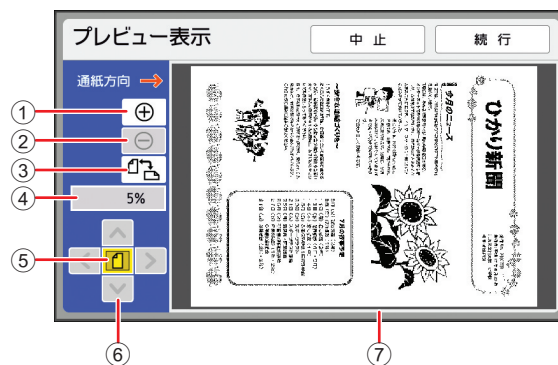
参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。

- [省インク] (45 50)
- [速度優先製版] (45 51)
- [逆順印刷] (45 63)

▶ 以下の機能が設定されているときは、[プレビュー表示] が自動的に [ON] になります。

- [N アップ] (45 54)
- [連写] (45 56)
- [かんたん連写] (45 59)

■ 画面の説明



①	タッチするたびに、段階的に拡大表示されます。
②	タッチするたびに、段階的に縮小表示されます。
③	タッチするたびに、[縦] と [横] が切り替わります。
④	現在の表示倍率です。
⑤	タッチすると、原稿データの全体が画面内に収まる表示倍率になります。
⑥	表示位置を移動できます。
⑦	原稿データの画像が表示されます。

重要 ▶ 【プレビュー表示】では端まで表示されていても、「製版範囲」の外側の画像はプリントされません。十分な余白があることをご確認ください。(45 16「製版範囲」)

■ 画面表示のしかた

「プレビュー表示」画面は、以下の場面で表示できます。

場面	表示のしかた
紙原稿を製版するとき	製版基本画面の「機能一覧」タブ画面で「プレビュー表示」をタッチします。原稿読み取り後に、「プレビュー表示」画面が表示されます。
紙原稿をデータ保存するとき	スキャン基本画面の「機能一覧」タブ画面で「プレビュー表示」をタッチします。原稿読み取り後に、「プレビュー表示」画面が表示されます。
パソコンから受信した原稿データをプリントするとき	原稿データの製版基本画面の「基本」タブ画面で「プレビュー」をタッチします。 重要 ▶「連続モード」が ON の場合は、製版前に止まらないので「プレビュー表示」は使えません。
保存された原稿データをプリントするとき	以下の2通りの方法があります。 ・「ホールドデータ呼出」または「USBデータ呼出」画面で「プレビュー」をタッチします。 ・原稿データの製版基本画面の「基本」タブ画面で「プレビュー」をタッチします。
RLPモード*でプリントするとき	RLP基本画面の「機能一覧」タブ画面で「プレビュー表示」をタッチします。原稿読み取り後に、「プレビュー表示」画面が表示されます。

*：連携機（別売）が必要です。
（ 104 「連携機を利用する」）

「プレビュー表示」の手順

ここでは、紙原稿を製版する場合を例として、操作手順を説明します。

1 「機能一覧」タブ画面で「プレビュー表示」をタッチする

2 製版条件を設定する

（ 44 「製版するときに設定する機能」）
（ 84 「便利な機能」）

3 「スタート」キーを押す

原稿の読み取りが開始されます。
読み取りが完了すると、「プレビュー表示」画面が表示されます。

4 プレビュー表示を確認する

- ・「続行」をタッチすると、製版が開始されます。
- ・「中止」をタッチすると、製版を中止します。

参考 ▶「閉じる」が表示されている場合は、「閉じる」をタッチします。

ページごとに試し刷りを確認する「AF オート製版」

「AF オート製版」は、自動原稿送り装置（オプション）を装着している場合に表示されます。

自動原稿送り装置に原稿をセットする場合、「AF オート製版」を ON にすると、プリントの流れは下図のようになります。



- ・製版後に本機の動作が停止するので、大量に印刷する前に試し刷りを確認することができます。
- ・印刷後は次のページの製版が自動的に開始されるので、効率的に作業を進めることができます。

参考 ▶「AF オート製版」が OFF の場合のプリントの流れは、以下のページをご覧ください。
（ 26 「「連続」とは」）
▶「環境設定」の「AF オート製版基本」（ 112 ）で、初期設定を変更できます。

1 自動原稿送り装置に原稿をセットする
（ 31 「原稿をセットする」）

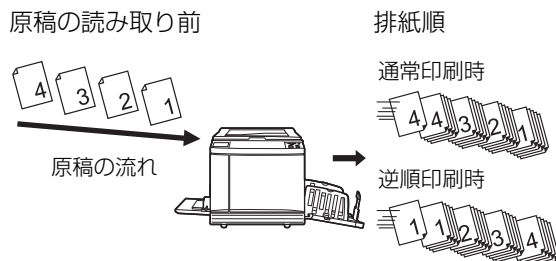
2 「連続」を OFF にする
「連続」が ON になっている場合は、「連続」キーを押して OFF にします。



3 「機能一覧」タブ画面で「AF オート製版」をタッチする
「AF オート製版」が ON になります。

最後のページからプリントする 【逆順印刷】

紙原稿の読み取り順と逆の順序でプリントします。
1 ページ目の印刷物がプリント完了時に排紙台の一番上に来るようにしたい場合に便利です。



- ▶ 【逆順印刷】を使用するには、本機にメモリーカードが装着されている必要があります。
- ▶ 【逆順印刷】は、読み取った原稿データを【ホールド】の領域に一時保存することによって行います。原稿の読み取り中に【ホールド】の空き容量が足りなくなると、メッセージが表示されます。その場合は、【ホールド】に保存されている原稿データを削除して空き容量を確保してから、原稿の読み取りをやり直してください。



- ▶ 以下の機能とは併用できません。
 - [多原稿プログラム] (85)
 - [プレビュー表示] (61)
 - [オーバーレイ] (68)

1 原稿をセットする (31「原稿をセットする」)

2 用紙をセットする (28「給紙台と用紙のセット」)

3 排紙台をセットする (29「排紙台のセット」)

4 【機能一覧】タブ画面で【逆順印刷】を タッチする

5 その他のプリント条件を設定する (44「製版するときに設定する機能」)

6 【スタート】キーを押す

原稿の読み取りが開始されます。
手順1で原稿を原稿台ガラスにセットした場合は、原稿の読み取りが1枚終わるたびに、次に読み取る原稿をセットして【スタート】キーを押します。

7 【読取終了】をタッチする

すべての原稿の読み取りが終わったら、【読取終了】ボタンをタッチします。



製版開始を確認する画面が表示されます。

8 【はい】をタッチする

製版が開始されます。
製版・印刷の基本画面は、データ原稿用のものが表示されます。

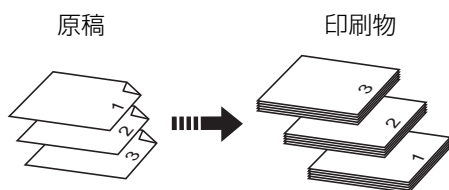
原稿の読取面を設定する [AF 読取面指定]

自動原稿送り装置（オプション）を使う場合に、原稿のどの面を読み取るかを設定します。

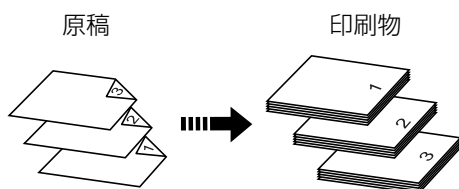
参考

- ▶ [環境設定] の [AF 読取面変更] (112) で、初期設定を変更できます。
- ▶ 以下の機能とは併用できません。
 - [レイアウト原稿] (60)

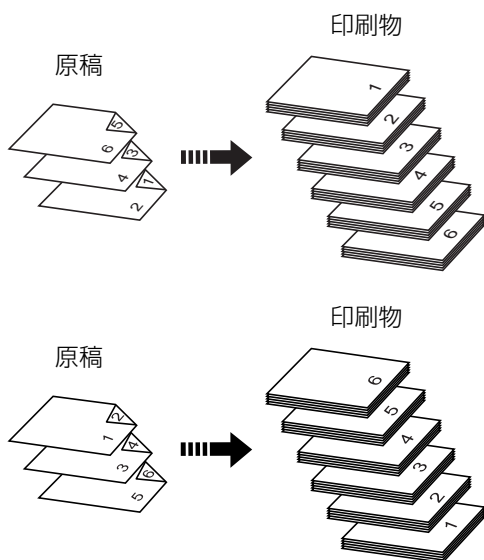
■ [オモテ面→片面]



■ [ウラ面→片面]

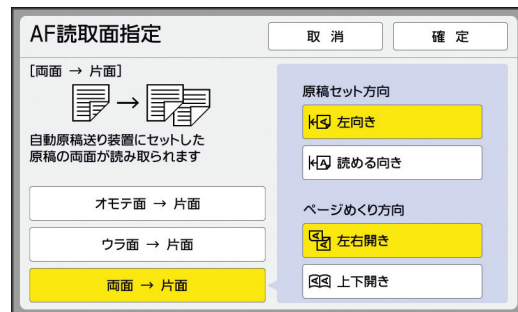


■ [両面→片面]



1 [機能一覧] タブ画面で [AF 読取面指定] をタッチする

2 設定したいボタンをタッチする



■ [オモテ面→片面]

原稿のオモテ面（上面）だけが読み取られます。

重要

- ▶ 以下の機能を使う場合は、必ず [オモテ面→片面] を選択してください。
 - [自動振分] (104)
 - [レイアウト原稿] (60)

■ [ウラ面→片面]

原稿のウラ面（下面）だけが読み取られます。

■ [両面→片面]

原稿の両面が読み取られます。

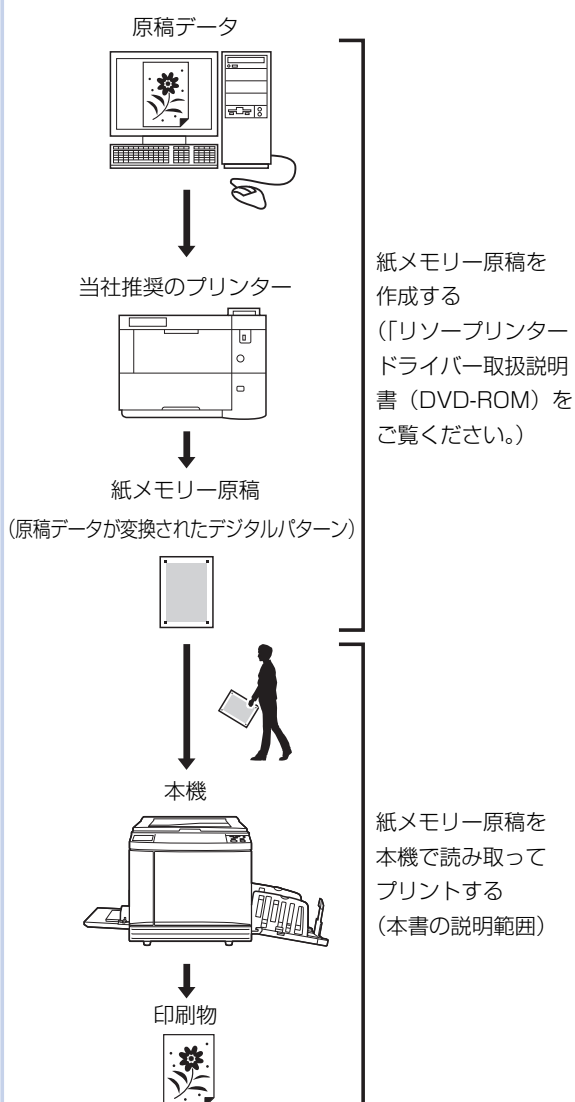
原稿に合わせて、[原稿セット方向] と [ページめくり方向] を設定してください。

3 [確定] をタッチする

紙メモリー原稿を使う [紙メモリープリント]

本機をパソコンに接続できない場合でも、パソコンから直接プリントする時と同じように、高精細にプリントできます。

パソコンで作成した原稿データを、本機のプリンタードライバーの機能を使ってデジタルパターンに変換し、当社推奨のプリンターでプリントすることができます。その紙を「紙メモリー原稿」と呼びます。本機の[紙メモリープリント]機能を使うと、紙メモリー原稿から元の原稿データを再現してプリントすることができます。



ここでは、紙メモリー原稿を本機で読み取ってプリントする操作手順を説明します。



- ▶ 紙メモリー原稿の作成方法については「リソープリンタードライバー取扱説明書」(DVD-ROM)をご覧ください。

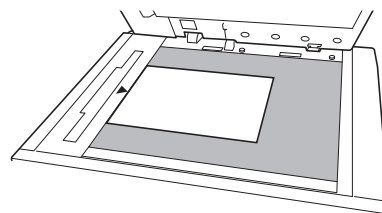
1 用紙をセットする

紙メモリー原稿のヘッダー部を確認し、印字されているサイズの用紙をセットします。

2 紙メモリー原稿を原稿台ガラスにセットする

紙メモリー原稿のヘッダー部分にページ番号「P.1」と印字されていることを確認してください。

プリントされている面を下向きにして、中央を[▶]マークに合わせます。その後、原稿台カバーを閉じてください。



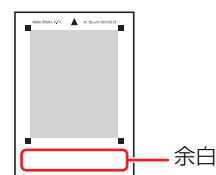
3



▶ 以下の場合、紙メモリー原稿を本機で適切に読み取れないことがあります。

- 原稿台ガラスや原稿パッドに汚れがある。
- 紙メモリー原稿が当社推奨のプリンター以外でプリントされた。
(当社推奨のプリンターについては、販売会社(あるいは保守・サービス会社)にお問い合わせください。)
- 紙メモリー原稿に汚れ、しわ、折れ目などがある。

▶ 紙メモリー原稿にメモなどを書き込む場合は、下図の余白部分をお使いください。それ以外の場所書きこむと、本機で適切に読み取れなくなることがあります。



3 「機能一覧」タブ画面で「紙メモリープリント」をタッチする



4 「スタート」キーを押す

紙メモリー原稿が読み取られます。

- 参考** ▶ 紙メモリー原稿が複数ページにわたる場合は、原稿の読み取りが完了した後、次のページ番号の原稿に入れ替えて「スタート」キーを押してください。

5 原稿の情報を確認する

紙メモリー原稿の読み取りが完了すると、「プレビュー表示」画面（図 61）が表示されます。プリントしたい原稿であることを確認してください。



6 「続行」をタッチする

製版が開始されます。

以降は、通常の紙原稿のプリントと同様に操作します。

（図 32 「紙原稿をプリントする」）

保存された原稿データを操作する 「ホールド」 「USB メモリー」

保存された原稿データを呼び出す画面の使い方について説明します。

ここでは、「ホールドデータ選択」画面を例に説明します。

「USB データ選択」画面でも、操作は同様です。

- 保存方法については、以下のページをご覧ください。
（図 37 「紙原稿をデータとして保存する」）
- プリント方法については、以下のページをご覧ください。
（図 39 「保存された原稿データをプリントする」）

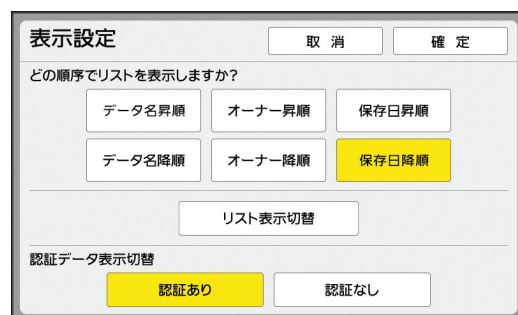
リスト表示形式の変更

1 「機能一覧」タブ画面で「ホールド」をタッチする

2 「表示設定」をタッチする



3 設定を変更する



■ リスト表示の順序

どの順序でリストを表示するかを選択できます。

■ 「リスト表示切替」

リストへの表示項目を切り替えることができます。

OFF：データ名＋オーナー名＋保存日

ON：データ名

■【認証データ表示切替】

【認証あり】：認証データだけをリストに表示します。

【認証なし】：認証データ以外をリストに表示します。

参考 ▶【認証データ表示切替】は、【環境設定】の【認証設定】（[図 122](#)）で【本体認証、認証プリント】が設定されている場合に表示されます。

4 【確定】をタッチする

5 【ホールドデータ選択】画面に戻ります。

原稿データの削除

1 【機能一覧】タブ画面で【ホールド】をタッチする

2 削除したい原稿データをタッチする

原稿データは、複数選択することもできます。



3 【削除】をタッチする

参考 ▶行頭に アイコンが表示されている原稿データには、プリンタードライバーで【削除時に確認する】が設定されています。この原稿データを選択して【削除】をタッチすると、確認画面が表示されます。確認画面で【確定】をタッチすると、削除保護を解除して削除できます。

原稿データの詳細表示

1 【機能一覧】タブ画面で【ホールド】をタッチする

2 確認したい原稿データをタッチする

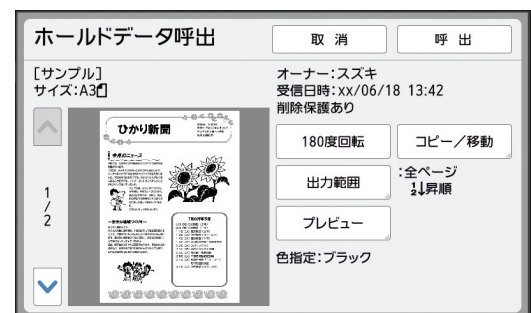
原稿データは、複数選択することもできます。



3 【詳細表示】をタッチする

【ホールドデータ呼出】画面が表示されます。

4 必要に応じて、設定変更する



■【180度回転】：

180度回転させてプリントできます。

■【コピー/移動】：

タッチすると、【コピー/移動】画面が表示されます。原稿データを【ホールド】と【USBメモリ】の間でコピーまたは移動することができます。

■【出力範囲】：

タッチすると、【出力範囲】画面が表示されます。プリント順序（昇順／降順）の切り替え、プリントするページの限定（奇数、偶数、指定ページ）ができます。

■【プレビュー】：

タッチすると、【プレビュー】画面を表示します。原稿データの画像を確認できます。

（[図 61](#)「原稿データの画像を確認する【プレビュー表示】」）

5 「呼出」をタッチする

原稿データをプリントするには、「呼出」をタッチします。

何もせずに画面を閉じるには、「取消」をタッチします。

「USB データ選択」画面への切り替え

「ホールドデータ選択」画面と「USB データ選択」画面を相互に切り替えることができます。

1 「ホールドデータ選択」画面で「USB メモリー」をタッチする



「USB データ選択」画面が表示されます。

参考 ▶ 「USB データ選択」画面で「ホールド」をタッチすると、「ホールドデータ選択」画面に切り替わります。

原稿データを紙原稿に合成する 「オーバーレイ」

「ホールド」または「USB メモリー」に保存された原稿データ（保存データ）を、紙原稿に合成できます。例えば、「見本」のようなスタンプを合成する使いかたができます。

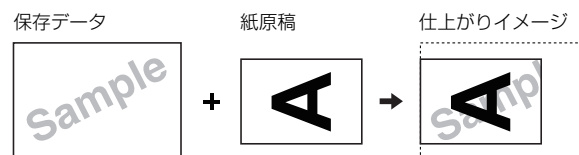
- 参考** ▶ 合成する原稿データを「ホールド」「USB メモリー」に保存する方法については、以下のページをご覧ください。
([図 37](#) 「紙原稿をデータとして保存する」)
- ▶ 以下の機能とは併用できません。
- 「省インク」([図 50](#))
 - 「速度優先製版」([図 51](#))
 - 「レイアウト原稿」([図 60](#))
 - 「とじしろ」([図 61](#))
 - 「逆順印刷」([図 63](#))

■ 仕上がりイメージ



- 保存データは拡大・縮小できません。保存されているサイズのまま合成されます。
- 保存データの合成位置は調整できません。紙原稿の天方向 ([図 14](#)) のセンター合わせで合成されます。

保存データが紙原稿より大きい場合



保存データが紙原稿より小さい場合



1 「機能一覧」タブ画面で「オーバーレイ」をタッチする

2 合成したい原稿データをタッチする

- 「ホールドデータ選択」画面の操作については、以下のページをご覧ください。
([図 66](#) 「保存された原稿データを操作する」
「ホールド」「USB メモリー」)

- USB メモリーに保存されている保存データを合成したい場合は、USB メモリーを挿入してから、[USB メモリー] をタッチします。



3 [詳細表示] をタッチする

[ホールドデータ呼出] 画面 (USB メモリーを使う場合は [USB データ呼出] 画面) が表示されます。

4 [呼出] をタッチする



3

5 プリント操作をする

以降は、通常の紙原稿のプリントと同様に操作します。

(32 「紙原稿をプリントする」)



- ▶ USB メモリーは、プリントが終了するまで抜かないでください。



第4章

印刷機能を設定する

印刷するときに設定する機能

各機能の詳細や設定手順については、参照ページをご覧ください。

■ ハードキーで設定する機能

【速度】 (52)
印刷速度を調節できます。
【濃度】 (73)
印刷濃度を調節できます。
【印刷位置】 (74)
印刷位置を調整できます。

■ タッチパネルで設定する機能

【用紙サイズ】 (53)
不定形の用紙サイズを選択できます。
【インターバル印刷】 (75)
印刷物の裏移りを軽減できます。
【再製版】 (75)
最後に製版した画像を、再度製版できます。
【オート再製版】 (76)
所定枚数を印刷するたびに、自動的に再製版します。
【特殊用紙設定】 (76)
特殊な用紙を使う場合に、給紙と排紙の条件を調整できます。
【排紙ウイング特殊】 (80)
特殊な用紙を排紙しやすくするために、排紙ウイングの位置を調節できます。
【重送検知】 (81)
複数の用紙が重なったまま給紙されていないかの検知機能を ON/OFF できます。

印刷速度を調節する [速度]

印刷速度を調節できます。
印刷前だけでなく、印刷中にも調節できます。

参考 ▶ [環境設定] の [印刷速度基本設定] (112) で、初期設定を変更できます。

1 印刷速度調節キー ([◀] [▶]) を押す



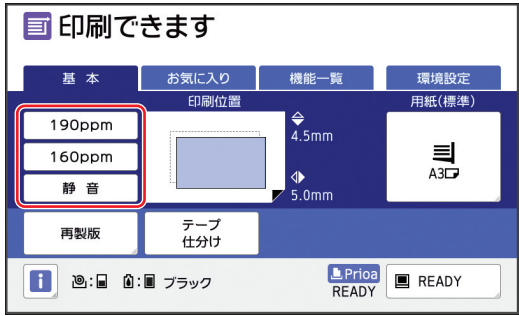
- ・ [◀] キーを押すたびに、1 段階ずつ遅くなります。
- ・ [▶] キーを押すたびに、1 段階ずつ速くなります。

印刷速度ランプの表示と印刷速度の関係は、以下の通りです。

ランプ	印刷速度 (枚/分)
 1 2 3 4 5	約 60 ([静音] *)
 1 2 3 4 5	約 80
 1 2 3 4 5	約 100
 1 2 3 4 5	約 120
 1 2 3 4 5	約 130
 1 2 3 4 5	約 160 ([160ppm] *)
 1 2 3 4 5	約 190 ([190ppm] *)

点灯箇所が順次移動します。

*：印刷画面の各ボタンをタッチすると、ワンタッチで印刷速度を切り替えられます。
[190ppm]：約 190 枚／分で印刷されます。
[160ppm]：約 160 枚／分で印刷されます。
[静音]：約 60 枚／分（速度 1）で印刷されます。



- 重要**
- ▶ [190ppm] と [160ppm] を使用できるのは、ドラム内部の温度が下記のときです。
 - [190ppm]：15℃以上
 - [160ppm]：5℃以上ドラムが冷えている場合は、部屋を暖めたり、速度 [5] 以下でしばらく印刷したりして、ドラム内部が十分な温度になるまでお待ちください。
 - ▶ 印刷速度を [160ppm] または [190ppm] にする場合は、ストッパーを用紙サイズより広めにセットしてください。目安は以下の通りです。

用紙サイズ	ストッパー
A3	全開
B4	「A3」の位置

- ▶ 用紙の種類によっては、紙がつまりやすくなる場合があります。その場合は、速度を下げたて印刷してください。
- 参考**
- ▶ [190ppm] と [160ppm] は、以下の機能とは併用できません。
 - [合紙仕分け] (88)

印刷濃度を調節する [濃度]

印刷濃度を調節できます。
印刷前だけでなく、印刷中にも調節できます。

参考

- ▶ [環境設定] の [印刷濃度基本設定] (112) で、初期設定を変更できます。
- ▶ [省インク] (50) が ON のときは、印刷濃度は変更できません。

1 印刷濃度調節キー（[◀] [▶]）を押す

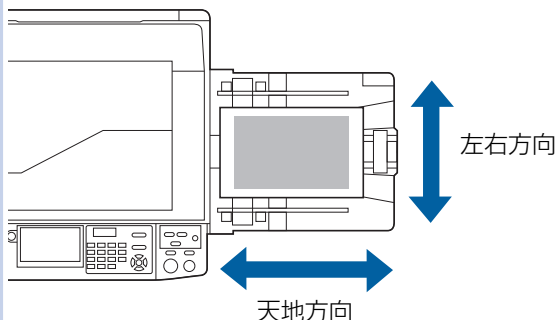


- [◀] キーを押すたびに、1 段階ずつ薄くなります。
- [▶] キーを押すたびに、1 段階ずつ濃くなります。

印刷濃度ランプに、現在の印刷濃度の段階が表示されます。

印刷位置を調整する【印刷位置】

印刷の位置を調整できます。
印刷前だけでなく、印刷中にも調整できます。



1 印刷位置調整キー（[▲] [▼] [◀] [▶]）を押す

キーを押すたびに、印刷画像が約 0.5mm ずつ移動します。



- 参考**
- ▶ [→0←] キーを押すと、標準の位置に戻ります。
 - ▶ 印刷中に標準の位置に戻すには、[→0←] キーを長押ししてください。
 - ▶ [機能一覧] タブ画面の [印刷位置微調整] を ON にすると、印刷位置を約 0.1mm ずつ調整できます。[印刷位置微調整] が表示されていない場合は、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。

参考

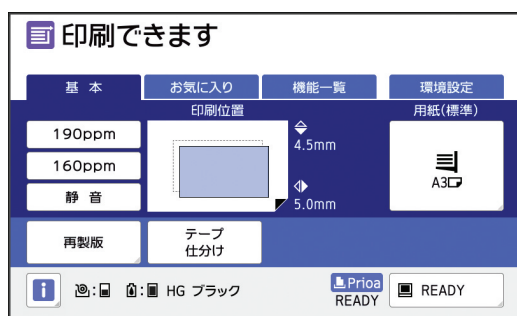
- ▶ 画面に表示される移動量は目安です。調整後は、[試し刷り] キーを押して印刷物を確認してください。

重要

- ▶ 印刷位置は、以下の操作をすると標準に戻ります。
 - [リセット] キーを押す
 - 電源を OFF にする

2 移動量を確認する

タッチパネル画面に、移動量が表示されます。



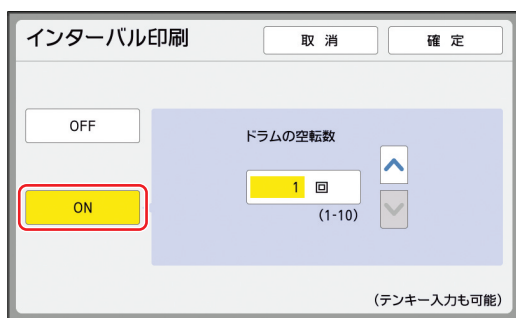
インクの裏移りを抑える [インターバル印刷]

本機では、印刷物が高速で排出されます。そのため、用紙によっては印刷物のインクが十分に乾かず、次の印刷物の裏面にインクが移って汚れてしまうことがあります。これを「裏移り」と呼びます。この場合、次の印刷物が排出されるまでの間隔を長くすることにより、インクが乾く時間をつくり、「裏移り」を抑えることができます。次の印刷物が排出されるまでの間隔は、ドラムを空転させることによって調整します。

参考 ▶ 以下の機能とは併用できません。
• [合紙仕分け] (88)

1 [機能一覧] タブ画面で [インターバル印刷] をタッチする

2 [ON] をタッチする



3 ドラムの空転数を指定する

以下のどちらの方法でも指定できます。

- テンキーで数値を入力する
- [↑] [↓] をタッチする

参考 ▶ [C] キーを押すと、[1 回] に戻ります。

4 [確定] をタッチする

製版をやり直す [再製版]

本機は、最後に製版した画像を一時的に記憶しています。

[再製版] を使うと、その画像を利用して、製版をやり直すことができます。あらためて原稿をセットして設定をやり直す必要がないので便利です。

また、大量に印刷する場合、印刷している間にマスターが劣化してくることがあります。

この場合も [再製版] を実行すると、同じ設定のまま新しいマスターに交換されるので、印刷品質を一定に保つことができます。

参考 ▶ [再製版] は、以下の状態では実行できません。

- 本機の電源を入れた後、一度も製版していない
- [リセット] キーを押した後
- [オートクリア設定] (114) で設定された時間が経過した後
- [機密] を実行した後
- 製版が完了する前にエラーが起きた
- RLP モードでプリントした後
- [自動振分] で、連携機でプリントされた後
- [アイドルング] を実行した後 *

* : [プレビュー表示] [オーバーレイ] [ブックモード] のいずれかが設定されていれば、[再製版] を実行できます。

1 [機能一覧] タブ画面で [再製版] をタッチする

2 必要に応じて [180 度回転] をタッチする



参考 ▶ この画面で設定した [180 度回転] は、[オート再製版] にも適用されます。

3 [実行] をタッチする

製版を自動的にやり直す [オート再製版]

数千枚のように大量に印刷する場合、印刷している間にマスターが劣化してくることがあります。

[オート再製版] を ON にして印刷すると、一定枚数の印刷ごとに自動的に製版がやり直されて、印刷が続けられます。

マスターが劣化する前に新しいマスターに交換されるので、印刷品質を一定に保つことができます。



- ▶ [環境設定] の [オート再製版設定] (115) を [有効] に設定しておく必要があります。

1 [機能一覧] タブ画面で [オート再製版] をタッチする

参考

- ▶ [オート再製版] は、以下の場合には OFF になります。
- [プログラム] を ON にしたとき
 - [リセット] キーを押したとき
 - 次の原稿データの製版基本画面に移行したとき
- ▶ [再製版] 画面 (75) で設定された [180 度回転] が、[オート再製版] にも適用されます。

給紙・排紙条件を調整する [特殊用紙設定]

特殊な用紙を使う場合や、印刷画像のムラやブレが発生する場合に、給紙と排紙の条件を調整できます。



- ▶ 適切な調整値については、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。

特殊用紙の給紙調整

用紙の特性に応じて、給紙の条件を調整できます。

1 [機能一覧] タブ画面で [特殊用紙設定] をタッチする

2 [特殊給紙調整] をタッチする

3 [手動調整] をタッチする

4 必要に応じて各項目を設定する

[詳細] をタッチすると、[給紙 ON タイミング] と [給紙 OFF タイミング] を指定できます。

5 【確定】をタッチする

【特殊用紙設定】画面に戻ります。

参考 ▶ 設定した調整値を登録しておくとう便利です。
([図 78](#) 「調整値の登録」)

6 【閉じる】をタッチする

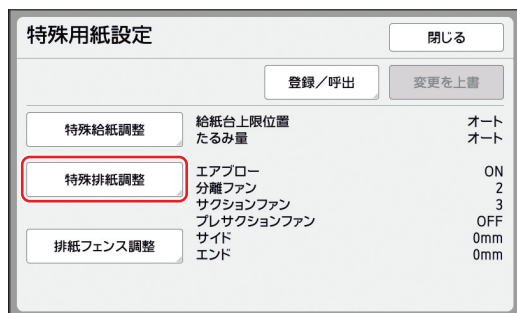
特殊用紙の排紙調整

印刷画像や用紙の特性に応じて、排紙の条件を調整できます。

参考 ▶ 【環境設定】の【特殊排紙調整基本】([図 113](#))で、初期設定を変更できます。

1 【機能一覧】タブ画面で【特殊用紙設定】をタッチする

2 【特殊排紙調整】をタッチする



3 必要に応じて各項目を設定する



4 【確定】をタッチする

【特殊用紙設定】画面に戻ります。

参考 ▶ 設定した調整値を登録しておくとう便利です。
([図 78](#) 「調整値の登録」)

5 【閉じる】をタッチする

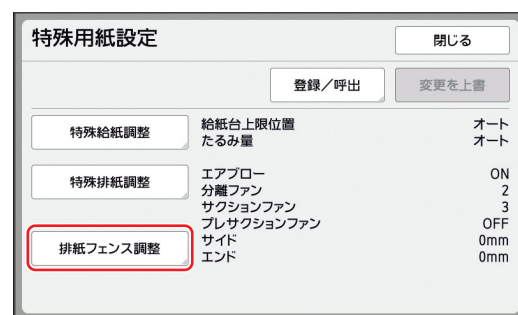
排紙フェンスの調整 (オプション)

本機に「オートフェンス排紙台」(オプション)を装備している場合、【特殊用紙設定】画面に【排紙フェンス調整】が表示されます。

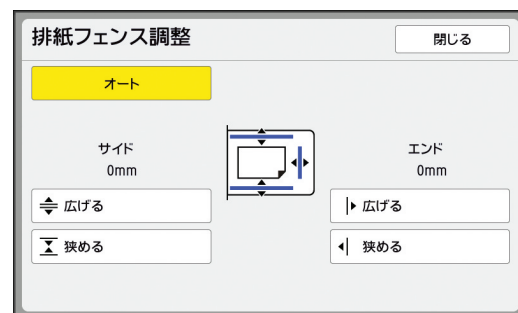
「オートフェンス排紙台」の排紙フェンスとストッパーは、製版・印刷開始時に、用紙サイズに応じた位置に自動的に移動されます。この位置を調整することができません。

1 【機能一覧】タブ画面で【特殊用紙設定】をタッチする

2 【排紙フェンス調整】をタッチする



3 必要に応じて調整する



■ 【オート】

排紙フェンスとストッパーは、用紙サイズに応じた標準位置に自動的に移動されます。

■ 【広げる】 / 【狭める】

【サイド】(排紙フェンス)と【エンド】(ストッパー)を、標準位置から広げたり狭めたりできます。

調整結果は、以後の製版・印刷開始時の移動動作に反映されます。

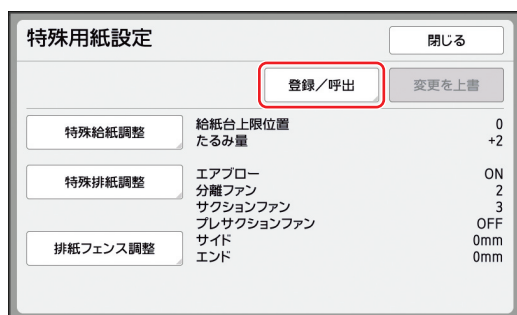
参考 ▶ 【サイド】(排紙フェンス)は、印刷中に【排紙フェンスオープンボタン】([図 20](#))を押して広げることもできます。

調整値の登録

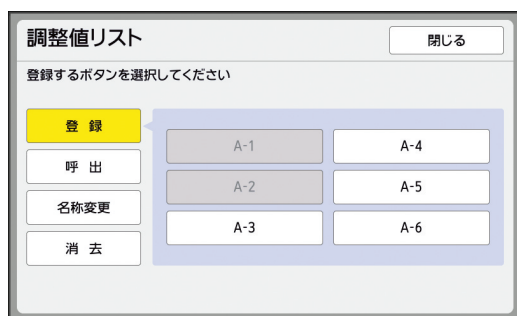
〔特殊給紙調整〕と〔特殊排紙調整〕、〔排紙フェンス調整〕で設定した調整値を登録しておく、繰り返し使えるので便利です。

- 1 【特殊給紙調整】と【特殊排紙調整】、【排紙フェンス調整】の設定を変更する
設定のしかたについては、[図 76](#)をご覧ください。

- 2 【登録／呼出】をタッチする



- 3 未登録のボタンをタッチする
未登録のボタンは、実線で表示されています。
(グレー表示されているボタンは登録済みなので、タッチできません。)



- 4 確認画面で【確定】をタッチする
設定した調整値が登録され、【調整値リスト】画面に戻ります。

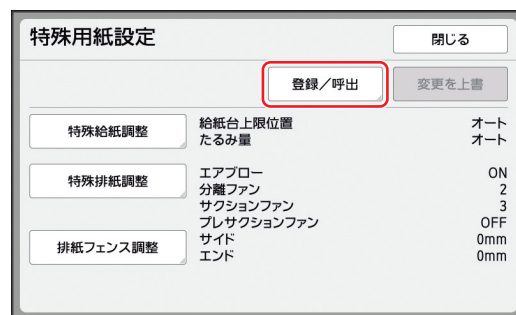
参考 ▶ 登録した調整値の名称を変更できます。
([図 79](#) 「調整値の名称変更」)

- 5 【閉じる】をタッチする
〔特殊用紙設定〕画面に戻ります。

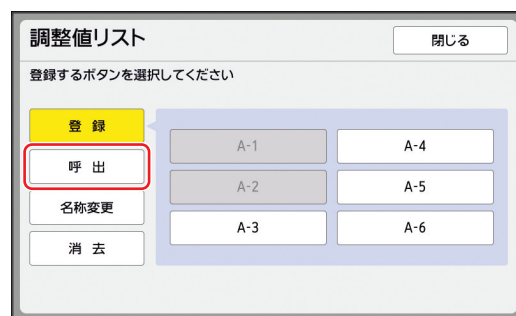
調整値の呼び出し

- 1 【機能一覧】タブ画面で【特殊用紙設定】をタッチする

- 2 【登録／呼出】をタッチする

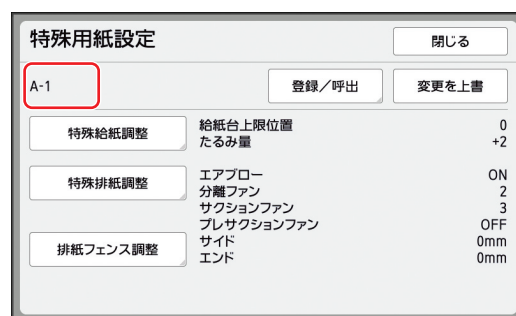


- 3 【呼出】をタッチする



- 4 呼び出したいボタンをタッチする

〔特殊用紙設定〕画面に戻ります。
呼び出した調整値の名称が表示されていることを確認します。



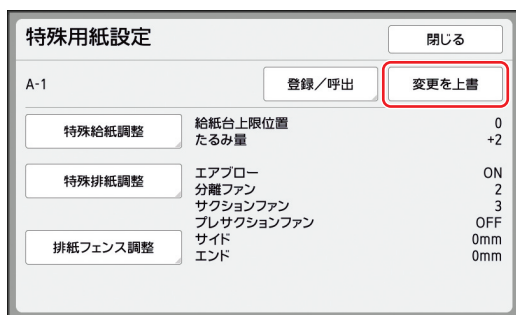
参考 ▶ 呼び出した調整値の内容を変更して、上書きできます。
([図 79](#) 「調整値の設定変更」)

調整値の設定変更

1 調整値を呼び出す
「調整値の呼び出し」の手順 1 ～ 4 を行います。

2 【特殊給紙調整】と【特殊排紙調整】、
【排紙フェンス調整】の設定を変更する
設定のしかたについては、[図 76](#)をご覧ください。

3 【変更を上書】をタッチする

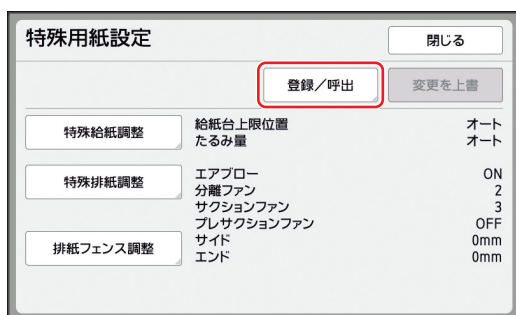


4 確認画面で【確定】をタッチする
変更した調整値が上書き登録され、【特殊用紙設定】画面に戻ります。

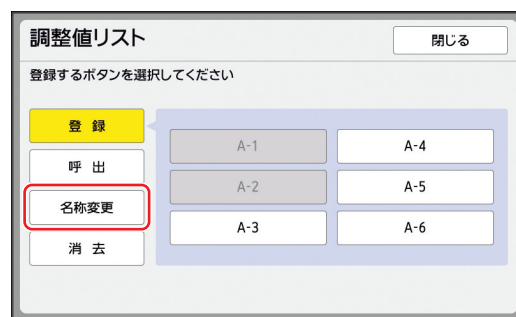
調整値の名称変更

1 【機能一覧】タブ画面で【特殊用紙設定】
をタッチする

2 【登録／呼出】をタッチする



3 【名称変更】をタッチする



4 名称変更したいボタンをタッチする

5 名称を変更する
([図 25](#) 「[名称入力] 画面」)

6 入力後、【確定】をタッチする
【調整値リスト】画面に戻ります。

7 【閉じる】をタッチする
【特殊用紙設定】画面に戻ります。

参考 ▶ 表示領域に名称が入りきらない場合は、後半部分が「...」と表示されます。

4

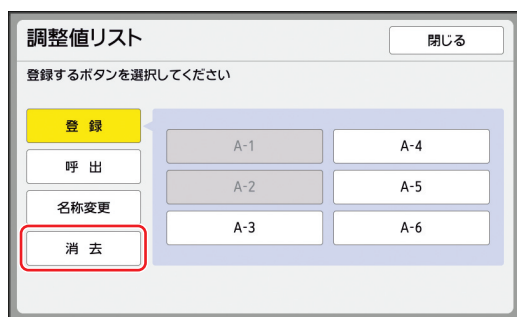
調整値の消去

1 【機能一覧】タブ画面で【特殊用紙設定】
をタッチする

2 【登録／呼出】をタッチする



3 「消去」をタッチする



4 消去したいボタンをタッチする

5 確認画面で「確定」をタッチする

「調整値リスト」画面に戻ります。

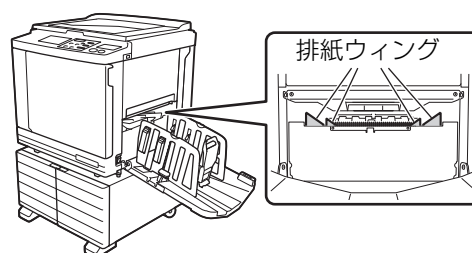
6 「閉じる」をタッチする

「特殊用紙設定」画面に戻ります。

排紙ウイングの位置を調節する 「排紙ウイング特殊」

「排紙ウイング」とは、印刷物を排紙台に飛ばすための部位です。通常は、用紙サイズや給紙圧レバーの切り替え (図 28) に連動して、排紙ウイングの位置が自動的に調節されます。

自動調節で対応できない用紙を使う場合に、「排紙ウイング特殊」を ON にすると、排紙ウイングが特殊な位置に移動します。



▶ 「排紙ウイング特殊」が表示されていない場合は、特殊な設定が必要です。詳しくは、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。



▶ 「環境設定」の「排紙ウイング特殊基本」(図 113) で、初期設定を変更できます。

1 「機能一覧」タブ画面で「排紙ウイング特殊」をタッチする

給紙状況を監視する [重送検知]

本機は、複数の用紙が重なったまま給紙された（重送した）と検知すると、印刷を自動停止する [重送検知] 機能を搭載しています。

工場出荷時の初期設定では、[重送検知] が ON になっています。

しかし、この機能は一般的な用紙に合わせて設定されているため、用紙の状態によっては重送していないのにエラーと検知してしまうことがあります。

そこで、以下の場合には [重送検知] を OFF にしてください。

- 重送していないのに、度々 [重送検知] のエラーが表示される。
- 地色が濃い用紙（黒、赤、紺など）を使用する。
- ウラ面が既に印刷されている用紙を使用する。

参考

▶ [環境設定] の [重送検知基本設定] (112) で、初期設定を変更できます。

1 【機能一覧】タブ画面で [重送検知] をタッチする



第5章

便利な機能を使う

便利な機能

各機能の詳細や設定手順については、参照ページをご覧ください。

【プログラム】(84)

印刷枚数を区切って仕分けできます。

【合紙仕分け】(88)

給紙台にセットされている用紙を合紙として利用して、印刷物を仕分けできます。

【テープ仕分け】(89)

印刷物を仕分けできます。(オプションの ST ソーターが必要です。)

【メモリー】(89)

各種機能が設定された状態を、登録しておくことができます。

【占有延長】(91)

パソコンから受信したデータが意図せずにプリントされることを防げます。

【アイドルング】(92)

ドラムを長時間使っていない場合に、刷り始めのかすれを軽減できます。

【機密】(92)

使用済みのマスターを破棄できます。

【認証 POP 登録】(93)

ユーザーごとに、POP エリアに登録する機能を選択できます。

【カウンター表示】(94)

製版回数と印刷枚数の累計を確認できます。

【利用枚数集計】(95)

製版回数と印刷枚数の集計結果を出力できます。

【デジタイザ】

紙原稿を読み取って、編集や分版ができます。(オプションのデジタイザキットが必要です。)
詳細は、デジタイザの取扱説明書をご覧ください。

【RLP 両面】

連携機で両面プリントできます。
RLP モードの【両面】(108)と同じ動きをします。
この機能を使うには、【環境設定】で設定が必要です。
(105「連携機を利用するための準備」)

組分けしてプリントする 【プログラム】

組ごとや原稿ごとに、印刷枚数を区切ることができます。

区切り(組や原稿)ごとに印刷が数秒間停止するので、印刷物の仕分けを行うことができます。

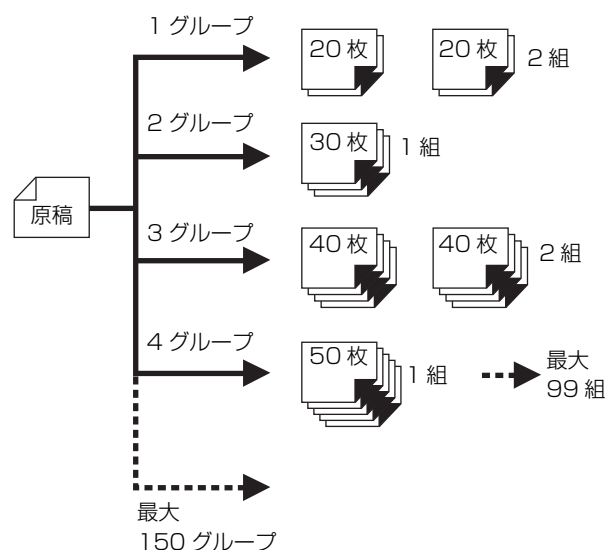
参考

- ▶ 【オート再製版】(76)とは併用できません。
- ▶ 【合紙仕分け】(88)を併用すると、区切りごとに合紙で仕分けされるので便利です。
- ▶ 【テープ仕分け】(89)を併用すると、区切りごとにテープで仕分けされるので便利です。
【テープ仕分け】を使うには、ST ソーター(オプション)が必要です。

■ 【プログラム】の種類

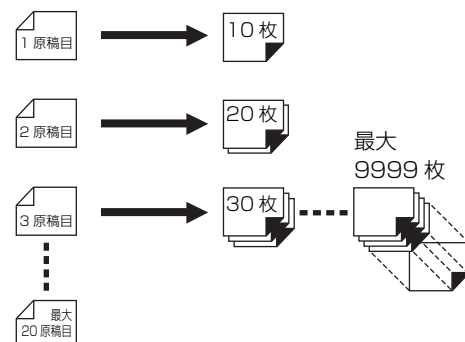
【1 原稿プログラム】:

1 枚の原稿の印刷枚数を、「組」ごとに設定できます。「組」は、さらに「グループ」にまとめられます。最大で、9999 枚 × 99 組 × 150 グループまで設定できます。



【多原稿プログラム】:

複数の原稿に、異なる印刷枚数を設定できます。最大で、9999 枚 × 20 原稿まで設定できます。



■【プログラム】の使い方

以下の2通りの使い方があります。

- 登録せずにプリントする
([85](#) 「[1 原稿プログラム] の設定」)
([85](#) 「[多原稿プログラム] の設定」)
- 登録済みの【プログラム】を呼び出してプリントする
([87](#) 「【プログラム】の呼び出し」)

【1 原稿プログラム】の設定

1 【機能一覧】タブ画面で【プログラム】をタッチする

【プログラム種類】画面が表示されます。

参考 ▶ [P] キーを押して表示させることもできます。

2 【1 原稿】をタッチする

3 テンキーで【枚数】を入力する

選択状態になっている入力欄が、入力対象です。

4 入力対象を【組数】に切り替える

- ・[×] キーまたは[※] キーを押すと、切り替えられます。
- ・入力欄を直接タッチしても、切り替えられます。

5 テンキーで【組数】を入力する

6 入力対象を次のグループに切り替える

- ・[+] キーまたは[※] キーを押します。
- ・入力欄を直接タッチしても、切り替えられます。

必要に応じて、手順3～6を繰り返します。

参考 ▶ 入力したすべての値をクリアするには、[オールクリア] をタッチします。
▶ 入力したすべての枚数の合計が、画面上部に表示されます。



▶ この画面で設定した【プログラム】を登録しておきたい場合は、[確定]の前に[登録/呼出]をタッチします。
その後、「【プログラム】の登録」([86](#))の手順3に進んでください。

7 【確定】をタッチする

基本画面に戻ります。

[スタート] キーを押すと、設定した【プログラム】でプリントされます。



▶ プリントは、最後のグループから逆順に行われます。(例：[003G] → [002G] → [001G])
これは、排紙台に排出される印刷物の一番上に[001G]が来るようにするためです。

【多原稿プログラム】の設定

1 【機能一覧】タブ画面で【プログラム】をタッチする

【プログラム種類】画面が表示されます。



▶ [P] キーを押して表示させることもできます。

2 【多原稿】をタッチする

3 テンキーで【枚数】を入力する

選択状態になっている入力欄が、入力対象です。

4 入力対象を次の欄に切り替える

- ・[+] キーまたは[※] キーを押します。
- ・入力欄を直接タッチしても、切り替えられます。

必要に応じて、手順3～4を繰り返します。



▶ 入力したすべての値をクリアするには、[オールクリア] をタッチします。
▶ 入力したすべての枚数の合計が、画面上部に表示されます。



- ▶ この画面で設定した【プログラム】を登録しておきたい場合は、【確定】の前に【登録／呼出】をタッチします。その後、「【プログラム】の登録」(86)の手順3に進んでください。

5 【確定】をタッチする

基本画面に戻ります。

【スタート】キーを押すと、設定した【プログラム】でプリントできます。



- ▶ 自動原稿送り装置（オプション）が装着されていない場合は、最後の原稿から逆順でプリントされます。（例：【原稿 03】→【原稿 02】→【原稿 01】）
- ▶ 自動原稿送り装置が装着されている場合は、最初の原稿からプリントされます。（例：【原稿 01】→【原稿 02】→【原稿 03】）

【プログラム】の中止

1 【機能一覧】タブ画面で【プログラム】をタッチする

【プログラム種類】画面が表示されます。



- ▶ 【P】キーを押して表示させることもできます。

2 【プログラム OFF】をタッチする



3 【確定】をタッチする

【プログラム】の登録

よく使う【プログラム】を登録しておくくと便利です。
【1 原稿プログラム】と【多原稿プログラム】の設定を、あわせて12件まで登録できます。

1 【プログラム】を設定する

以下のどちらかを行います。

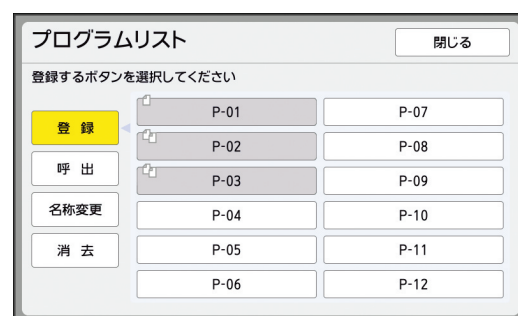
- ・「【1 原稿プログラム】の設定」(85)の手順1～6
- ・「【多原稿プログラム】の設定」(85)の手順1～4

2 【登録／呼出】をタッチする



3 未登録のボタンをタッチする

未登録のボタンは、実線が表示されています。
(グレー表示されているボタンは登録済みなので、タッチできません。)



確認画面が表示されます。

4 確認画面で【確定】をタッチする

設定した【プログラム】が登録され、【プログラムリスト】画面に戻ります。



- ▶ 登録した【プログラム】の名称を変更できます。
(87「【プログラム】の名称変更」)

5 【閉じる】をタッチする

【プログラム】の設定画面に戻ります。

- ・【確定】をタッチすると、登録した【プログラム】でプリントできます。
- ・【取消】をタッチすると、【プログラム】はOFFのままで基本画面に戻ります。

【プログラム】の呼び出し

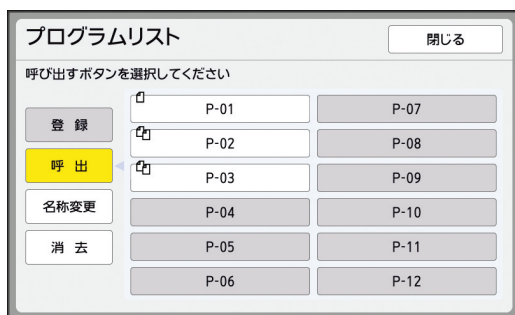
1 【機能一覧】タブ画面で【プログラム】をタッチする

【プログラム種類】画面が表示されます。

参考 ▶ [P] キーを押して表示させることもできます。

2 【プログラムリスト】をタッチする

3 呼び出したいボタンをタッチする



参考 ▶ ボタン上のアイコンはプログラムの種類を示しています。
 □: [1 原稿プログラム]
 □: [多原稿プログラム]

4 確認画面で【確定】をタッチする

基本画面に戻ります。

【スタート】キーを押すと、設定したプログラムでプリントされます。

【プログラム】の設定内容変更

1 【プログラム】を呼び出す

「【プログラム】の呼び出し」の手順 1 ～ 3 を行います。

2 【プログラム】の設定を変更する

枚数や組数を変更します。

3 【変更を上書】をタッチする



4 確認画面で【確定】をタッチする

【プログラム】の設定画面に戻ります。

- ・【確定】をタッチすると、変更した【プログラム】でプリントできます。
- ・【取消】をタッチすると、【プログラム】はOFFのまま基本画面に戻ります。

【プログラム】の名称変更

1 【機能一覧】タブ画面で【プログラム】をタッチする

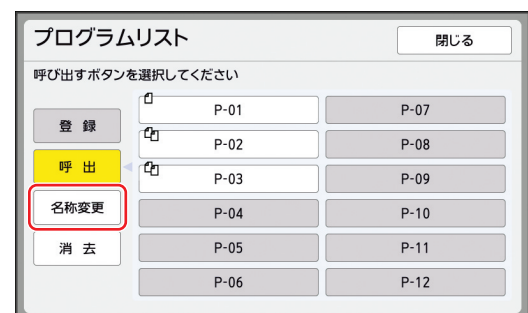
【プログラム種類】画面が表示されます。

参考 ▶ [P] キーを押して表示させることもできます。

5

2 【プログラムリスト】をタッチする

3 【名称変更】をタッチする



4 名称変更したいボタンをタッチする

5 名称を変更する

(25 「[名称入力] 画面」)

6 入力後、【確定】をタッチする

【プログラムリスト】画面に戻ります。



- ▶ 表示領域に名称が入りきらない場合は、後半部分が「...」と表示されます。

7 【閉じる】をタッチする

【プログラム種類】画面に戻ります。

8 【閉じる】をタッチする

基本画面に戻ります。

【プログラム】の消去

1 【機能一覧】タブ画面で【プログラム】をタッチする

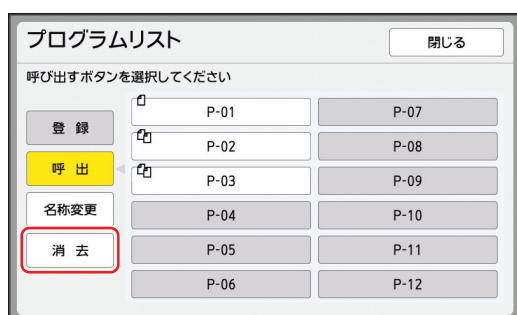
【プログラム種類】画面が表示されます。



- ▶ [P] キーを押して表示させることもできます。

2 【プログラムリスト】をタッチする

3 【消去】をタッチする



4 消去したいボタンをタッチする

5 確認画面で【確定】をタッチする

【プログラムリスト】画面に戻ります。

6 【閉じる】をタッチする

【プログラム種類】画面に戻ります。

7 【閉じる】をタッチする

基本画面に戻ります。

合紙を入れる【合紙仕分け】

給紙台にセットされている用紙を合紙として利用して、印刷物を仕分けできます。

- 自動原稿送り装置に原稿をセットし、[連続] ON でプリントする場合、[合紙仕分け] を ON にしておくと、原稿の変わり目に合紙（白紙）が挿入されます。
- 【プログラム】（[84](#)）と併用すると、印刷の区切りごとに合紙（白紙）が挿入されます。



- ▶ 【合紙仕分け】は、給紙台に以下の用紙がセットされているときに使用できます。
（定形サイズの場合）A3□、B4□、A4□
（不定形サイズの場合）210mm×280mm ~ 320mm×432mm
- ▶ 合紙と印刷物がインクで汚れることがあります。



- ▶ 【合紙仕分け】が使えるのは、【プログラム】（[84](#)）または【連続】（[26](#)）が [ON] のときだけです。
- ▶ 以下の機能とは併用できません。
- 【インターバル印刷】（[75](#)）
 - 【テープ仕分け】（[89](#)）
 - 【速度】（[72](#)）の [190ppm] と [160ppm]
- ▶ 【環境設定】の【合紙仕分け基本設定】（[112](#)）で、初期設定を変更できます。

1 【機能一覧】タブ画面で【合紙仕分け】をタッチする

ST ソーターを使う【テープ仕分け】

ST ソーター（オプション）を装着すると、[テープ仕分け] 機能を使うことができます。

- 自動原稿送り装置に原稿をセットし、[連続] ON でプリントする場合、[テープ仕分け] を ON にすると、原稿の変わり目にクラスターテープが差し込まれます。
- [プログラム]（[84](#)）と併用すると、印刷の区切りごとにクラスターテープが差し込まれます。

詳しくは、ST ソーターの取扱説明書をご覧ください。

参考

- ▶ [テープ仕分け] が使えるのは、[プログラム]（[84](#)）または [連続]（[26](#)）が [ON] のときだけです。
- ▶ 以下の機能とは併用できません。
 - [合紙仕分け]（[88](#)）
- ▶ [環境設定] の [テープ仕分け基本設定]（[112](#)）で、初期設定を変更できます。

1 【機能一覧】タブ画面で【テープ仕分け】をタッチする

各種設定を登録して使う【メモリー】

各種機能が設定された状態を、登録しておくことができます。

同じ設定を呼び出して使えるので便利です。

【メモリー】の登録

1 各種機能の設定を行う

- （[44](#)「製版するときに設定する機能」）
- （[72](#)「印刷するときに設定する機能」）
- （[84](#)「便利な機能」）
- （[107](#)「RLP モードで設定する機能」）

2 【機能一覧】タブ画面で【メモリー】をタッチする

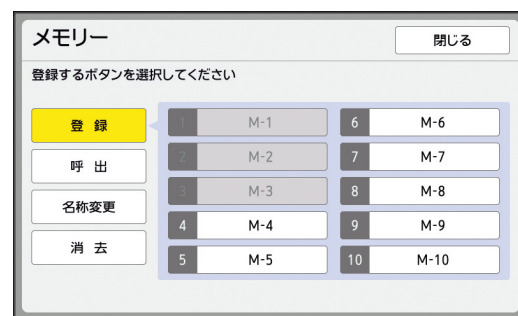
[メモリー] 画面が表示されます。

参考

- ▶ [＊] キーを押して表示させることもできます。

5

3 未登録のボタンをタッチする



参考

- ▶ グレー表示されているボタンは登録済みのため、タッチできません。

4 設定内容を確認する



【✓】をタッチして、最後の項目まで確認してください。

参考 ▶ 設定変更したい機能がある場合は、【取消】、【閉じる】の順にタッチして基本画面に戻り、その機能の設定をし直してください。

5 【確定】をタッチする

【メモリー】画面に戻ります。

6 【閉じる】をタッチする

基本画面に戻ります。

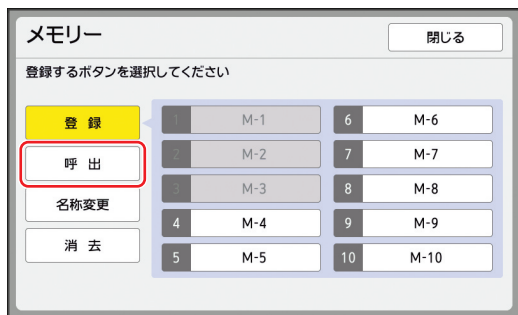
【メモリー】の呼び出し

1 【機能一覧】タブ画面で【メモリー】をタッチする

【メモリー】画面が表示されます。

参考 ▶ 【*】キーを押して表示させることもできます。

2 【呼出】をタッチする



3 呼び出したい設定のボタンをタッチする

【設定確認】画面が表示されます。

参考 ▶ 【メモリー】の番号に相当するテンキーを押して表示させることもできます。

- 番号【1】～【9】：1～9のキーを押す
- 番号【10】：0のキーを押す

4 設定内容を確認する

5 【確定】をタッチする

呼び出した設定が反映され、基本画面に戻ります。

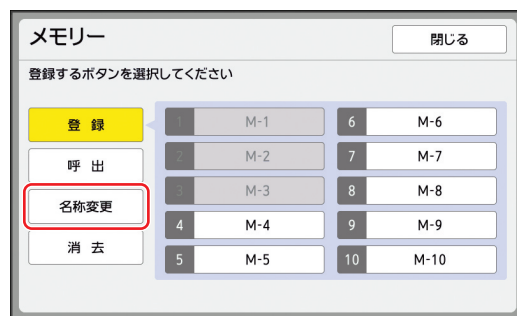
【メモリー】の名称変更

1 【機能一覧】タブ画面で【メモリー】をタッチする

【メモリー】画面が表示されます。

参考 ▶ 【*】キーを押して表示させることもできます。

2 【名称変更】をタッチする



3 名称変更したいボタンをタッチする

4 名称を変更する

([25](#) 「【名称入力】画面」)

5 入力後、【確定】をタッチする

【メモリー】画面に戻ります。

参考 ▶ 表示領域に名称が入りきらない場合は、後半部分が「...」と表示されます。

6 【閉じる】をタッチする

基本画面に戻ります。

【メモリー】の消去

1 【機能一覧】タブ画面で【メモリー】をタッチする

【メモリー】画面が表示されます。

参考 ▶ 【*】キーを押して表示させることもできます。

2 [消去] をタッチする



3 消去したいボタンをタッチする

[設定確認] 画面が表示されます。

4 設定内容を確認する

消去してよいかを確認してください。

5 [確定] をタッチする

[メモリー] 画面に戻ります。

6 [閉じる] をタッチする

基本画面に戻ります。

占有時間を延長する [占有延長]

本機がパソコンに接続されている場合に便利な機能です。

本機で印刷作業をしているときに、他の人がパソコンから原稿データのプリント指示をすることがあります。

本機は、動作が停止したままで何も操作されなくても、一定時間が経過するまでは、受信した原稿データの製版を開始しません。この一定時間を [占有時間] と呼びます。

[占有時間] が経過すると、原稿データの製版が開始されるので、使用中のマスターが破棄されてしまいます。

[占有時間] は、工場出荷時の設定では 15 秒で、[環境設定] で変更しても最大 60 秒です。

そこで、使用中のマスターで印刷作業を続けたい場合は、[占有延長] を ON にしておくと、最大 30 分まで占有時間を延長することができます。

参考

- ▶ [環境設定] の [占有時間] (☞ 114) で、[占有時間] を変更できます。
- ▶ [占有延長] を ON にしたときに延長される時間を、[環境設定] の [占有延長時間] (☞ 114) で変更できます。

■ 次の動作または操作をしている間は、[占有時間] の計測が開始されません。

- ・ 本機が動作しているとき (製版、印刷など)
- ・ 操作パネルのキーやボタンなどを操作しているとき
- ・ 設定画面が表示されているとき
- ・ エラーやワーニングの画面が表示されているとき
- ・ 製版モードに切り替えた後 (最大 3 分間)

■ 以下の機能は、[占有時間] の延長中は実行されません。

- ・ [オートスリープ] (☞ 114)、[オートシャット OFF] (☞ 114) :
[占有延長] の終了時点から計測した時間で実行されます。
- ・ [シャット OFF 時刻] (☞ 115) :
翌日の設定時刻まで実行されません。

1 [機能一覧] タブ画面で [占有延長] をタッチする

参考

- ▶ [占有時間] の間に原稿データをプリントしたい場合は、[基本] タブ画面の [出力待ち] (☞ 35) をタッチします。

インクかすれを防ぐ [アイドリング]

本機を長時間使用していないときや、ドラムを交換したときは、刷り始めの数枚が薄く印刷されることがあります。[アイドリング] を実行すると、製版時に、インクをドラムになじませる動作が行われます。これにより、刷り始めから鮮明に印刷できるので、余分な用紙の使用を減らすことができます。

- 重要**
- ▶ [アイドリング] は製版時に実行される機能です。印刷しか行わない場合は、[アイドリング] は実行されません。
 - ▶ [アイドリング] を実行すると、製版時間が長くなります。

- 参考**
- ▶ ドラムを一定時間使用しないと、次の製版時に自動的に [アイドリング] が実行されるように設定できます。[環境設定] の [オートアイドリング] (115) で、設定を変更できます。

1 製版基本画面の [機能一覧] タブ画面で [アイドリング] をタッチする



[アイドリング] を ON にすると、製版基本画面のメッセージエリアに表示されるアイコンが変わります。

[アイドリング]	アイコン
OFF	 (緑色の地に白色の絵)
ON	 (黄緑色の地に緑色の絵)

原稿をセットして [スタート] キーを押すと、製版時に [アイドリング] が実行されます。

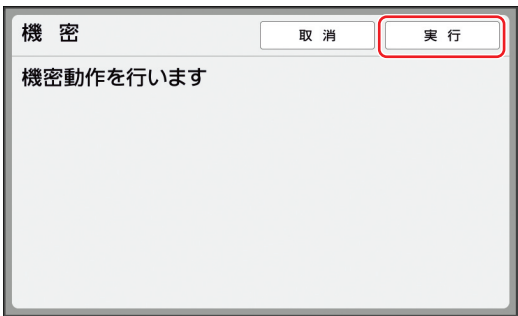
機密書類の複製を防ぐ [機密]

プリント終了後は、製版済みのマスターがドラムに巻き付いたまま印刷可能な状態になっています。[機密] を実行すると、製版済みのマスターが破棄されるので、機密書類の不正な印刷を防ぐことができます。また、何も製版されていないマスターがドラムに巻き付けられるので、長期間印刷しない場合に、ドラム内のインクの乾燥を防ぐカバーの役割も果たします。

- 参考**
- ▶ プリント終了後に [機密] をうながす設定ができます。
(128 「使用済みのマスターを管理する」 [プロテクト]))

1 [機能一覧] タブ画面で [機密] をタッチする

2 [実行] をタッチする

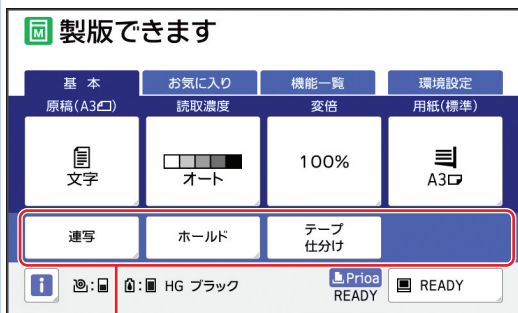


ドラム上のマスターが破棄され、何も製版されていないマスターが巻き付けられます。

- 参考**
- ▶ [機密] を実行すると、本機に一時的に記憶されていた画像が消去されるので、[再製版] (75) は実行できなくなります。

よく使う機能をユーザーごとに登録する【認証 POP 登録】

本機の利用時に認証操作をしている場合、[基本] タブ画面の POP エリアに登録する機能を、ご自身で自由に変更できます。



POP エリア

以下の各モードの POP エリアに登録できます。

- ・製版モード
- ・印刷モード
- ・スキャンモード
- ・RLP モード



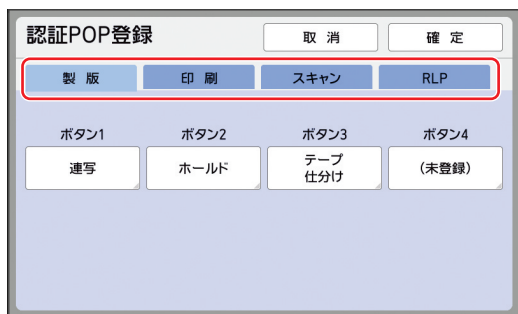
▶【認証設定】(122) で【認証有無】が【本体認証、認証プリント】に設定されている必要があります。



▶【環境設定】の【POP 登録】(118) では、管理者が全ユーザーの POP エリアを一律に変更できます。

1 【機能一覧】タブ画面で【認証 POP 登録】をタッチする

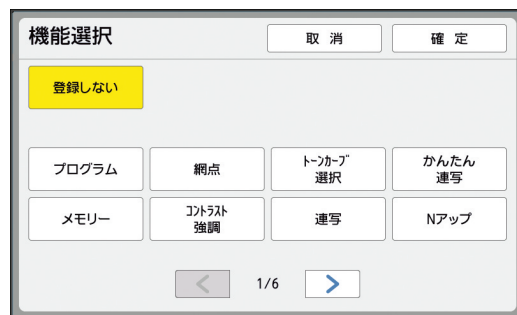
2 登録したいモードのタブをタッチする



3 登録したい機能ボタンをタッチする

登録済みのボタンでも、タッチして他の機能に変更できます。

4 登録する機能名をタッチする



- ・[<] [>] をタッチすると、表示を切り替えられます。
- ・機能を登録しない場合は、[登録しない] をタッチします。
- ・登録済みの機能名にはタッチできません。

5 【確定】をタッチする

【認証 POP 登録】画面に戻ります。

他にも登録したい機能ボタンがある場合は、手順 3～5 を繰り返します。

6 【確定】をタッチする

利用枚数を表示する [カウンター表示]

本機で製版した回数や、印刷した枚数の累計を確認できます。

1 [機能一覧] タブ画面で [カウンター表示] をタッチする

2 表示内容を確認する

カウンター表示		閉じる
A4以下	25,000	
A4より上	25,000	
トータル	50,000	
A3/B4マスター	25,000	
A4横マスター	25,000	
マスタートータル	50,000	
ドラム	100,000	
リセッTABLE・カウンター		0 ◀C

■ [A4 以下] [A4 より上]

本機で印刷した枚数の累計が、用紙サイズ別に表示されます。

製版時の試し刷りは含まれません。

■ [トータル] (トータルカウンター)

本機で印刷した枚数の累計が表示されます。

製版時の試し刷りは含まれません。

■ [A3/B4 マスター] [A4 横マスター]

本機で製版した回数の累計が、マスターのサイズ別に表示されます。

[アイドリング] (92) と [機密] (92) の実行回数も含まれます。

■ [マスタートータル]

本機で製版した回数の累計が表示されます。

[アイドリング] と [機密] の実行回数も含まれます。

■ [ドラム]

現在セットされているドラムで印刷した枚数の累計が表示されます。

製版時の試し刷りも含まれます。

他のドラムで印刷した枚数の累計を確認したい場合は、ドラムを交換してから [カウンター表示] 画面を再度表示させてください。

■ [リセッTABLE・カウンター]

印刷枚数のカウンターです。

製版時の試し刷りは含まれません。

[◀C] をタッチすると、カウントを [0] に戻すことができます。

例えば、一日に何枚印刷するかを確認したい場合に便利です。その場合、始業時にこのカウンターを [0] に戻しておき、終業時にカウンターを確認します。

3 [閉じる] をタッチする

利用枚数を集計する 【利用枚数集計】

全ユーザーの製版回数や印刷枚数の集計結果をプリントしたり、ファイルとして保存したりすることができます。



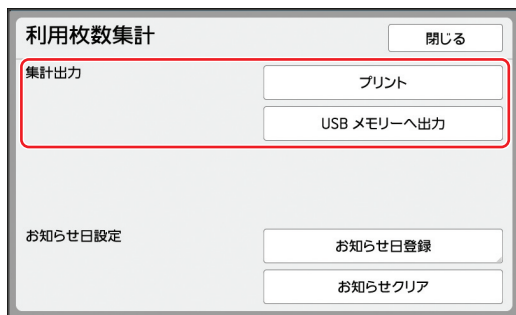
▶ 利用枚数を管理・集計するには、【認証設定】（[122](#)）で【認証有無】が【本体認証、認証プリント】に設定されている必要があります。

【集計出力】の実行

1 【機能一覧】タブ画面で【利用枚数集計】をタッチする

【利用枚数集計】画面が表示されます。

2 【集計出力】の方法を選択する



■ 【プリント】

タッチすると、集計レポートが、本機でプリントされます。

■ 【USB メモリーへ出力】

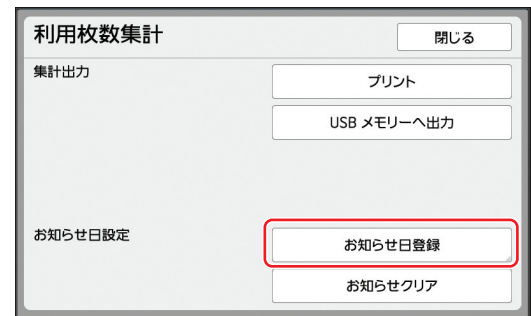
タッチすると、CSV 形式のファイルが、USB メモリーに保存されます。【利用枚数集計】をタッチする前に、USB メモリーを USB スロットに挿入する必要があります。

集計出力のお知らせ日の設定

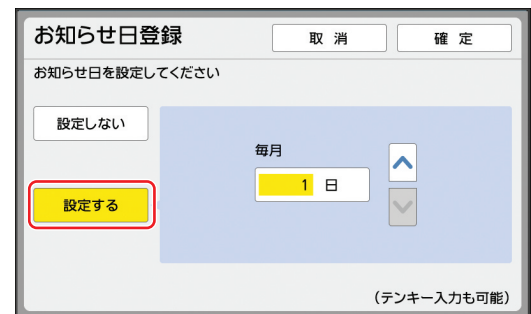
毎月の指定日に、【集計出力】のお知らせ画面（[159](#)）を表示させることができます。

1 【機能一覧】タブ画面で【利用枚数集計】をタッチする

2 【お知らせ日登録】をタッチする



3 【設定する】をタッチする



4 お知らせ日を設定する

以下のどちらの方法でも設定できます。

- ・テンキーで数値を入力する
- ・【▼】【▲】をタッチする



▶ 【29】～【31】に設定した場合、その日がない月（2月など）は、月末日のお知らせ画面が表示されます。

5 【確定】をタッチする

【利用枚数集計】画面に戻ります。

6 【閉じる】をタッチする



▶ 【お知らせ日登録】を設定すると、【集計出力】（[95](#)）を実行するまで、電源 ON のたびにお知らせ画面が表示されます。当月に【集計出力】を実行しない場合は、【利用枚数集計】画面で【お知らせクリア】をタッチします。翌月のお知らせ日まで、お知らせ画面が表示されなくなります。



第 6 章

スキャン機能を設定する

スキャンするときに設定する機能

各機能の詳細や設定手順については、参照ページをご覧ください。



- ▶ スキャンモードで保存した原稿データは、本機独自のファイル形式になります。PDF や JPEG などの汎用的なファイル形式では保存されません。
(48 「紙原稿をデータとして保存する」)

■ 基本情報を設定する機能

【データ名】 (99)

保存データの表示名を設定できます。

〔ホールドデータ選択〕 または 〔USB データ選択〕 画面に表示されます。

【保存場所】 (99)

〔ホールド〕 または 〔USB メモリー〕 の中に、フォルダーを指定して保存できます。

【オーナー】 (100)

保存データの所有者名を設定できます。

〔ホールドデータ選択〕 または 〔USB データ選択〕 画面に表示されます。

■ 画像処理に関する機能

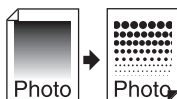
【原稿モード】 (45)

原稿の種類に適した処理を設定できます。



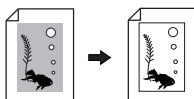
【網点】 (47)

写真の階調を表現するための処理方法を設定できます。



【コントラスト強調】 (47)

明暗のメリハリがはっきりしない写真を、鮮明な仕上がりにすることができます。



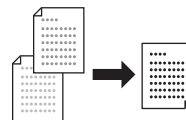
【トーンカーブ選択】 (48)

写真などの明るい部分と暗い部分の調子を調整できます。



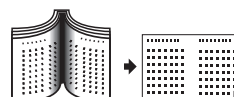
【読取濃度】 (48)

原稿の地色や濃淡にあわせて、読取濃度を調節できます。



【ブックモード】 (49)

冊子のとじ部分の影を消去または薄くできます。



■ レイアウトに関する機能

【変倍】 (51)

原稿を拡大または縮小できます。

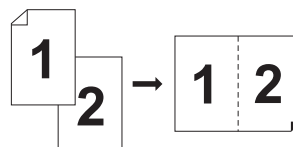


【サイズ】 (101)

保存データの用紙サイズを選択できます。

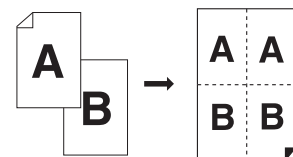
【N アップ】 (54)

1 枚の用紙に複数ページの原稿を割り付けられます。



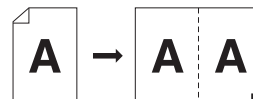
【連写】 (56)

1 枚の用紙に原稿を複数割り付けられます。



【かんたん連写】 (59)

1 枚の用紙に原稿を 2 面割り付けられます。



■ その他の機能

【プレビュー表示】 (61)

保存前に仕上がりイメージを確認できます。

【AF 読取面指定】 (64)

自動原稿送り装置（オプション）を使う場合に、原稿のどの面を読み取るかを設定します。

原稿データの表示名を設定する [データ名]

原稿データの表示名を設定します。
設定した [データ名] は、[ホールドデータ選択] 画面または [USB メモリー選択] 画面に表示されます。
([図 66](#) 「保存された原稿データを操作する [ホールド] [USB メモリー]」)

1 スキャン基本画面で [データ名] をタッチする

スキャンできます
1ページ目

データ名 scan_0001

保存場所 1_FOLDER オーナー Owner-1

基本 機能一覧 環境設定

原稿 (A3) 読み濃度 変倍 サイズ

文字 オート 100% オート A3

プレビュー表示 ブックモード

2 [名称入力] 画面でデータ名を変更する ([図 25](#) 「[名称入力] 画面」)

3 [確定] をタッチする

原稿データの保存場所を設定する [保存場所]

原稿データの保存場所を設定します。
[ホールド] または [USB メモリー] の中に、フォルダーを指定して保存できます。
([図 37](#) 「紙原稿をデータとして保存する」)

参考 ▶ RISO コントローラ IS300 (オプション) を接続している場合、[保存場所] は変更できません。

1 USB メモリーに保存する場合は、USB メモリーを USB スロットに挿入する

2 スキャン基本画面で [保存場所] をタッチする

スキャンできます
1ページ目

データ名 scan_0001

保存場所 1_FOLDER オーナー Owner-1

基本 機能一覧 環境設定

原稿 (A3) 読み濃度 変倍 サイズ

文字 オート 100% オート A3

プレビュー表示 ブックモード

3 [ホールド] または [USB メモリー] をタッチする

保存場所 取消 確定

ホールド 1_FOLDER

USBメモリー 2_FOLDER

3_FOLDER

4_FOLDER

5_FOLDER

6_FOLDER

認証する

認証しない

空き容量: 11339MB(75%)

USB メモリーが挿入されていない場合、[USB メモリー] は選択できません。

4 [認証する] または [認証しない] をタッチする

参考 ▶ この選択肢は、[環境設定] の [認証設定] ([図 122](#)) で [本体認証、認証プリント] が設定されている場合にのみ表示されます。

設定	説明
[認証する]	[ホールド] または [USB メモリー] の、[認証あり] のリストに保存されます。このリストに保存された原稿データは、保存したユーザーと同じ人が認証操作した場合にのみ表示されます。秘匿性のある原稿を管理したい場合に便利です。
[認証しない]	[ホールド] または [USB メモリー] の、[認証なし] のリストに保存されます。このリストに保存された原稿データは、誰が認証操作した場合でも表示されます。

5 保存先のフォルダーをタッチする

参考

- ▶ [ホールド] のフォルダー名は、[環境設定] の [フォルダー名変更] (113) で変更できます。
- ▶ [USB メモリー] のフォルダー名は、理想 USB メモリマネージャーで変更できます。
- ▶ 1 つのフォルダーに保存できる原稿データは、250 個までです。

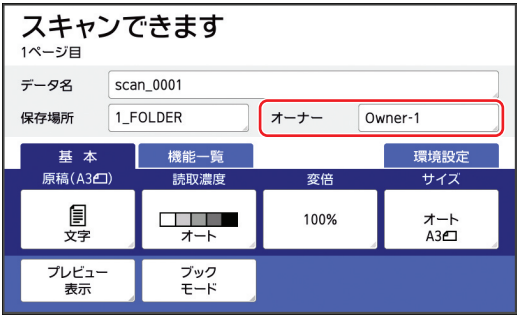
6 [確定] をタッチする

原稿データの保存者名を設定する [オーナー]

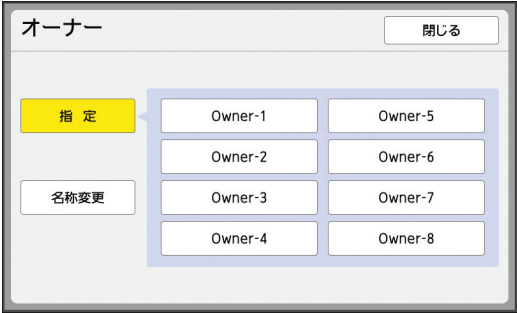
「オーナー」とは、原稿データを保存した人を区別するための設定です。
設定したオーナー名は、[ホールドデータ選択] 画面または [USB メモリー選択] 画面に表示されます。
(66 「保存された原稿データを操作する [ホールド] [USB メモリー]」)

[オーナー] の設定

1 スキャン基本画面で [オーナー] をタッチする



2 設定したいオーナー名をタッチする



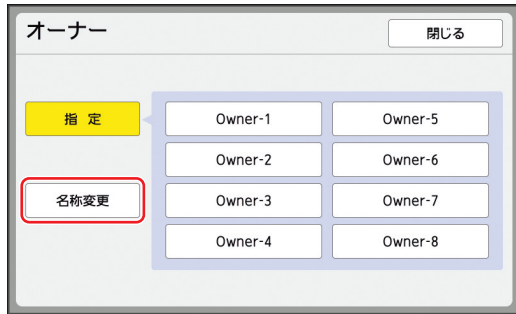
設定が変更され、スキャン基本画面に戻ります。

オーナー名の変更

オーナー名を、任意の名称に変更できます。

1 スキャン基本画面で【オーナー名】をタッチする

2 【オーナー】画面で【名称変更】をタッチする



3 変更したいオーナー名をタッチする

4 【名称入力】画面でオーナー名を変更する
([図 25](#) 「【名称入力】画面」)

5 【確定】をタッチする

原稿データの保存サイズを設定する【サイズ】

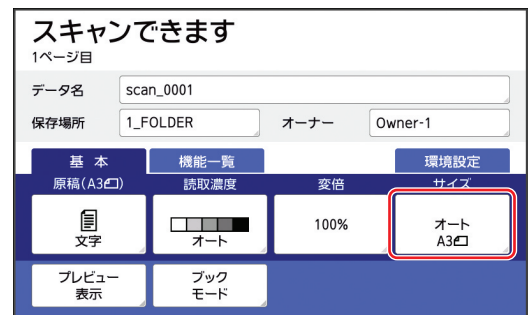
以下の場合に、保存するサイズを設定します。

- 原稿サイズが自動検知されなかった場合
- 原稿と異なるサイズで保存したい場合

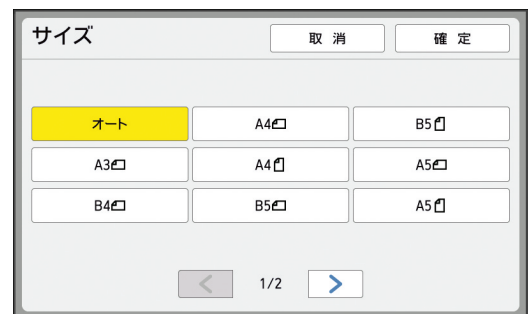
参考

- ▶ 初期設定では【オート】に設定されています。定形サイズ（A4、B5 など）の原稿は、自動で検知されます。
- ▶ 【オート】は以下の機能とは併用できません。
 - 【N アップ】 ([図 54](#))
 - 【連写】 ([図 56](#))
 - 【かんたん連写】 ([図 59](#))

1 スキャン基本画面で【サイズ】をタッチする



2 設定したいサイズをタッチする



3 【確定】をタッチする



第 7 章

連携機（Prioa）を利用する

連携機を利用する

本機は、連携機「Prio」シリーズ（別売）を利用することにより、さらに経済的にプリントできます。



- ▶ 本機と連携機を、ネットワーク経由で接続する必要があります。

連携機を利用したプリントには、「自動振分」と「RLP モード」があります。

■ 自動振分

本機は、印刷枚数が多いほど、印刷コストを低減することができます。

しかし、印刷枚数が少ない場合は、連携機を利用したほうが印刷コストを低減できることがあります。

「自動振分」を使うと、印刷枚数に応じて本機と連携機のどちらでプリントするかが自動的に選択されます。

- ・ [自動振分枚数] 以上のときは、本機でプリント
- ・ [自動振分枚数] 未満のときは、連携機でプリント



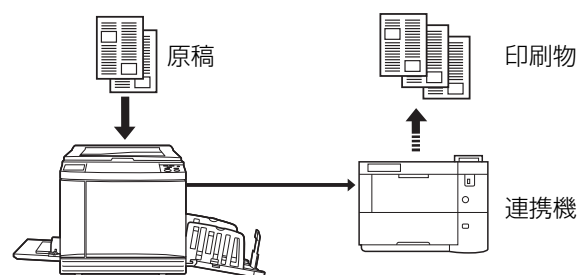
- ▶ 紙原稿の場合、製版の前に印刷枚数を入力する必要があります。印刷枚数 [0] の状態で [スタート] キーを押すと、本機でプリントされます。
- ▶ 以下の機能が設定されているときは、印刷枚数に関係なく本機でプリントされます。
 - ・ [省インク] (☞ 50)
 - ・ [連写] (☞ 56)
 - ・ [かんたん連写] (☞ 59)
 - ・ [プログラム] (☞ 84)
 - ・ [AF 読取面指定] ([ウラ面→片面]) (☞ 64)
 - ・ [N アップ] (☞ 54)
 - ・ [逆順印刷] (☞ 63)
 - ・ [とじしろ] (☞ 61)
- ▶ コインベンダーまたはカードベンダーが接続されているときは、印刷枚数に関係なく本機でプリントされます。



- ▶ [環境設定] の [自動振分枚数] (☞ 116) で、設定を変更できます。
- ▶ パソコンから受信した原稿データを自動振分するかどうかを、[環境設定] の [受信ジョブ自動振分] (☞ 116) で変更できます。

■ RLP モード

本機で紙原稿を読み取り、連携機でプリントします。連携機が持つ独自の機能を利用できます。



連携機を利用するための準備

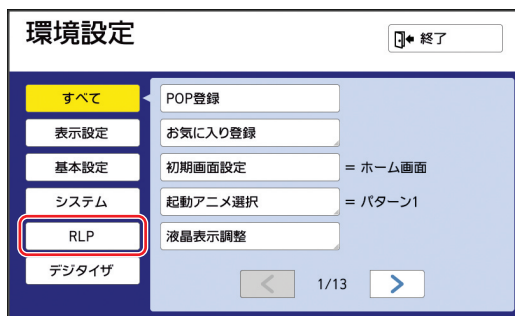
以下の手順で「RLP 情報設定」に連携機の情報登録してください。

参考 ▶ その他の設定項目については、[116](#)をご覧ください。

1 「環境設定」画面を表示させる

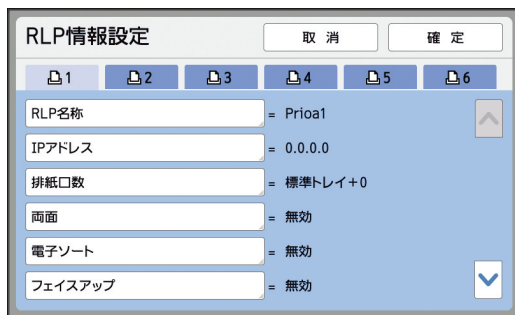
([110](#) 「環境設定」画面の表示)

2 画面左側の「RLP」をタッチする



3 画面右側の「RLP 情報設定」をタッチする

4 登録する連携機のタブをタッチする



5 設定項目のボタンをタッチする

「RLP 情報設定」項目一覧を参考にして、各項目を変更します。

6 「RLP 情報設定」画面で「確定」をタッチする

7 「環境設定」画面で「終了」をタッチする

「RLP 情報設定」項目一覧

下線部は、工場出荷時の設定です。

設定項目	設定内容
【RLP 名称】 連携機の表示名です。 RLP 基本画面に表示されます。	全角 1 ～ 8 文字 (半角 1 ～ 16 文字)
【IP アドレス】 連携機の IP アドレスを設定します。 設定後、[テストプリント] をタッチすると、本機から連携機にテストプリントが実行されます。 重要 ▶ あらかじめ、[環境設定] の [ネットワーク設定] (113) も設定しておく必要があります。	[IPv4] <u>0.0.0.0</u> ～ 255.255.255.255 [IPv6] <u>0:0:0:0:0:0:0:0</u> ～ FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF:FFFF
【排紙口数】 [標準トレイ] 以外に排紙可能なトレイがある場合に、その数を入力します。	<u>0</u> ～ 99
【両面】 *1 連携機に [両面] 機能がある場合に、[有効] に設定します。	無効・有効
【電子ソート】 連携機に [電子ソート] 機能がある場合に、[有効] に設定します。	無効・有効
【フェイスアップ】 連携機に [フェイスアップ] 機能がある場合に、[有効] に設定します。また、[フェイスアップ] 用の [トレイ No.] *2 を設定します。	無効・有効 [トレイ No.]
【AF 時自動フェイスアップ】 連携機に [AF 時自動フェイスアップ] 機能があり、[フェイスアップ] が [有効] の場合に、[有効] に設定します。 参考 ▶ [AF 時自動リバース出力] とは併用できません。	無効・有効
【リバース出力】 連携機に [リバース出力] 機能がある場合に、[有効] に設定します。	無効・有効

設定項目	設定内容
【AF 時自動リバース出力】 連携機に【AF 時自動出力】機能があり、【リバース出力】が【有効】の場合に、【有効】に設定します。	無効・有効
参考 ▶ 【AF 時自動フェイスアップ】とは併用できません。	

- * 1：【両面】を【有効】に設定すると、RLP モードだけでなく、製版モードと印刷モードの【機能一覧】タブ画面にも、【RLP 両面】が表示されます。【RLP 両面】を設定すると、印刷枚数にかかわらず、連携機でプリントされます。
- * 2：【トレイ No.】は、連携機の機種により異なります。

RLP モードでプリントする

本機のスキャナーで紙の原稿を読み取って、連携機でプリントするモードを「RLP モード」と呼びます。

重要

▶ あらかじめ【環境設定】で設定が必要です。
(105 「連携機を利用するための準備」)

1 連携機の電源が ON になっていることを確認する

2 原稿をセットする

(31 「原稿をセットする」)

3 RLP モードに切り替える

【ホーム】画面 (22) で【RLP】をタッチします。

参考

▶ 【ネットワーク起動中です】または【Prioα の情報を取得中です】と表示されたときは、ネットワーク経由で連携機の情報を確認中です。この処理には数分かかることがあります。メッセージが消えるまでお待ちください。

4 連携機を選択する

連携機が複数ある場合は、利用したい連携機を選択します。



- ① RLP 名称をタッチする
- ② 利用したい連携機のボタンをタッチする
- ③ 【確定】をタッチする

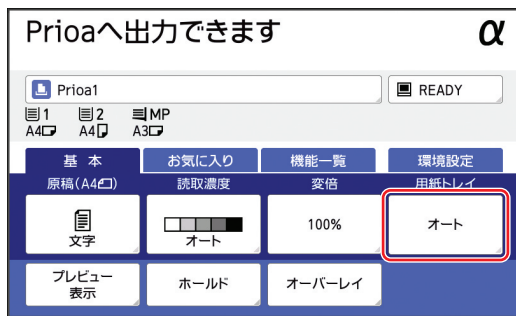
参考

▶ エラーが発生している連携機は選択できません。

▶ 選択中の連携機でエラーが発生すると、【RLP 切替】画面が表示されます。利用できる連携機を選択し直してください。

5 用紙を選択する

連携機に用紙トレイが複数ある場合は、必要に応じて用紙トレイを選択します。



- ① [用紙トレイ] をタッチする
- ② 使いたい用紙サイズのボタンをタッチする
- ③ [確定] をタッチする

6 その他のプリント条件を設定する

(107 「RLP モードで設定する機能」)

7 テンキーで印刷枚数を入力する

8 [スタート] キーを押す

原稿の読み取りが開始されます。
読み取られた原稿データが連携機に送信され、
連携機でプリントされます。

参考 ▶ 連携機への送信を中断したいときは、[ストップ] キーを押します。
未送信のページがプリントされるのを止めることができます。

RLP モードで設定する機能

各機能の詳細や設定手順については、参照ページをご覧ください。

■ 画像処理に関する機能

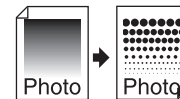
【原稿モード】 (45)

原稿の種類に適した処理を設定できます。



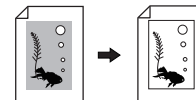
【網点】 (47)

写真の階調を表現するための処理方法を設定できます。



【コントラスト強調】 (47)

明暗がはっきりしない写真を、鮮明な仕上がりにすることができます。



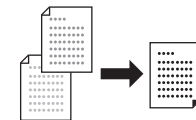
【トーンカーブ選択】 (48)

写真などの明るい部分と暗い部分の調子を調整できます。



【読取濃度】 (48)

原稿の地色や濃淡にあわせて、読取濃度を調節できます。

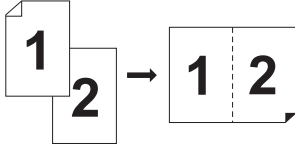
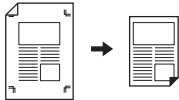


【ブックモード】 (49)

冊子のとじ部分の影を消去または薄くできます。



■ レイアウトに関する機能

【変倍】 (📖 51) 原稿を拡大または縮小できます。 
【用紙トレイ】 連携機用の紙トレイを選択できます。 
【N アップ】 (📖 54) 1 枚の用紙に複数ページの原稿を割り付けられます。 
【レイアウト原稿】 (📖 60) 原稿の先端部分をカット（トリミング）できます。 

■ その他の機能

【プレビュー表示】 (📖 61) プリント前に仕上がりイメージを確認できます。
【ホールド】 (📖 66) 本機に保存された原稿データを操作します。
【オーバーレイ】 (📖 68) 紙原稿に、[ホールド] または [USB メモリー] に保存された原稿データを合成できます。 
【メモリー】 (📖 89) 各種機能が設定された状態を、登録しておくことができます。
【占有延長】 (📖 91) パソコンから受信したデータが意図せずにプリントされることを防げます。
【カウンター表示】 連携機でプリントした枚数の累計を確認できます。

■ オプション機能

下表の機能は、[環境設定] の [RLP 情報設定] で該当機能が [有効] に設定されている場合に利用できます。
(📖 105 「連携機を利用するための準備」)

参考 ▶ 連携機の機種やオプション構成によっては、利用できない場合があります。

下線部は、工場出荷時の設定です。

機能	設定内容
【両面】 両面プリントします。 重要 ▶ 原稿台ガラスを使う場合、 [RLP 両面待ち時間] (📖 116) で設定された時間内に 2 枚目の原稿をセットしないと、片面だけがプリントされます。	自動原稿送り装置 (オプション) の有無により異なります*。
【電子ソート】 単一の排紙トレイに、部単位で排紙します。	<u>OFF</u> ・ON
【フェイスアップ】 印刷面を上向きにして排紙します。	<u>OFF</u> ・ON
【リバース出力】 自動原稿送り装置 (オプション) で読み取った原稿を、最後のページからプリントします。	<u>OFF</u> ・ON

- *：[両面] の設定内容は、以下の通りです。
- 本機に自動原稿送り装置が装着されていない場合：
OFF・長辺とじ・短辺とじ
 - 本機に自動原稿送り装置が装着されている場合：
OFF・片面→両面・両面→片面・両面→両面
[原稿セット方向]：左向き・読める向き
[仕上がりのページめくり方向] ([片面→両面] 設定時)：左右開き・上下開き
[原稿のページめくり方向] ([両面→片面] [両面→両面] 設定時)：左右開き・上下開き



第 8 章

利用環境を設定する

利用環境を設定する【環境設定】

本機をより便利にご利用いただくために、初期値の変更やシステム制御に関する設定などができます。

【環境設定】画面の表示

1 基本画面の【環境設定】タブをタッチする

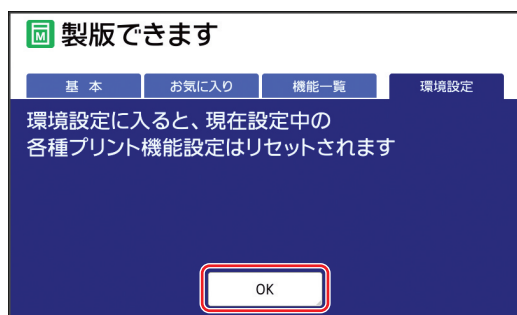
参考 ▶ 【環境設定】タブが表示されていない場合は、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。



【環境設定】タブ画面が表示されます。

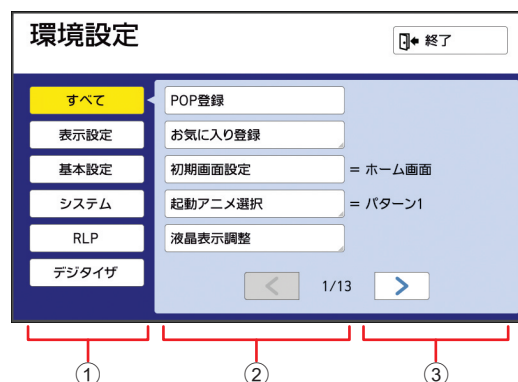
2 【OK】をタッチする

重要 ▶ 【OK】をタッチすると、製版／印刷／RLP／スキャンモードで設定されている機能がリセットされます。
▶ 認証画面が表示された場合は、管理者として認証操作してください。一般ユーザーは【環境設定】画面に入れません。
(122「ユーザーを識別する【認証設定】」)



【環境設定】画面が表示されます。

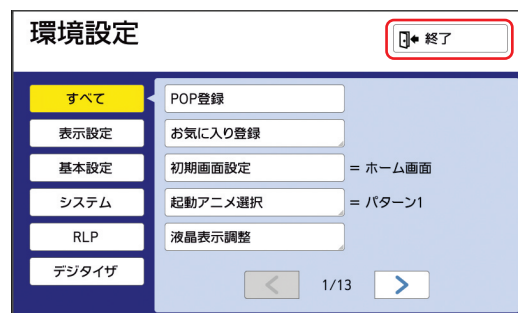
3 設定したい項目のボタンをタッチする



- ① 表示セレクトボタン
タッチすると、表示項目を分類ごとに絞り込むことができます。
- ② 項目ボタン
タッチすると設定画面が表示されるものと、タッチするたびに ON、OFF が切り替わるものがあります。
- ③ 設定内容表示
項目によっては、現在の設定内容が表示されます。

【環境設定】画面の終了

1 【終了】をタッチする



基本画面に戻ります。

設定項目一覧

- ・ 下線部は、工場出荷時の設定です。
- ・ ※ は、オプション装着時にだけ表示される項目です。

■ 表示設定

タッチパネル画面の表示に関する設定です。

設定項目	設定内容
【POP 登録】 各モードの【基本】タブ画面に、よく使う機能を登録できます。	 118 「POP 登録」
【お気に入り登録】 各モードの【お気に入り】タブ画面に、よく使う機能を登録できます。	 119 「お気に入り登録」
【初期画面設定】 本機が起動した後に表示される画面を、変更できます。	ホーム画面、製版／印刷、スキャン、RLP （【RLP】は、【RLP 情報設定】が設定されているときだけ表示されます。）
【起動アニメ選択】 本機の起動中に表示されるアニメーションのパターンを、変更できます。	<u>パターン 1</u> 、パターン 2
【液晶表示調整】 タッチパネルの画面表示を調整できます。 参考 ▶ 【エコモード】（ 115）を【ON】に設定しているときは、【バックライトの明るさ】が【-2】に固定されます。	【バックライトの明るさ】：-2 ～ 0 ～ +2
【ジョブリスト表示切替】 原稿データのリストを表示する画面（【受信ジョブ】【ホールドデータ選択】【USB データ選択】）について、長いファイル名の表示方式を変更できます。	先頭表示、末尾表示
【表示言語】 画面に表示される言語を変更できます。 重要 ▶ 設定を変更する場合は、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。	#1（日本語）～
【サービス連絡先設定】 【表示する】に設定しておく、サービスエラー（  154）の画面に【連絡先】が表示されます。設定する連絡先については、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。	表示しない、 <u>表示する</u> [TEL] [FAX]
【サプライ連絡先設定】 【表示する】に設定しておく、消耗品エラー（  154）の画面に【連絡先】が表示されます。設定する連絡先については、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。	表示しない、 <u>表示する</u> [TEL] [FAX]

■ 基本設定

各種設定の初期値（電源 ON またはリセット時の値）を変更できます。

設定項目	設定内容
【原稿モード基本設定】 [原稿モード] (45) の初期設定を変更できます。	文字、 写真（標準、顔写真）、 文字・写真（標準、文字優先、写真優先、下地 カット）、えんぴつ（こいめ、うすめ）
【読取濃度基本設定】 [読取濃度] (48) の初期設定を変更できます。	[読取濃度基準]：うすめ、標準、こいめ [読取濃度]：オート、1、2、3、4、5
【変倍基本設定】 [変倍] (51) の初期設定を変更できます。	100%、オート
【印刷速度基本設定】 印刷速度 (72) の初期設定を変更できます。 参考 ▶ [エコモード] (115) を [ON] に設定しているときは、[印刷 速度基本設定] は [3] に固定されます。	1、2、3、4、5
【印刷濃度基本設定】 印刷濃度 (73) の初期設定を変更できます。 参考 ▶ [エコモード] (115) を [ON] に設定しているときは、[印刷 濃度基本設定] は [1] に固定されます。	[印刷濃度基準]：うすめ、標準、こいめ [印刷濃度]：1、2、3、4、5
【AF 読取面変更】※ 自動原稿送り装置（オプション）で、片面原稿を読み取る際の [AF 読取面指定] (64) の初期設定を変更できます。	オモテ面→片面、ウラ面→片面
【AF 連続自動設定】※ ・ [ON] に設定しておく、自動原稿送り装置（オプション）に原 稿をセットしたときに [連続] (26) が自動的に ON に変更され ます。 ・ [OFF] に設定しておく、自動原稿送り装置に原稿をセットして も [連続] の設定は変更されません。	OFF、ON
【AF オート製版基本】※ 自動原稿送り装置（オプション）装着時に、[AF オート製版] (62) の初期設定を変更できます。	OFF、ON
【連続基本設定】 [連続] (26) の初期設定を変更できます。	OFF、ON
【重送検知基本設定】 [重送検知] (81) の初期設定を変更できます。	OFF、ON
【合紙仕分け基本設定】 [合紙仕分け] (88) の初期設定を変更できます。 参考 ▶ [テープ仕分け基本設定] と [合紙仕分け基本設定] は、どちらか 片方しか ON にできません。	OFF、ON
【テープ仕分け基本設定】※ ST ソーター（オプション）装着時に、[テープ仕分け] (89) の 初期設定を変更できます。 参考 ▶ [テープ仕分け基本設定] と [合紙仕分け基本設定] は、どちらか 片方しか ON にできません。	OFF、ON

設定項目	設定内容
【排紙ウイング特殊基本】 【排紙ウイング特殊】(80) の初期設定を変更できます。  ▶ 【排紙ウイング特殊基本】は、あらかじめ特殊用紙が設定されている場合にだけ表示されます。詳しくは、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。	<u>OFF</u> 、ON
【特殊排紙調整基本】 【特殊排紙調整】(76) の初期設定を変更できます。	【エアブロー】：OFF、 <u>ON</u> 【分離ファン】：OFF、1、 <u>2</u> 、3、4 【サククションファン】：1、2、 <u>3</u> 、4 【プレサククションファン】： <u>OFF</u> 、ON
【スキャン保存先設定】 スキャンモードの【保存場所】(99) の初期設定を変更できます。	<u>1</u> ～ 6_FOLDER
【速度優先製版基本設定】 【速度優先製版】(51) の初期設定を変更できます。	<u>OFF</u> 、ON

■ システム

本機の動作や制御に関係する設定を変更できます。

設定項目	設定内容
【用紙サイズ登録】 定形サイズ以外の用紙を使う場合に、あらかじめ用紙サイズを登録します。	120 「用紙サイズ登録」
【不定形原稿サイズ固定】 原稿が定形サイズではないときに、【変倍】(51) の【オート】を使うと、【不定形原稿サイズ固定】で指定した範囲が、原稿サイズとして読み取られます。	<u>OFF</u> 、A3、B4、A4、A4、B5、B5
【フォルダー名変更】 【ホールド】のフォルダー名を変更できます。	1 ～ 6_FOLDER
【外付コントローラ】 RISO コントローラ IS300（オプション）を接続する場合は、【有効】に設定してください。ただし、【有効】に設定すると、以下の機能は使えなくなります。 ・【ホールド】(66) ・【USB メモリー】(66) ・パソコンと USB ケーブルで接続してプリントすること IS300 の使い方については、IS300 の取扱説明書をご覧ください。	無効、有効
【ネットワーク設定 (IPv4)】 本機をネットワークに接続するための設定です。本機に Internet Protocol version 4（インターネットプロトコル バージョン 4）のアドレスを割り当てる場合に設定します。	手入力する、 <u>DHCP を使用する</u> (121 「IPv4 のネットワークに接続する場合」)
【ネットワーク設定 (IPv6)】 本機をネットワークに接続するための設定です。本機に Internet Protocol version 6（インターネットプロトコル バージョン 6）のアドレスを割り当てる場合に設定します。	手動、ステートレス、 <u>ステートフル</u> (122 「IPv6 のネットワークに接続する場合」)
【LAN インターフェース設定】 物理ネットワークの種別を設定します。通常は【AUTO】のまま使用してください。	AUTO、10HALF、10FULL、100HALF、100FULL

設定項目	設定内容
【プロキシ設定】 [エラー履歴送信] を実行するための設定です。 参考 ▶ この機能は、お客様に同意を頂いている場合にのみ表示されます。販売会社（あるいは保守・サービス会社）から指示があった場合に使用してください。	使用しない、使用する [アドレス]、[ポート No.]、[ユーザー名]、 [パスワード]
【エラー履歴送信】 エラー履歴を、当社の管理サーバーに送信できます。 参考 ▶ この機能は、お客様に同意を頂いている場合にのみ表示されます。販売会社（あるいは保守・サービス会社）から指示があった場合に使用してください。	表示メッセージに従って操作してください。
【周囲余白縮小率】 [周囲余白] (51) の設定に適用される縮小率を変更できます。	90 ～ 94 ～ 99 %
【自動 90 度回転】 原稿と用紙のサイズが同じで向きが一致しない場合に、自動的に画像回転して製版されます。	OFF、ON
【日時設定】 本機に内蔵されている時計 (136) を調整できます。	年・月・日・時・分
【連写待ち時間】 [連写] (56) では、次の原稿をセットせずに一定時間が経過すると、自動的に製版が始まります。この一定時間を [連写待ち時間] と呼びます。	15 秒、30 秒
【占有時間】 本機は、動作が停止したままで何も操作されなくても、一定時間が経過するまでは、受信した原稿データの製版を開始しません。この一定時間を [占有時間] と呼びます。	OFF、15 秒、30 秒、60 秒
【占有延長時間】 [占有延長] (91) で延長される時間を変更できます。	5 分、10 分、30 分
【オートクリア設定】 本機を一定時間操作しないと、初期設定に戻るよう設定できます。また、初期設定に戻るまでの時間を変更できます。	無効、有効 [動作までの時間]：1 ～ 5 ～ 60 分
【オートスリープ設定】 本機を一定時間操作しないと、消費電力を抑える「スリープ」状態になります。 [スリープ時の消費電力] を [少ない] に設定すると、[標準] よりも消費電力を低減できますが、以下の制約があります。 ・スリープ時は、RISO コンソールを表示できません。（[標準] なら、表示できます。） ・スリープ時は、原稿データを受信できません。（[標準] なら、受信できます。） 参考 ▶ [プロテクト] (128) を [有効] に設定しているときは、[動作までの時間] が [1 分] に固定されます。	[スリープ時の消費電力]：少ない、標準 [動作までの時間]：1 ～ 5 ～ 99 分
【オートシャット OFF 設定】 本機を一定時間操作しないと、電源が OFF になるよう設定できます。	無効、有効 [動作までの時間]：1 ～ 99 分

設定項目	設定内容
【シャットOFF時刻】 指定した時刻になると、本機の電源がOFFになるように設定できます。 参考 ▶ 指定した時刻に本機を使用していたり、本機が原稿データを受信していたりする場合は、電源がOFFになりません。	無効、有効 [時]：0～23 [分]：0～59
【エコモード】 プリント時の消費電力を抑える設定です。 [ON] に設定しておく、以下の状態になります。 ・[OFF] のときより、低い圧力で印刷します。 ・[OFF] のときより、画面表示が暗くなります。 ・[印刷速度基本設定] と [印刷濃度基本設定] (112) が変更できなくなります。 ・基本画面のメッセージエリアに [E コモード] アイコンが表示されます。 参考 ▶ [省インク] をONにすると、[E コモード] アイコンよりも [省インク] アイコンが優先的に表示されます。	OFF、ON
【認証設定】 ユーザーごとの利用管理や、セキュリティの強化ができます。	122 「認証設定」
【プロテクト】 使用済みのマスターを管理するための設定です。	128 「プロテクト」
【オートアイドリング】 ドラムを一定時間使用しないと、次の製版時に自動的に [アイドリング] (92) が実行されるように設定できます。 [アイドリング] は、インクをドラムになじませる動作です。 [動作回数] を増やすと、より入念になじませることができます。	無効、有効 [未使用時間]：1～12 時間 [動作回数]：1～3 回
【オート再製版設定】 指定した印刷枚数に達すると、自動的に [再製版] (75) が実行されるように設定できます。再製版後に試し刷りする枚数も指定できます。	無効、有効 [再製版開始枚数]：1～1000～9999 枚 [再製版試し刷り枚数]：0～3～99 枚
【最低印刷枚数】 指定枚数以上の印刷枚数が入力されているときだけ製版できるように、設定できます。 参考 ▶ [自動振分枚数] を [有効] に設定しているときは、[最低印刷枚数] は [無効] に固定されます。 ▶ [最低印刷枚数] の設定を変更できないように、ロックをかけることができます。詳しくは、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。	無効、有効 2～99 枚
【排紙フェンス取出位置】 ※ オートフェンス排紙台（オプション）装着時、排紙フェンスオープンボタンを押したときに広がるフェンスを指定します。	エンド、サイド、両方

設定項目	設定内容
【サプライ在庫管理】 購入したサプライ（マスターロール、インクボトル）の本数を入力しておく、在庫数が少なくなった時に確認画面が表示されるので便利です。 サプライを購入したら、以下の手順で設定します。 ① 購入した本数を含めた在庫数を、[購入した本数]に入力します。 ② [在庫数] の [◀] をタッチします。[在庫数] が [購入した本数] と同期されます。 参考 ▶ 在庫数が [確認在庫数]（画面の一番下の入力欄）で指定した本数以下になると、確認画面が表示されます。	[購入した本数]：0 ～ 99 本 [確認在庫数]：0 ～ 99 本
【ネットワーク設定初期化】 [ネットワーク設定（IPv4）]、[ネットワーク設定（IPv6）] と、RISO コンソールの [ネットワーク]（  133）で設定された内容を、工場出荷時の状態に戻すことができます。	[ネットワーク設定初期化] をタッチすると、実行の確認画面が表示されます。 [確定] をタッチすると、初期化が実行されます。
【ブザー音】 ・ [OFF] に設定しておく、ブザーが鳴りません。 ・ [限定] に設定しておく、エラーが発生したときにエラー音が鳴ります。 ・ [ON] に設定しておく、エラー音だけでなく、キーやボタンの操作音、動作が完了したときの確認音も鳴ります。	OFF、限定、ON

■ RLP ※

連携機（別売）を接続している場合にだけ表示されます。

設定項目	設定内容
【RLP 情報設定】 ※ 連携機の IP アドレスやオプション機能などを設定できます。	 105 「連携機を利用するための準備」
【自動振分枚数】 ※ 「自動振分」 ( 104) の基準となる枚数を設定できます。 参考 ▶ [自動振分枚数] を [有効] に設定しているときは、[最低印刷枚数] は [無効] に固定されます。	無効、有効 [自動振分枚数]：2 ～ 20 ～ 99 枚
【RLP 両面待ち時間】 ※ RLP モードで両面プリントするときに、2 枚目の原稿をセットするまでの待ち時間を設定できます。	15 秒、30 秒
【受信ジョブ自動振分】 ※ [有効] に設定しておく、紙原稿だけでなく、パソコンから受信した原稿データも、[自動振分枚数] の設定に従って自動振分されます。 参考 ▶ [自動振分枚数] を [無効] に設定しているときは、[受信ジョブ自動振分] は設定できません。	無効、有効
【RLP 情報取得時間】 ※ 本機が連携機から情報を取得する間隔を、変更できます。	10 ～ 15 ～ 999 秒

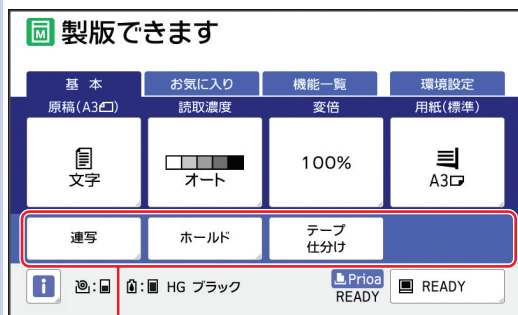
■ デジタイザ ※

デジタイザ（オプション）を使用する場合にだけ表示されます。

設定項目	設定内容
【印刷色基本設定】 ※	デジタイザの取扱説明書をご覧ください。
【原稿表示方向基本】 ※	

よく使う機能を【基本】タブ画面に登録する【POP登録】

よく使う機能を、基本画面のPOPエリアに登録することができます。



POPエリア

以下の各モードのPOPエリアに登録できます。

- ・製版モード
- ・印刷モード
- ・スキャンモード
- ・RLPモード

参考

- ▶ オプション機器を接続すると、POPエリアに自動的に登録される機能があります。
- ▶ 【認証設定】が設定されている場合は、POPエリアに表示される機能をユーザーごとに変更できます。
([93](#)「よく使う機能をユーザーごとに登録する【認証POP登録】」)

1 【環境設定】画面で【POP登録】をタッチする

2 登録したいモードのタブをタッチする



3 登録したい機能ボタンをタッチする

登録済みのボタンでも、タッチして他の機能に変更できます。

4 登録する機能名をタッチする



- ・【<】【>】をタッチすると、表示を切り替えられます。
- ・機能を登録しない場合は、【登録しない】をタッチします。
- ・登録済みの機能名にはタッチできません。

5 【確定】をタッチする

【POP登録】画面に戻ります。

他にも登録したい機能ボタンがある場合は、手順3～5を繰り返します。

6 【確定】をタッチする

【環境設定】画面に戻ります。

よく使う機能を【お気に入り】タブ画面に登録する【お気に入り登録】

よく使う機能を「お気に入り」タブ画面に登録することができます。



以下の各モードの「お気に入り」タブ画面に登録できます。

- ・製版モード
- ・印刷モード
- ・RLPモード



▶ オプション機器を接続すると、「お気に入り」に自動的に登録される機能があります。

1 【環境設定】画面で【お気に入り登録】をタッチする

「お気に入り登録」画面が表示されます。

2 登録したいモードのタブをタッチする



3 登録したい機能ボタンをタッチする

登録済みのボタンでも、タッチして他の機能に変更できます。

4 登録する機能名をタッチする



- ・[<] [>] をタッチすると、表示を切り替えられます。
- ・機能を登録しない場合は、「登録しない」をタッチします。
- ・登録済みの機能名にはタッチできません。

5 【確定】をタッチする

「お気に入り登録」画面に戻ります。

他にも登録したい機能ボタンがある場合は、手順3～5を繰り返します。

6 【確定】をタッチする

「環境設定」画面に戻ります。

不定形の用紙を登録する [用紙サイズ登録]

定形サイズ (14) 以外の用紙を使う場合は、あらかじめ用紙サイズを登録する必要があります。
登録した用紙サイズは、[用紙サイズ] (53) で選択できます。

■ 登録できる用紙サイズ

W100×H148 mm ~ W340×H555 mm

- 工場出荷時は、以下の用紙サイズが登録されています。
必要に応じて、消去や変更もできます。

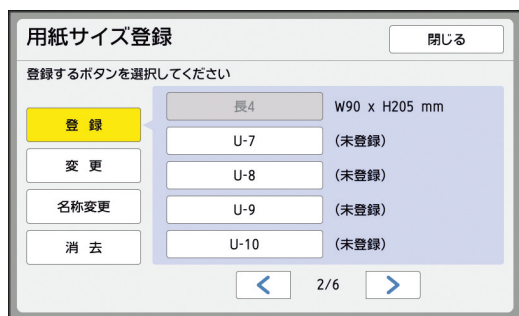
名称	用紙サイズ
角 2_FLAP	W240×H372 mm
角 2	W240×H332 mm
長 3_FLAP	W120×H260 mm
長 3	W120×H235 mm
長 4_FLAP	W90×H223 mm
長 4	W90×H205 mm

- 標準の排紙台で使用できるのは、W320×H432 mm までです。オプションの排紙台 W (176) を装着すると、W340×H555 mm まで使用できます。
ただし、紙質や用紙サイズによっては、紙揃えが安定しないことがあります。
- 長さ (H) が 436 mm 以上の場合は、「長尺モード」 (53) で印刷されます。

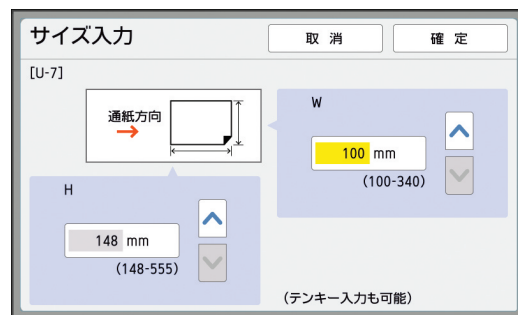
用紙サイズの登録

1 [環境設定] 画面で [用紙サイズ登録] をタッチする

2 未登録のボタンをタッチする



3 用紙サイズを指定する



以下のどちらの方法でも指定できます。

- テンキーで数値を入力する
- [✓] [^] をタッチする

- 参考**
- ▶ [H] を 436 mm ~ 555 mm に指定した場合、その用紙を「長尺用紙」と呼びます。
(53 「不定形の手紙を使う [用紙サイズ]」)
 - ▶ 「長尺用紙」を使うには、オプションの排紙台 W が必要です。

4 [確定] をタッチする

[用紙サイズ登録] 画面に戻ります。

用紙サイズの変更

1 [環境設定] 画面で [用紙サイズ登録] をタッチする

2 [変更] をタッチする



3 変更したい用紙のボタンをタッチする

4 用紙サイズを変更する

5 [確定] をタッチする

[用紙サイズ登録] 画面に戻ります。

用紙サイズの名称変更

- 1 [環境設定] 画面で [用紙サイズ登録] をタッチする

- 2 [名称変更] をタッチする



- 3 名称変更したいボタンをタッチする
(☞ 25 「[名称入力] 画面」)

- 4 [確定] をタッチする
[用紙サイズ登録] 画面に戻ります。

用紙サイズの消去

- 1 [環境設定] 画面で [用紙サイズ登録] をタッチする

- 2 [消去] をタッチする



- 3 消去したいボタンをタッチする

- 4 確認画面で [確定] をタッチする
選択した用紙サイズが消去され、[用紙サイズ登録] 画面に戻ります。

ネットワークに接続する [ネットワーク設定 (IPv4)] [ネットワーク設定 (IPv6)]

本機をネットワークに接続するには、接続環境に応じて IP アドレスなどの設定をする必要があります。

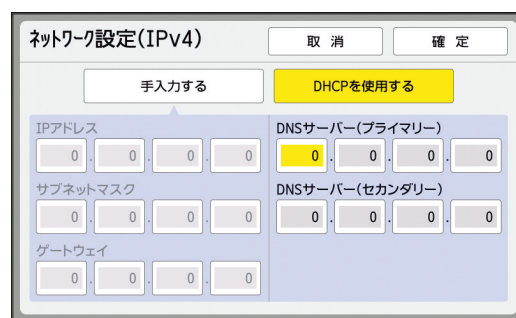
IPv4 のネットワークに接続する場合

本機に Internet Protocol version 4 (インターネット プロトコル バージョン 4) のアドレスを割り当てる場合に設定します。

- 1 [環境設定] 画面で [ネットワーク設定 (IPv4)] をタッチする

- 2 設定方法を選択する

接続環境に応じて、[手入力する] と [DHCP を使用する] のどちらかをタッチします。



- 3 設定値を入力する

選択状態になっている入力欄が、入力対象です。入力対象は、以下のどちらの方法でも切り替えられます。

- [※] キーを押す
- 入力欄を直接タッチする

参考 ▶ [C] キーを押すと、選択状態になっている入力欄の値を「0」に戻せます。

- 4 [確定] キーをタッチする
[環境設定] 画面に戻ります。

IPv6 のネットワークに接続する場合

本機に Internet Protocol version 6（インターネット プロトコル バージョン 6）のアドレスを割り当てる場合に設定します。

1 [環境設定] 画面で [ネットワーク設定 (IPv6)] をタッチする

2 設定方法を選択する

接続環境に応じて、[手動] [ステートレス] [ステートフル] のいずれかをタッチします。

3 設定値を入力する

- [プレフィックス] :
テンキーで入力できます。
- その他の設定項目 :
ボタンにタッチすると [キーボード] 画面が表示されます。以下の手順で入力してください。

- ① 画面上のボタンをタッチして入力します。
数字は、テンキーでも入力できます。
- ② [確定] キーをタッチすると、[ネットワーク設定 (IPv6)] 画面に戻ります。

4 [確定] キーをタッチする

[環境設定] 画面に戻ります。

ユーザーを識別する [認証設定]

「認証」とは、ユーザーごとに割り当てられた暗証番号などを利用して、本機のユーザーを識別することです。ユーザーを識別することにより、ユーザーごとの利用管理やセキュリティの強化ができます。

認証機能を有効にするには、以下の設定が必要です。

- [認証方式]
- [認証有無]
- [ユーザー登録]

参考

▶ 工場出荷時は認証機能が無効なので、以下の状態です。

- すべてのユーザーが本機を利用できます。
- すべてのユーザーが [環境設定] を変更できます。

■ 認証機能について

認証機能には、大きく分けて「本体認証」と「認証プリント」があります。

本体認証

本機の利用時に認証操作（暗証番号の入力、認証用 USB メモリーの挿入、または IC カードのタッチ）が必要になります。

それによって、本機の利用を、登録されたユーザーに限定できます。

また、[環境設定] の操作を、管理者に限定できます。

さらに、以下の機能が利用できるようになります。

- [認証 POP 登録] (93)
- [① 情報] の [利用枚数] (137)
- [利用枚数集計] (95)
- スキャンモードの [認証する] (99)
- [ホールド] [USB メモリー] の [認証あり] *1 (66)

* 1: 管理者は、すべてのユーザーの認証データを操作できます。

認証プリント

ユーザーがプリンタードライバーで [認証プリント] を設定すると、本機で原稿データの操作をする際に、認証操作（暗証番号の入力、認証用 USB メモリーの挿入、または IC カードのタッチ）が必要になります。それにより、原稿データの操作を、設定した本人に限定できます*2。

(34 「パソコンからプリントする」)

(39 「保存された原稿データをプリントする」)

* 2: 管理者は、すべてのユーザーの認証データを操作できます。

【認証方式】

ユーザーを識別するために、以下のどれを使うかを決めます。

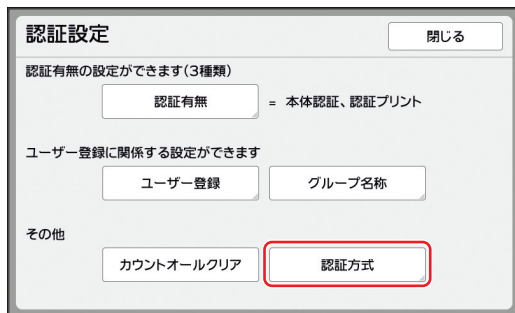
- 暗証番号
- USB メモリー
- IC カード（オプションの IC カードリーダー装着時）



▶ 必ず最初に設定してください。【認証方式】を変更すると、【ユーザー登録】の内容を含むすべての認証設定が消去されます。

1 【環境設定】画面で【認証設定】をタッチする

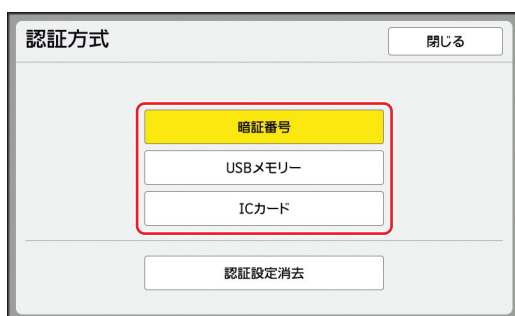
2 【認証方式】をタッチする



3 使用する認証方式をタッチする



▶ 【IC カード】は、IC カードリーダー（オプション）を装着している場合に表示されます。



確認画面が表示されます。

4 【確定】をタッチする

【認証有無】

認証の種類を設定します。

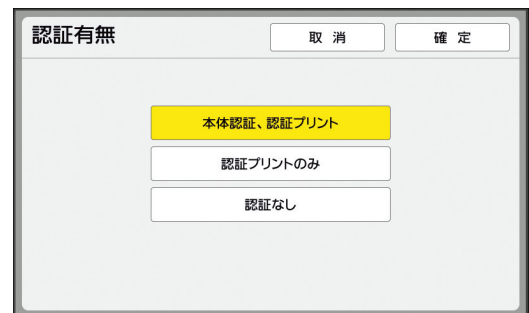


▶ あらかじめ【認証方式】の設定をしてください。

1 【認証設定】画面で【認証有無】をタッチする

【認証設定】画面を表示するには【認証方式】（[123](#)）の手順 1 ～ 3 を行います。

2 利用する認証の種類をタッチする



■ 【本体認証、認証プリント】

「本体認証」と「認証プリント」の両方を利用します。

■ 【認証プリントのみ】

「認証プリント」だけを利用します。

■ 【認証なし】

「本体認証」「認証プリント」は利用しません。
【環境設定】の操作を、管理者に限定します。

3 【確定】をタッチする

[ユーザー登録]

本機を使うユーザーを登録します。

重要 ▶ あらかじめ [認証方式] の設定をしてください。

登録できるユーザー数は [認証方式] によって異なります。

[認証方式]	登録可能な認証登録番号
[暗証番号] または [USB メモリー]	0 番～ 99 番
[IC カード]	0 番～ 499 番*

* : [認証プリント] (34) を使えるのは、0 番～ 99 番のユーザーだけです。

ユーザーは、「管理者」と「一般ユーザー」に分類されます。

■ 「管理者」とは

本機に登録されたユーザーには、「認証登録番号」が割り当てられます。認証登録番号の 0 番に登録されたユーザーを「管理者」と呼びます。

管理者は、本機の機能をすべて利用できます。
管理者を登録すると、認証機能が有効になります。



■ 「一般ユーザー」とは

認証登録番号が 1 番以降のユーザーを「一般ユーザー」と呼びます。一般ユーザーは、[環境設定] 画面に入れません。

1 [認証設定] 画面で [ユーザー登録] をタッチする

[認証設定] 画面を表示するには [認証方式] (123) の手順 1 ～ 3 を行います。

2 ユーザーに割り当てる認証登録番号をタッチする



[登録] 画面が表示されます。

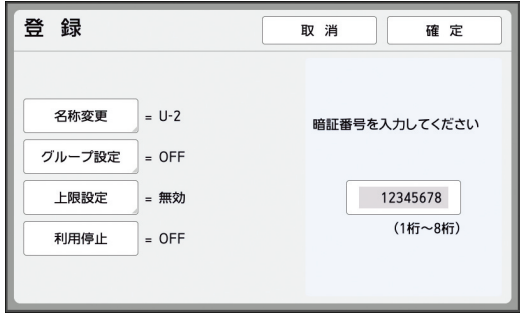
重要 ▶ 管理者が登録されていない場合は、一般ユーザーを登録できません。最初に管理者を登録してください。

参考 ▶ すでに登録されている番号は選択できません。

3 認証用の情報を登録する

■ 暗証番号の場合

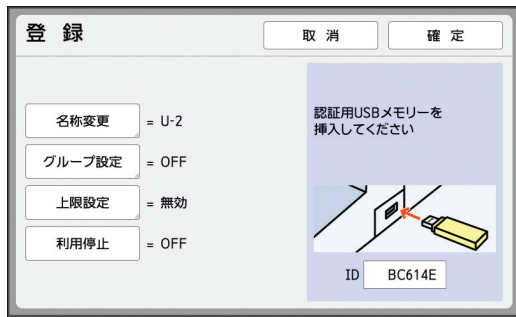
暗証番号をテンキーで入力します。



入力した番号が表示されます。

■ USB メモリーの場合

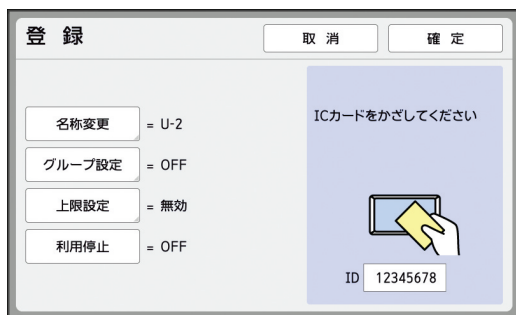
認証用に登録する USB メモリーを挿入します。



USB メモリー固有の番号が表示されます（この番号は変更できません）。

■ IC カードの場合

認証用に登録する IC カードをかざします。



IC カード固有の番号が表示されます（この番号は変更できません）。

4 ユーザー情報を設定する

必要に応じて、以下の項目を設定します。

■ [名称変更]

このユーザーの名称を変更できます。ここで設定した名称は、[利用枚数集計] (95) で保存した CSV ファイルの「USERNAME」項目に表示されます。

(125 「ユーザー名の変更」)

■ [グループ設定]

このユーザーが所属するグループ（部署など）を、設定できます。設定すると、[利用枚数集計] (95) で保存した CSV ファイルに、グループごとの集計が表示されます。

(125 「グループの設定」)

■ [上限設定]

このユーザーが製版や印刷で利用できる枚数の上限を、設定できます。

(126 「利用できる枚数の上限設定」)

■ [利用停止]

このユーザーが本機を利用することを、禁止できます。

(126 「一時的な利用停止」)

5 [確定] をタッチする

認証用の USB メモリーを挿入している場合は、取り外します。

登録が完了したら、ユーザーに以下を配布してください。

■ [認証方式] が [暗証番号] の場合

- 認証登録番号
- 暗証番号

■ [認証方式] が [USB メモリー] または [IC カード] の場合

- 認証登録番号
- 認証用 USB メモリーまたは IC カード



▶ 認証登録番号は、[認証プリント] を利用する際に必要です。

■ ユーザー名の変更

1 [名称変更] をタッチする

2 ユーザー名を入力する

(25 「[名称入力] 画面」)

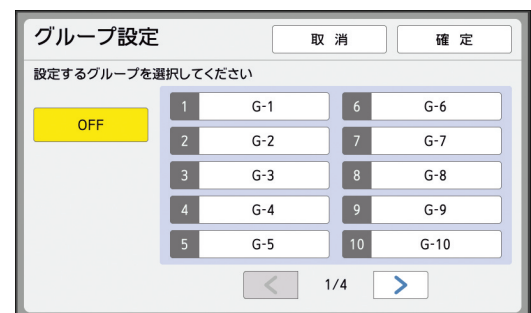
3 [確定] をタッチする

[登録] 画面に戻ります。

■ グループの設定

1 [グループ設定] をタッチする

2 設定したいグループをタッチする



▶ グループを設定しない場合は [OFF] をタッチします。

3 [確定] をタッチする

[登録] 画面に戻ります。

■ 利用できる枚数の上限設定

1 [上限設定] をタッチする

2 印刷と製版の上限枚数を入力する

[上限印刷枚数設定] または [上限製版枚数設定] の入力ボックスをタッチし、テンキーで上限枚数を入力します。

上限枚数を 0 に設定すると、制限なしになります。

参考

- ▶ [現状印刷枚数] [現状製版枚数] には、そのユーザーが現在までに印刷または製版した枚数が表示されます。
- ▶ [現状印刷枚数] [現状製版枚数] の枚数をクリアするには、[◀C] をタッチします。

3 [確定] をタッチする

[登録] 画面に戻ります。

■ 一時的な利用停止

1 [利用停止] をタッチする

[利用停止] が ON になります。

参考

- ▶ 利用停止を解除する場合は、もう一度 [利用停止] をタッチします。
- ▶ 管理者を利用停止にすることはできません。

ユーザーの情報変更

1 [認証設定] 画面で [ユーザー登録] をタッチする

[認証設定] 画面を表示するには [認証方式] (123) の手順 1 ~ 3 を行います。

2 [変更] をタッチする

3 変更したいユーザーをタッチする

[変更] 画面が表示されます。

参考

- ▶ 管理者の情報も変更できます。

4 登録情報を変更する

必要に応じて [ユーザー登録] (124) の手順 3 以降を行います。

一般ユーザーの消去

1 [認証設定] 画面で [ユーザー登録] をタッチする

[認証設定] 画面を表示するには [認証方式] (123) の手順 1 ~ 3 を行います。

2 [消去] をタッチしてから、消去したいユーザーをタッチする

参考

- ▶ この画面では、管理者を消去できません。管理者を消去するには、認証機能を無効にします。
(127 「認証設定の消去」)

3 [確定] をタッチする

グループの名称変更

1 【認証設定】画面で【グループ名称】をタッチする

【認証設定】画面を表示するには【認証方式】
(123) の手順 1 ～ 3 を行います。

2 名称を変更したいグループをタッチする



3 グループ名称を入力する

(25 「[名称入力] 画面」)

4 【確定】をタッチする

全ユーザーの利用枚数クリア

全ユーザーの【現状製版枚数】と【現状印刷枚数】を、一括してクリアできます。



▶ 利用枚数をクリアすると、クリアする前の状態に戻すことはできません。



▶ 特定のユーザーの利用枚数だけをクリアする場合は「利用できる枚数の上限設定」(126) の手順 2 で、[◀] をタッチします。

1 【認証設定】画面で【カウントオールクリア】をタッチする

【認証設定】画面を表示するには【認証方式】
(123) の手順 1 ～ 3 を行います。

2 【確定】をタッチする

認証設定の消去

認証機能を無効にするには、管理者の登録を含む認証設定をすべて消去します。

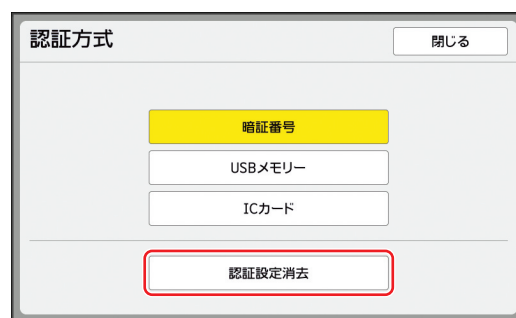


▶ 認証設定を消去すると、消去する前の状態に戻すことはできません。

1 【認証設定】画面で【認証方式】をタッチする

【認証設定】画面を表示するには【認証方式】
(123) の手順 1 ～ 3 を行います。

2 【認証設定消去】をタッチする



確認画面が表示されます。

3 【確定】をタッチする

認証設定がすべて消去され、認証機能が無効になります。

使用済みのマスターを管理する 【プロテクト】

プリント終了後は、製版済みのマスターがドラムに巻き付いたまま印刷可能な状態になっています。

【機密】（[図 92](#)）を実行すると、製版済みのマスターが破棄されるので、機密書類の不正な印刷を防ぐことができます。

しかし、破棄されたマスターは排版ボックスに蓄積されるので、悪意を持つ第三者によって排版ボックスが取り出されるリスクがあります。

このようなリスクを回避するために、本機には【プロテクト】機能が搭載されています。

参考

- ▶ 【プロテクト】を【有効】にすると、【オートスリープ設定】（[図 114](#)）に移行するまでの時間が1分に固定されます。
- ▶ 【プロテクト】が【有効】の場合、【再製版】（[図 75](#)）は使用できません。

■ 【プロテクト】有効時の動作

- プリント終了後に、【機密】の実行をうながす確認画面が表示されます。



【実行する】：タッチすると、製版済みのマスターが破棄されます。

【実行しない】：破棄する必要がない、または刷り増しをしたい場合などにタッチします。ただし、以下の場合に、確認画面が再度表示されます。

- 【リセット】キーを押したとき
- 【オートクリア設定】（[図 114](#)）で設定された時間が経過した後
- スリープ状態から復帰したとき
- 電源を ON にしたとき

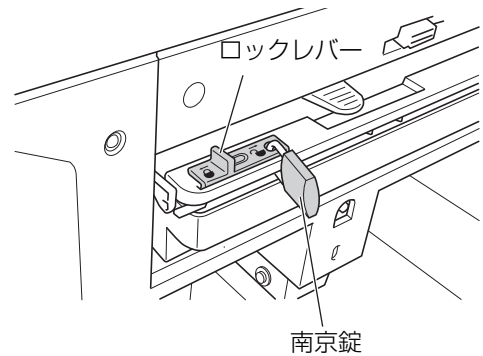
参考

- ▶ 以下の場合には、【実行しない】は表示されません。
 - 【機密】が実行されていないドラムを新たに装着した場合
 - 【機密】の実行をうながす確認画面が表示されたままスリープ状態になり、スリープ状態から復帰した場合
 - 【機密】が実行されていないドラムが装着された状態で、電源を ON にした場合

- 排版ボックスが取り外せないように、ロックされます。ただし、排版部でマスターがつまったり、排版ボックスがいっぱいになったりしたときは、排版ボックスを取り外せます。

参考

- ▶ 排版ボックスを管理者以外が取り外せないように、南京錠などで施錠することができます。南京錠は、下図のようにロックレバーの穴に差し込みます。（南京錠は、市販品をお買い求めください。南京錠を差し込む穴の直径は 7mm です。）



【プロテクト】の設定

1 【環境設定】画面で【プロテクト】をタッチする

【プロテクト】が【有効】になります。

【プロテクト】の解除

1 【環境設定】画面で【プロテクト】をタッチする

「しばらくお待ちください」と表示された後、【プロテクト】が【無効】になります。



第 9 章

RISO コンソールを利用する

RISO コンソールについて

「RISO コンソール」は、Web ブラウザーを利用して本機を遠隔操作する機能です。
ネットワーク経由で接続されたパソコンから、本機の状態確認や設定変更などができます。

■ 対応 Web ブラウザー

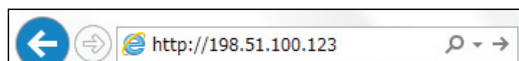
OS	Web ブラウザー
Windows	Internet Explorer 11 Microsoft Edge
Mac OS	Safari 6 Safari 7 Safari 8 Safari 9 Safari 10

RISO コンソールへのアクセス

1 Web ブラウザーを起動する

2 本機の IP アドレスを入力する

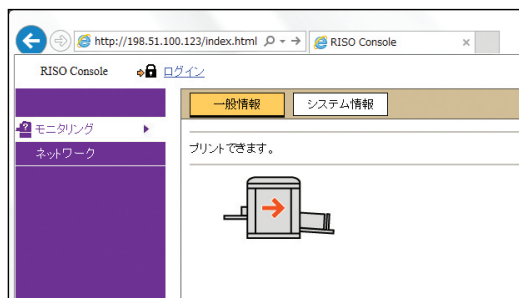
入力例：



参考 ▶ 本機の IP アドレスについては、管理者にお問い合わせください。

3 [Enter] キーを押す

RISO コンソールの [モニタリング] メニュー画面が表示されます。



ログイン

以下の操作をするためには、RISO コンソールにログインする必要があります。

- ・ [プリンター] メニュー画面の閲覧
- ・ [ネットワーク] メニュー画面での設定変更
(ログインしなくても、設定の確認はできます。)

1 [ログイン] をクリックする

RISO Console ログイン

2 [ユーザー名] と [パスワード] を入力する

ログインしてください

ユーザー名:

パスワード:
 - - -

OK キャンセル

■ [ユーザー名]

「admin」(半角小文字) と入力します。
ユーザー名は変更できません。

■ [パスワード]

RISO コンソールの [ユーザー情報] タブ画面 (131) で設定されたパスワードです。
工場出荷時のパスワードは「admin」(半角小文字) です。

3 [OK] をクリックする

ログアウト

1 [ログアウト] をクリックする

RISO Console ログアウト admin

ログアウトすると、ユーザー名の表示が消えて、[ログイン] の表示に変わります。

[モニタリング] メニュー

本機の状態やシステム情報を確認したり、ログイン用のパスワードを変更したりすることができます。

[一般情報] タブ画面

本機の状態を確認できます。

消耗品残量	用紙サイズ	紙質
給紙台	A3	標準
マスター		
インク		

ドラム情報	サイズ	色
ドラム	A3	ブラック

■ 本機の状態

[プリントできます。] [スリープ中です。] などのメッセージが表示されます。本機でエラーが発生した場合は、エラーメッセージが表示されます。

■ 消耗品残量

[給紙台]

給紙台にセットされている用紙の残量と、[用紙サイズ] [紙質] が表示されます。

[マスター]

本機にセットされているマスターの残量が表示されます。

残量が少なくなると、残量ゲージが点滅します。

[インク]

本機にセットされているインクの残量が表示されます。残量が少なくなると、残量ゲージが点滅します。

■ 排版ボックス空き容量

排版ボックスの空き容量が表示されます。空き容量が少なくなると、残量ゲージが点滅します。

■ ドラム情報

本機にセットされているドラムのサイズと色が表示されます。

[システム情報] タブ画面

本機のシステム情報を確認できます。

[システム情報]	
プリンタ名:	RISO SF9x9 Series 000000
機種名:	RISOGRAPH SF939
シリアル番号:	000000000
MACアドレス:	00-00-00-00-00-00
ファームバージョン:	ABCS 00.00.00
[印刷機情報]	
印刷速度:	速度3
印刷濃度:	濃度3
印刷解像度:	600 x 600 dpi
印刷枚数:	38161
ホールドメモリー使用量:	12.44MB
ホールドメモリー空き容量:	17.55MB
[デブソートモード]	
デブソーター:	使用不可
[スキャンモード]	
読取濃度:	オート
A4原稿:	無し
原稿モード:	文字モード

[ユーザー情報] タブ画面

RISO コンソールにログインするためのパスワードを、変更できます。

1 [パスワード変更] をクリックする

2 新しいパスワードを入力する

3 [OK] をクリックする

[完了] 画面が表示されます。

4 [OK] をクリックする

ユーザー情報>パスワード変更>完了

設定内容を送信しました。

OK

[プリンター] メニュー

本機内の原稿データを確認したり、[ホールド] のフォルダー名を変更したりすることができます。

[処理中] タブ画面

本機で処理中の原稿データの一覧を、確認できます。

処理中			1-4件表示(全4件)▼▲
ジョブ名	オーナー名	受付日時▼	
Configuration	RISO PRINTER	2014/10/16 18:25	
Configuration	RISO PRINTER	2014/10/16 18:25	
Configuration	RISO PRINTER	2014/10/16 18:24	
Configuration	RISO PRINTER	2014/10/16 18:24	
表示単位: ● 50件ごと ◎ 100件ごと			1-4件表示(全4件)▼▲

- 見出し行（[ジョブ名] [オーナー名] [受付日時]）をクリックすると、並び順を変更できます。
- 一覧表示する件数を、[50 件ごと] と [100 件ごと] から選択できます。

[ホールド] タブ画面

本機の [ホールド] に保存されている原稿データを確認できます。

処理中			ホールド	フォルダー	1-4件表示(全4件)▼▲
フォルダー名: フォルダー1					
▼削除	▲プリント	□詳細表示	▼ダウンロード	■移動先	
ジョブ名	オーナー名	受付日時▼			
Configuration	RISO PRINTER	2014/10/16 18:25			
Configuration	RISO PRINTER	2014/10/16 18:25			
Configuration	RISO PRINTER	2014/10/16 18:24			
Configuration	RISO PRINTER	2014/10/16 18:24			
表示単位: ● 50件ごと ◎ 100件ごと					1-4件表示(全4件)▼▲

- 見出し行（[ジョブ名] [オーナー名] [受付日時]）をクリックすると、並び順を変更できます。
- 一覧表示する件数を、[50 件ごと] と [100 件ごと] から選択できます。

■ [削除]

削除したい原稿データのジョブ名をクリックして選択します。[削除] をクリックすると、選択した原稿データが削除されます。

■ [プリント]

プリントしたい原稿データのジョブ名をクリックして選択します。[プリント] をクリックすると、選択した原稿データがプリントされます。

■ [詳細表示]

詳細情報を確認したい原稿データのジョブ名をクリックして選択します。
[詳細表示] をクリックすると、選択した原稿データの
詳細情報が表示されます。また、原稿データの [ジョブ
名] と [オーナー名] を変更できます。

■【ダウンロード】

パソコンにダウンロードしたい原稿データのジョブ名をクリックして選択します。【ダウンロード】をクリックし、画面の指示に従って操作すると、選択した原稿データがパソコンにダウンロードされます。

参考

- ▶ ダウンロードできる原稿データは、本機独自のファイル形式です。当社の編集ソフト「理想かんたんパレット SP」などで利用できます。

■【移動先】

移動したい原稿データのジョブ名をクリックして選択します。【移動先】のメニューから、移動先のフォルダーを選択すると、選択した原稿データが移動されます。

【フォルダー】 タブ画面

【ホールド】のフォルダー名を変更できます。

1 名称変更したいフォルダーをクリックする

2 【フォルダー名】欄に、新しいフォルダー名を入力する

3 【OK】をクリックする 【完了】画面が表示されます。

4 【OK】をクリックする

【ネットワーク】メニュー

本機のネットワーク接続に関する設定の確認や変更ができます。

各項目をクリックすると、該当項目の設定画面が表示されます。

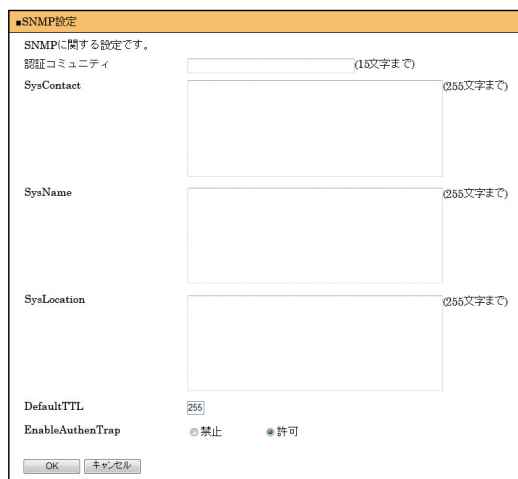
【ネットワーク設定】画面

本機をネットワークに接続するための設定です。

【OK】をクリックすると、設定変更が反映されます。

【SNMP 設定】画面

SNMP（Simple Network Management Protocol）に関する設定です。ネットワーク環境に応じて設定します。



■SNMP設定

SNMPに関する設定です。

認証コミュニティ (15文字まで)

SysContact (255文字まで)

SysName (255文字まで)

SysLocation (255文字まで)

DefaultTTL 255

EnableAuthenTrap ☐ 禁止 ☒ 許可

OK キャンセル

[OK] をクリックすると、設定変更が反映されます。

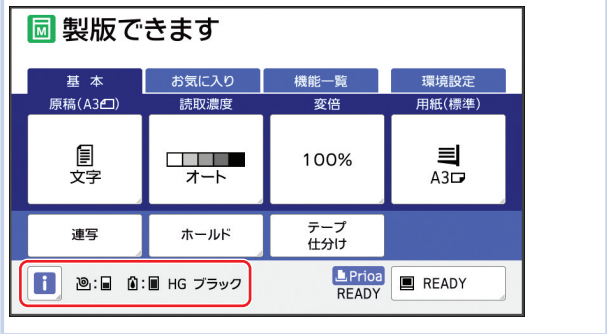


第 10 章

消耗品を交換する

消耗品の残量を確認する

基本画面のステータスエリアに、消耗品の情報が表示されています。



■ 【i】アイコンについて

【i】アイコンの色は、本機の動作状態を表します。

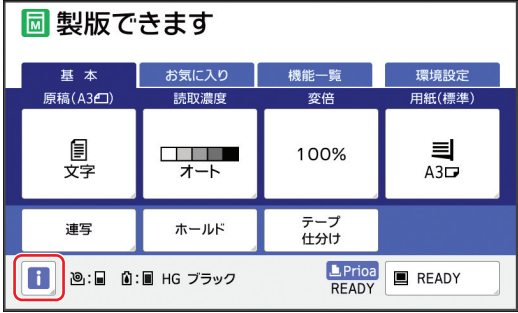
表示	説明
(青色)	本機は正常に動作します。
(黄色)	本機は正常に動作しますが、消耗品からの情報を必要とする機能（残量表示など）が働きません。 (161 「[消耗品情報入力ウィザード] 画面が表示されたら」)

■ 消耗品の情報表示について

表示	説明
	本機にセットされているマスターの残量が表示されます。 参考 ▶ マスターロールから情報を取得できなかった場合は、残量は表示されず、点滅表示になります。
	本機にセットされているインクの残量と色名が表示されます。 参考 ▶ インクボトルから情報を取得できなかった場合は、残量は表示されず、点滅表示になります。色名は「ブラック」または「カラー」と表示されます。 (161 「[消耗品情報入力ウィザード] 画面が表示されたら」)

さらに詳細な情報を知りたい場合は、以下の手順で確認できます。

1 基本画面で【i】をタッチする



2 表示される情報を確認する



■ 【消耗品残量】

マスター、インク、用紙の残量が、それぞれ残量ゲージで表示されます。



▶ 情報を取得できなかった場合、残量は表示されません。

■ 【排版ボックス空き容量】

排版ボックスの空き容量が、アイコンで表示されます。

■ 【ドラム情報】

本機にセットされているドラムのサイズと色が表示されます。ドラム上のマスターが「省インク」(50) を使用して製版されている場合は、「省インク」と表示されます。

■ 日付と時刻

本機に内蔵されている時計を表示します。
[環境設定] の [日時設定] (114) で日時合わせをすることができます。

■ 【利用枚数】

認証機能 (122) が有効な場合、[⑩ 情報] 画面に【利用枚数】が表示されます。【利用枚数】をタッチすると、【利用枚数】画面が表示されます。

【利用枚数】画面では、現在認証されているユーザーの利用枚数を確認できます。

(95 「利用枚数を集計する 【利用枚数集計】」)

利用枚数		閉じる
U-1[G-1]		
上限印刷枚数	10,000	
現状印刷枚数	6,511	
上限製版枚数	10,000	
現状製版枚数	250	

マスターをセットする

マスターがなくなると、メッセージが表示されて本機が停止します。

新しいマスターをセットしてください。

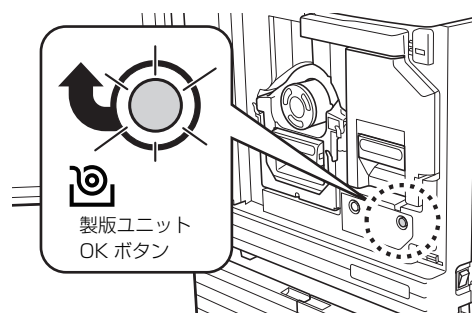


- ▶ 当社推奨のマスターを使用してください。
(176 「消耗品について」)
- ▶ マスターのセットは、本機の電源を入れた状態で行ってください。

1 前カバーを開ける

2 【製版ユニット OK ボタン】のランプが点灯していることを確認する

ランプが消えているときは、【製版ユニット OK ボタン】を押して点灯させます。

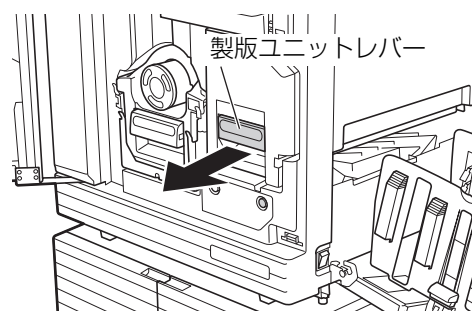


参考

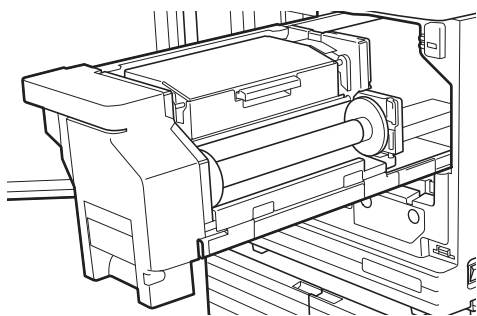
- ▶ ドラムを引き出しているときは、製版ユニットを引き出せません。ドラムを戻してから、【製版ユニット OK ボタン】を押します。

3 製版ユニットを引き出す

- ① 製版ユニットレバーを握って、手前に引き出す。

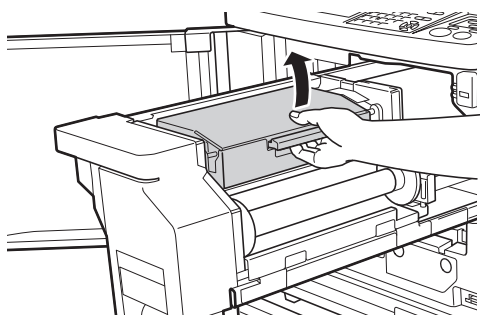


- ② 製版ユニットが止まるまで、ゆっくりと引き出します。

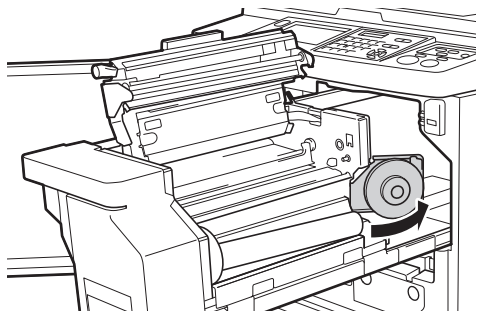


4 製版ユニットカバーを開ける

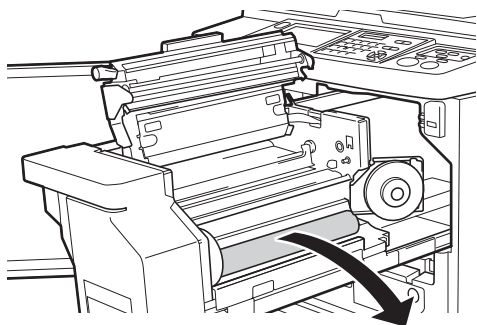
レバーを握りながら、製版ユニットカバーを上を開けます。



5 マスターロールストッパーを開ける



6 使用済みのマスター芯を外す



- ・使用済みのマスター芯は、自治体の規制に従って廃棄してください。
(☞ 145 「使用済み消耗品の回収・廃棄について」)

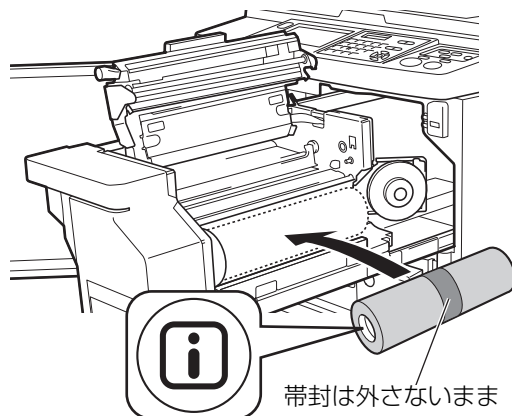
- ・サーマルヘッドをクリーニングしてください。
(☞ 148 「お手入れのしかた」)

7 新しいマスターロールをセットする

マスターロールの包装（透明フィルム）を取り除きます。[i] マークがある方を左側にセットします。

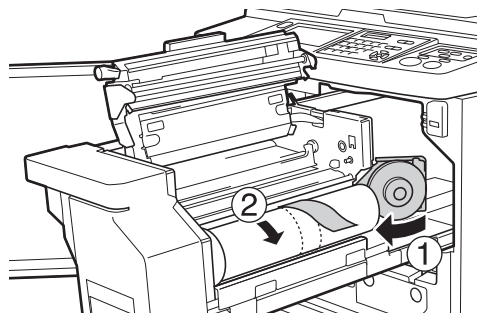
重要

- ▶ [⑩] 部分に傷を付けないようにしてください。[⑩] 部分が折れ曲がったり、ミシン目が切れてしまったりすると、そのマスターは使用できなくなります。
- ▶ 帯封は、まだ外さないでください。



8 マスターロールストッパーを閉める

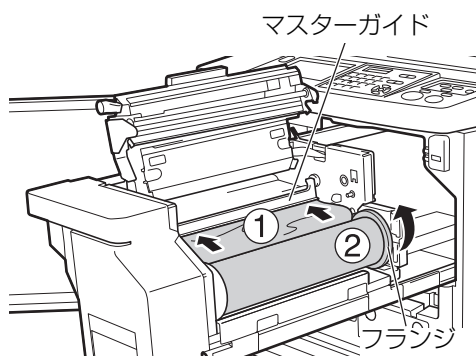
- ① マスターロールストッパーを閉めます。
- ② 帯封を外します。



9 マスターの先端をガイドの下に差し込む

- ① マスターガイドの下に、マスターの先端が奥に当たるまで差し込みます。

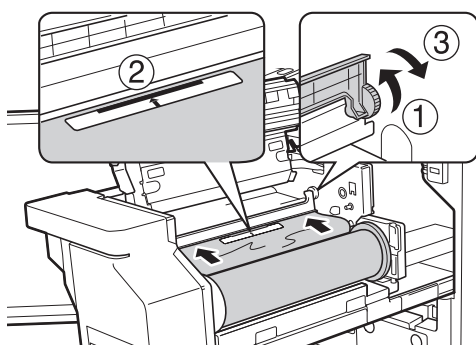
- ② 右のフランジを奥側に回して、たるみを巻き戻します。



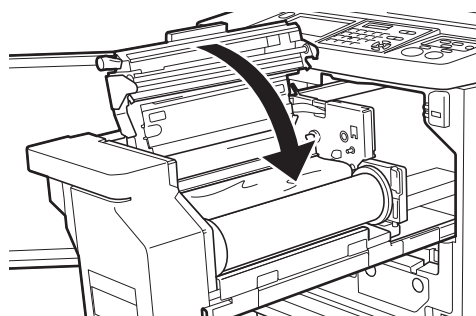
■ マスターを差し込めないときは

次の手順でマスターを差し込んでください。

- ① マスターガイド端のダイヤル部分を奥側に回して、マスターガイドを上げます。
- ② マスターの先端を、矢印の先のライン部分に合わせます。
- ③ マスターガイドを戻します。



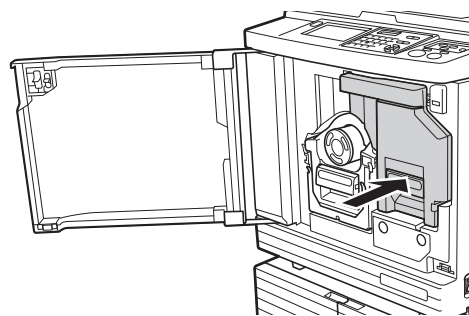
10 製版ユニットカバーを閉める



重要

- ▶ 製版ユニットを閉めるときは、レバーを持たずに、カバー自体を手で上から押しつけてください。手を離しても開かないように、確実に閉めてください。

11 製版ユニットを戻す



12 前カバーを閉める

インクボトルを交換する

インクがなくなると、メッセージが表示されて本機が停止します。
新しいインクボトルに交換してください。

⚠ 注意

ドラム周辺にはインクが付いていることがありますので、手や衣服などが触れないように注意してください。
手などにインクが付いたときは早めに洗剤で洗い落としてください。

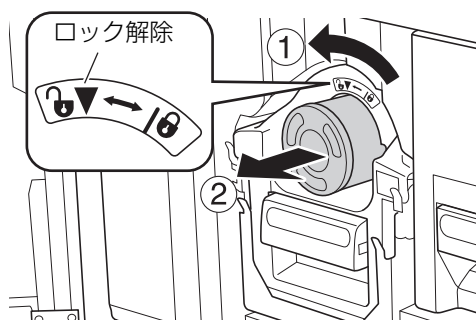
重要

- ▶ 当社推奨のインクを使用してください。
(☞ 176「消耗品について」)
- ▶ インクボトルの交換は、本機の電源を入れた状態で行ってください。
- ▶ 必ず同じ色のインクボトルと交換してください。
インクの色を変えるときは、ドラムごと交換してください。(☞ 143「ドラムを交換する」)

1 前カバーを開ける

2 使用済みのインクボトルを引き抜く

- ① インクボトルを左方向に回します。
- ② インクボトルを手前に引き抜きます。

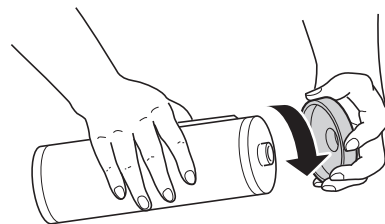


重要

- ▶ 使用済みのインクボトルは、自治体の規制に従って廃棄してください。
(☞ 145「使用済み消耗品の回収・廃棄について」)

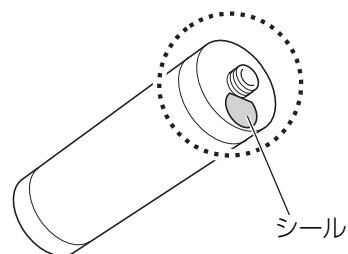
3 新しいインクボトルのキャップを外す

インクボトルのキャップを回して外します。



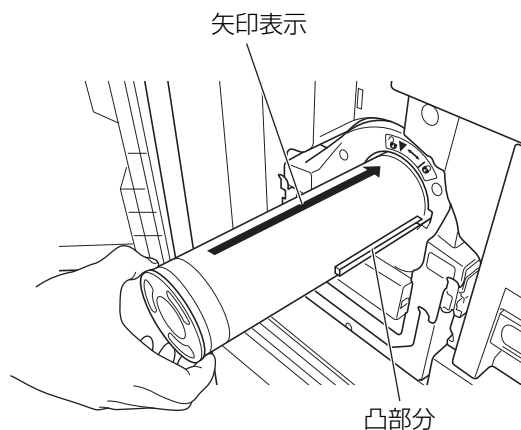
重要

- ▶ インクボトルの先端周辺に触れたり、衝撃を与えたりしないでください。
- ▶ インクボトルの先端部分に貼られているシールは、傷つけたりはがしたりしないでください。



4 新しいインクボトルをセットする

インクボトルの矢印表示をドラムの[▼]に合わせて、奥に当たるまで差し込みます。
(インクボトルの凸部分を右側にします。)

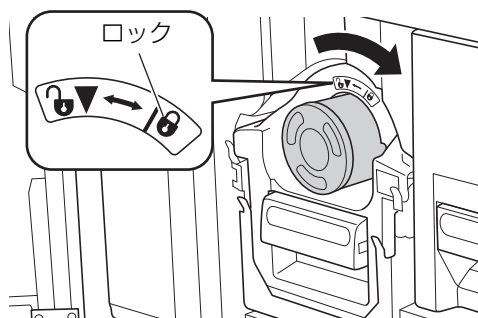


重要

- ▶ インクボトルの向きをよく確認してセットしてください。無理に押し込むと、破損するおそれがあります。

5 インクボトルをロックする

インクボトルを右方向に回して、ロックします。



6 前カバーを閉める

排版ボックスのマスターを廃棄する

使用済みのマスターは、排版ボックスに送られます。排版ボックスの容量がいっぱいになると、メッセージが表示されて本機が停止します。

使用済みのマスターを廃棄してください。



▶ 排版ボックスのマスターの廃棄は、本機の電源を入れた状態で行ってください。



注意

手などにインクが付いたときは早めに洗剤で洗い落としてください。

参考

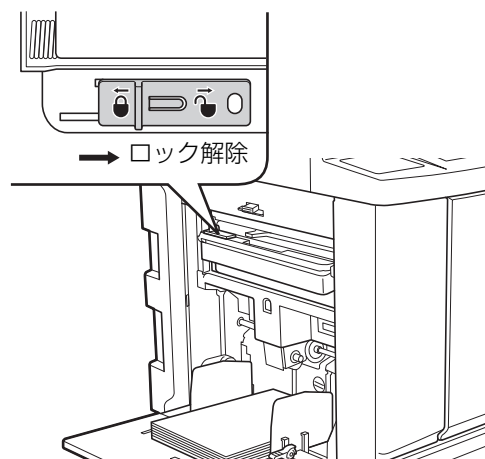
▶ [プロテクト] (128) が ON に設定されている場合、排版ボックスを外せるのは、以下のメッセージが表示されたときだけです。

- [排版ボックスがいっぱいになりました]
- [排版部にマスターがまりました]

1 排版ボックスのロックを解除する

排版ボックスがロックされている場合は、ロックレバーを右にスライドして、解除します。

(ロックレバーが取り付けられていない場合は、この操作は必要ありません。)



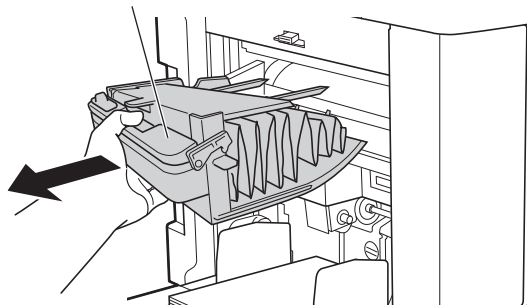
参考

▶ 排版ボックスに南京錠が取り付けられている場合は、管理者に連絡して開錠します。

2 排版ボックスを外す

排版ボックスレバーを握りながら、排版ボックスを水平に引き出します。

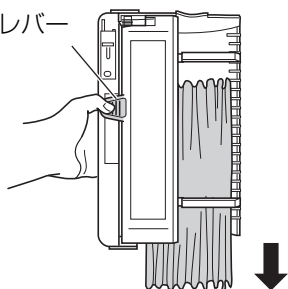
排版ボックスレバー



3 使用済みのマスターを廃棄する

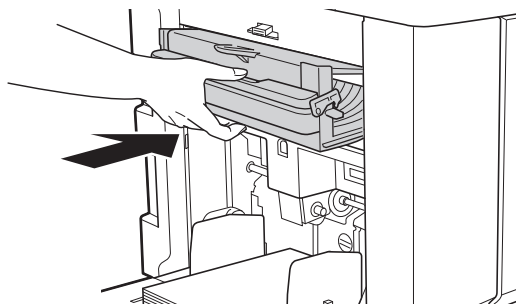
ゴミ箱の上で、排版ボックスを手前に傾けます。押し出しレバーを握ると、使用済みのマスターを落とせます。

押し出しレバー



4 排版ボックスをセットする

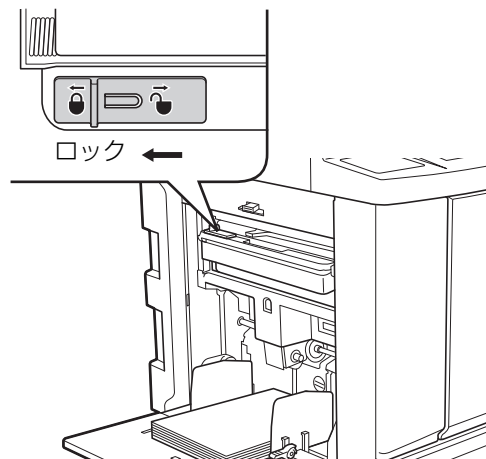
排版ボックスを、奥に当たるまで差し込みます。



- ▶ 使用済みのマスターは、自治体の規制に従って廃棄してください。
([145](#)「使用済み消耗品の回収・廃棄について」)

参考

- ▶ 通常は、排版ボックスのロックを解除したままの状態でご使用いただけます。必要に応じて、ロックレバーを左にスライドして、ロックしてください。南京錠を取り付けることもできます ([128](#))。



ドラムを交換する

他の色で印刷するには、ドラムを交換します。
また、本機の内部につまった紙を取り除くときは、ドラムを取り外すことができます。

⚠ 注意

- ドラム周辺や、ドラムユニットを外した本体内部にはインクが付いていることがありますので、手や衣服などが触れないように注意してください。手などにインクが付いたときは早めに洗剤で洗い落としてください。
- 本体内部に手を入れるときは、突起物や板金の端に触れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
- ドラムは垂直に立てないでください。床などを汚すことがあります。



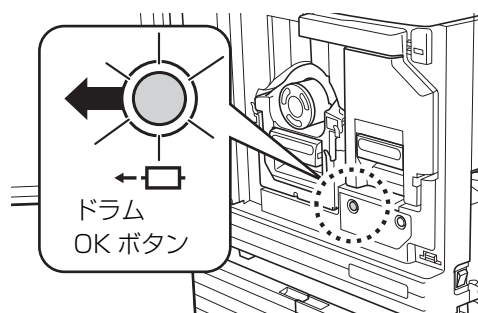
- ▶ 本機専用ドラムを使用してください。
(☞ 176「オプションについて」)
- ▶ ドラムの引き出しやセットは、本機の電源を入れた状態で行ってください。
- ▶ 交換したドラムは、必ずドラムケースに入れて水平に保管してください。

ドラムの取り外し

1 前カバーを開ける

2 【ドラム OK ボタン】 が点灯していることを確認する

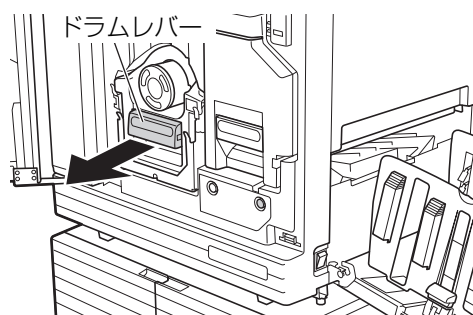
消灯しているときは、【ドラム OK ボタン】を押して点灯させます。



- ▶ 製版ユニットを引き出ししているときは、ドラムを引き出せません。製版ユニットを戻してから、【ドラム OK ボタン】を押します。

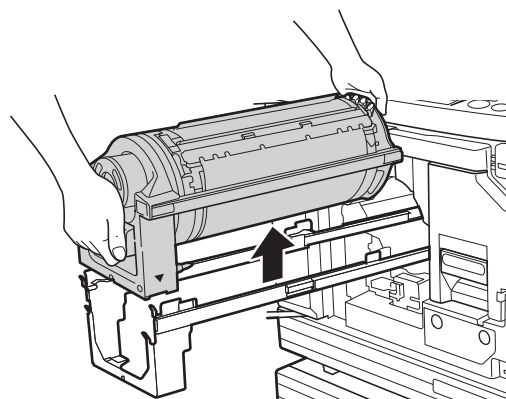
3 ドラムを引き出す

ドラムレバーを握りながら、ドラムが止まるまでゆっくりと引き出します。

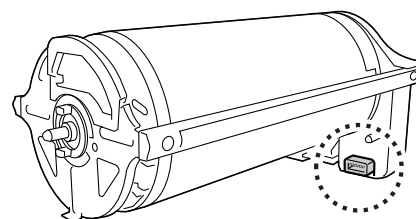


4 ドラムを取り外す

ドラムを両手で真上に持ち上げて、レールから外します。青いハンドル部分をしっかりと握ってください。



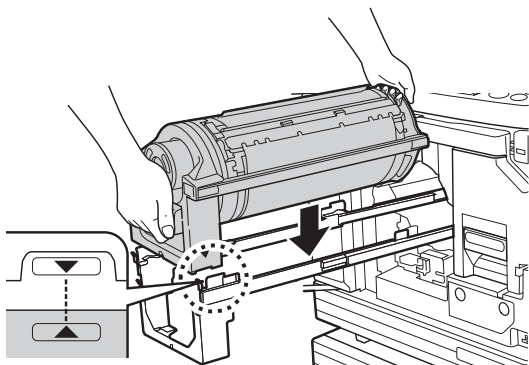
- ▶ ドラムのコネクターには触れないでください。静電気などにより、ドラムが故障する原因になることがあります。



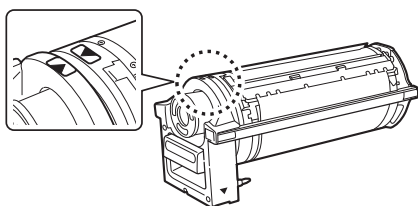
ドラムのセット

1 ドラムをレールにセットする

ドラムの [▼] マークとレールの [▲] マークを合わせます。ドラムをレールに水平にセットします。

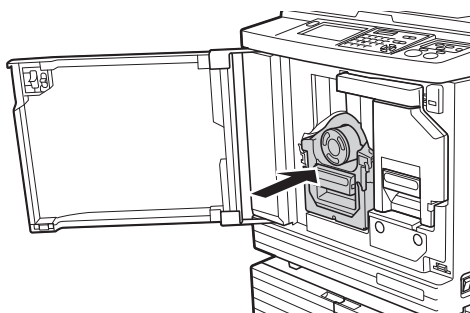


▶ ドラムを手で回したときは、作業後、必ず [▼] マークと [▲] マークが向かい合う位置までドラムを戻してください。



2 ドラムを本体に戻す

ドラムを、止まるまでゆっくりと押し込みます。

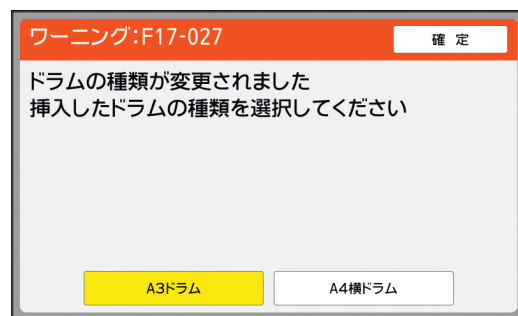


▶ ドラムを押し込むときは、ドラムレバーを握らないでください。

3 前カバーを閉める

■ ドラムの種類を変更したとき

A3 ドラムと A4 横ドラムを入れ替えると、確認画面が表示されます。以下の手順でドラムの種類を確定してください。



- ① セットしたドラムの種類をタッチします。
- ② [確定] をタッチします。

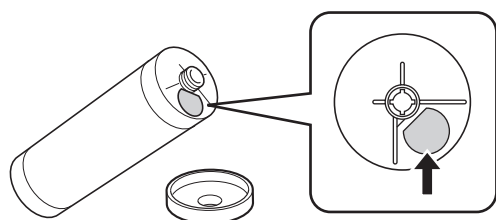
使用済み消耗品の回収・廃棄について

インクボトル

- 使用済みのインクボトルの回収システムがあります。詳しくは、お買い上げの販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。
- 廃棄する場合は、自治体の規制に従ってください。分別の必要があるときは、以下を参考にしてください。

部品名	材質
インクボトル・キャップ	プラスチック（ポリプロピレン、ポリエチレン）
シール	金属を含むプラスチック
インク	植物油、石油系炭化水素、水、顔料

- インクボトル先端のシールを、下図の矢印部分からはがして分別してください。



注意

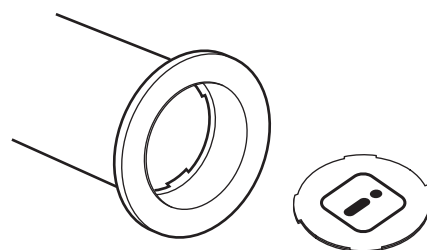
インクボトルの先端付近にはインクが付いていることがありますので、手や衣服などが触れないように注意してください。手などにインクが付いたときは早めに洗剤で洗い落としてください。

マスター芯

- 使用済みのマスター芯は、自治体の規制に従って廃棄してください。分別の必要があるときは、以下を参考にしてください。

部品名	材質
芯	紙
マスター	プラスチック、和紙
〔⑩〕を切り取った部分	金属を含むプラスチック、紙

- 〔⑩〕が型押しされている部分の裏面に、金属を含むシールが付いています。ミシン目から切り取って、分別してください。



使用済みのマスター

- 使用済みのマスターは、自治体の規制に従って廃棄してください。分別の必要があるときは、以下を参考にしてください。

部品名	材質
マスター	プラスチック、和紙
インク	植物油、石油系炭化水素、水、顔料

参考 ▶ 成分は炭素と水素の化合物なので、完全燃焼すれば水と炭酸ガスになります。



第 11 章

お手入れについて

クリーナーについて

本機をお手入れするときに使用していただきたいクリーナーをご紹介します。
クリーナーの注意書きをよく読んでから使用してください。

注意

- クリーナーを、顔や手など人体に付いた汚れには使用しないでください。
- クリーナーを使用した後は、必ず手を洗ってください。

■ リソグラフクリーナー

外装部の清掃に最適です。直接スプレーし、柔らかい布や紙で拭き取ります。清掃後は、汚れの付着を防止する効果もあります。



お手入れのしかた

製版ユニットのサーマルヘッドや自動原稿送り装置（オプション）のスキヤナーガラス、ホワイト板などに、ほこりやゴミ、修正液などが付くと、プリントの仕上がりが汚れたりかすれたりすることがあります。定期的にお手入れすることをおすすめします。

注意

本書に記載されている以外の作業（調整や修理など）は行わないでください。調整や修理は、必ず販売会社（あるいは保守・サービス会社）に依頼してください。

サーマルヘッド

サーマルヘッドは、製版するときが発熱して、マスターに穴をあけるための部品です。マスター交換時にクリーニングしてください。

製版ユニットカバーを開けて、奥にあるサーマルヘッドを、柔らかい布などで数回軽くこすります。



注意

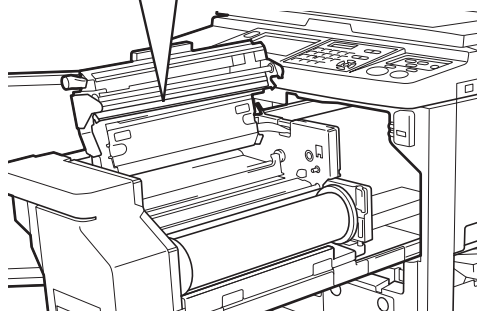
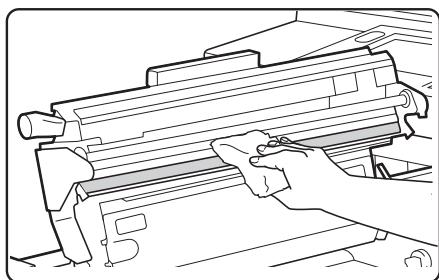


高温注意

サーマルヘッドには、指で直接触れないでください。高温になっている場合、やけどをするおそれがあります。



- ▶ サーマルヘッドは非常にデリケートな部分です。固いもので傷付けたり、衝撃を与えたりすることは、おやめください。
- ▶ サーマルヘッドは静電気に弱い部分です。清掃する前に、身体に帯電している静電気を必ず除去してください。



外装部

本体にほこりなどが付くのを防ぐため、定期的に全体を柔らかい布で軽く拭いてください。

汚れ落としには、リソグラフィクリーナーを使用してください。

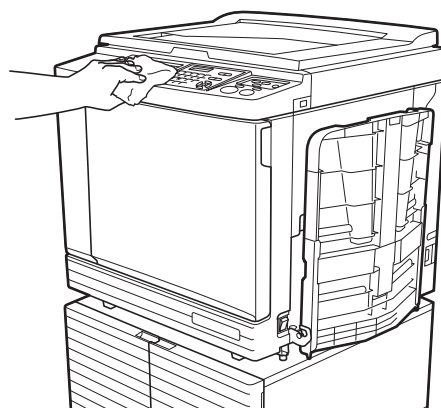


- ▶ 本体の外装部にはプラスチックを使用しています。アルコールや溶剤系の洗剤は使用しないでください。

タッチパネルの汚れは、通常、乾いた布で軽く拭きとります。インクなどで汚れたときは、布などに少量のクリーナーを付けて軽く拭きとってください。



- ▶ タッチパネルにクリーナーを直接吹きかけたり、塗布したりしないでください。故障の原因になります。

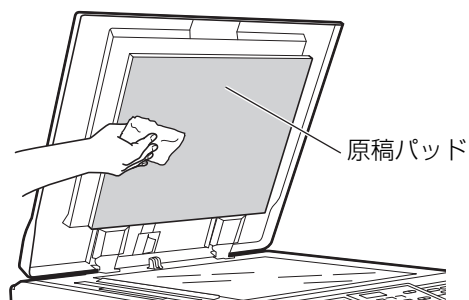
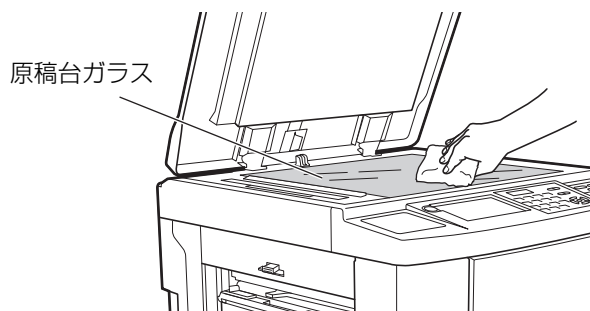


原稿台ガラスと原稿パッド

原稿台ガラスや原稿パッドが汚れているときは、柔らかい布やティッシュペーパーで数回軽く拭いてください。



- ▶ 原稿台ガラスは非常にデリケートな部分です。固いもので傷付けたり、衝撃を与えたりすることはおやめください。

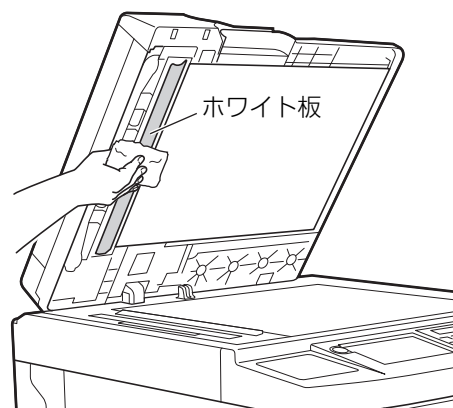


自動原稿送り装置 (オプション)

スキャナーガラスとホワイト板を、柔らかい布やティッシュペーパーで軽くこすり、汚れを落とします。



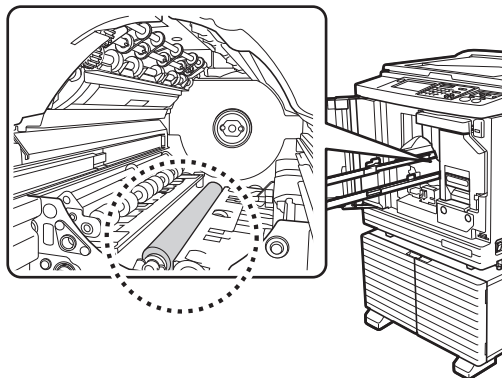
- ▶ スキャナーガラスは非常にデリケートな部分です。固いもので傷付けたり、衝撃を与えたりすることはおやめください。



プレスローラー

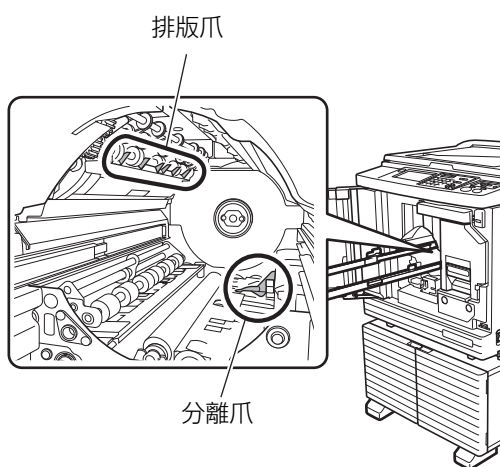
プレスローラーは、ドラムユニットに用紙を圧着させる部品です。プレスローラーが汚れていると、用紙の裏に帯状の汚れが付くことがあります。

柔らかい布やティッシュペーパーで数回軽く拭いてください。



⚠ 注意

- プレスローラーの清掃時には、本機の電源を必ず切ってください。
- ドラムユニットを外した本体内部には、インクが付いていることがありますので、手や衣服などが触れないように注意してください。手などにインクが付いたときは、早めに洗剤で洗い落としてください。
- 本体内部に手を入れるときは、分離爪や排版爪に触れないように注意してください。分離爪や排版爪の先端は鋭利なため、けがの原因となることがあります。





第 12 章

こんなときには

メッセージが表示されたときは

メッセージが表示されたときの対処方法について説明します。

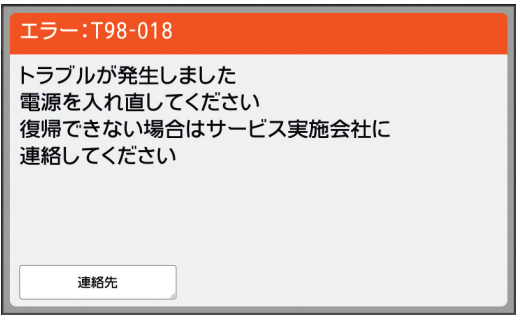


注意

本体内部に手を入れるときは、突起物や板金の端に触れないようにご注意ください。
 けがの原因となることがあります。

メッセージの見かた

状況に応じて、対処方法が表示されます。



番号：
 症状別の番号が表示されます。

メッセージ：
 状況と対処方法が表示されます。
 説明図が表示される場合もあります。

番号 *	種類	内容
T00-0000	サービスエラー	サービス担当者による点検、修理が必要なエラーが発生したときに表示されます。エラーの番号を販売会社（あるいは保守・サービス会社）に連絡してください。
A00-0000	ジャムエラー	マスターがつまったときに表示されます。
B00-0000	オプションエラー	接続されているオプションでエラーが発生したときに表示されます。
C00-0000	消耗品エラー	インク、マスターなどの消耗品がなくなったときに表示されます。
D00-0000	セット確認エラー	各部のセットが正しくされていないときに表示されます。
E00-0000	メンテナンスコール	サービス担当者による電池交換や定期点検が必要なときに表示されます。エラーの番号を販売会社（あるいは保守・サービス会社）に連絡してください。
F00-0000 G00-0000	ワーニング	操作パネルでの設定と、本機または連携機（別売）の状態が適合しないときに表示されます。
J00	通紙ジャムエラー	原稿または用紙がつまったときに表示されます。

*：上表の番号のうち、「0」の部分には固有の番号が表示されます。

メッセージの例

メッセージの代表例を記載します。

ここに記載されていないものについては、表示されるメッセージに従って対処してください。

■ T00-0000 : サービスエラー

番号	メッセージ	対処
T25	電池交換が必要です サービス実施会社に連絡してください	販売会社（あるいは保守・サービス会社）に連絡して、電池を交換してください。 エラーメッセージを消すには、[リセット] キーを押してください。

■ A00-0000 : ジャムエラー

番号	メッセージ	対処
A01	マスターがつかまりました 製版ユニットを引き出してマスターを巻き戻し、もう一度セットしてください	製版ユニットを引き出し、マスターを正しくセットしてください。 (図 137 「マスターをセットする」) 重要 ▶ 巻き戻したマスターがしわになっていたり、ジグザグに切れていたりするときは、カッターなどで先端をまっすぐに切り取ってからセットしてください。
A02	着版できませんでした ドラムを引き出して、マスターを取り除いてください	①ドラムを引き出し、ドラム上のマスターを取り除いてください。 (図 143 「ドラムを交換する」) ②ドラムをセットし直してください。
A04	排版できませんでした ドラムを引き出して、マスターを取り除いてください	③ [スタート] キーを押してください。
A05	排版部にマスターがつかまりました 排版ボックスを取り出し、つまったマスターを取り除いてください	排版ボックスを取り出し、つまっているマスターを取り除いてください。 (図 141 「排版ボックスのマスターを廃棄する」) エラー表示が消えない場合は、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にご連絡ください。
A06	給紙台のセットスイッチが働きました 給紙台の用紙を再セットしてください	給紙台の下や用紙の上に障害物がないかを確認してください。 障害物がある場合は、取り除いてください。
A16	ドラムにマスターが残っています ドラムを引き出して、マスターを取り除いてください	①ドラムを引き出し、ドラム上のマスターを取り除いてください。 (図 143 「ドラムを交換する」) ②ドラムをセットし直してください。 ③ [スタート] キーを押してください。
A17	製版ユニットでトラブルが発生しました マスターをいったん取り出して製版ユニットカバーを閉めてください	マスターを切るカッターが正常に動作しませんでした。 ①製版ユニットを引き出し、マスターを取り出してください。 (図 137 「マスターをセットする」) ②製版ユニットカバーを閉めると、エラーが解除されます。 ③再度製版ユニットカバーを開けて、マスターをセットしてください。
A34	マスターが正しくセットされていません マスターの先端を挿入口にセットしてから、製版ユニットを閉めてください	マスターを正しくセットしてください。 (図 137 「マスターをセットする」) 重要 ▶ 巻き戻したマスターがしわになっていたり、ジグザグに切れていたりするときは、カッターなどで先端をまっすぐに切り取ってからセットしてください。

■ B00-0000 : オプションエラー

番号	メッセージ	対処
B29	認識できませんでした (HUB)	本機の USB スロットに USB ハブがセットされています。 本機で利用できる、正常な USB メモリーをセットしてください。 (図 13 「USB メモリーを使う方法」)
B30 B38 B39	認識できませんでした	本機で利用できる、正常な USB メモリーをセットしてください。 (図 13 「USB メモリーを使う方法」)
B33	本機 IP アドレスが設定されていません 管理者に連絡してください	本機の IP アドレスを設定してください。 (図 113 「[ネットワーク設定 (IPv4)]」) (図 113 「[ネットワーク設定 (IPv6)]」)

■ C00-0000 : 消耗品エラー

番号	メッセージ	対処
C11	インクの使用期限が過ぎています	新しいインクボトルに交換してください。 (図 176 「消耗品について」) (図 140 「インクボトルを交換する」)
C12	マスターの使用期限が過ぎています	新しいマスターロールに交換してください。 (図 176 「消耗品について」) (図 137 「マスターをセットする」)
C13	インク、および、マスターの使用期限が過ぎています。	新しいインクボトルとマスターロールに交換してください。 (図 176 「消耗品について」) (図 140 「インクボトルを交換する」) (図 137 「マスターをセットする」)

■ D00-0000 : セット確認エラー

番号	メッセージ	対処
D02	ドラムが違います 正しいドラムをセットしてください	適切なドラムをセットしてください。 (図 143 「ドラムを交換する」)  ▶ ドラムは本機専用のものをご使用ください。他のドラムをご使用になりますと、故障やトラブルの原因になることがあります。
D04	インクボトルが違います 正しいボトルをセットしてください	インクボトルの種類と色が適切かを確認してください。 適切なインクボトルをセットしてください。 (図 176 「消耗品について」)  ▶ インクボトルは当社推奨のものをご使用ください。他のインクをご使用になりますと、故障やトラブルの原因になることがあります。 インクボトル先端のシールが、はがれたり汚れたりしていないかを確認してください。 インクボトル先端のシールには、プリントに必要な情報が入っています。 汚れのないシールが適切に貼られているインクボトルをセットしてください。 (図 140 「インクボトルを交換する」)

番号	メッセージ	対処
D17	マスターが違います 正しいマスターをセットしてください	マスターの種類が適切かを確認してください。 適切なマスターロールをセットしてください。 (図 176 「消耗品について」) 重要 ▶ マスターは当社推奨のものをご使用ください。他のマスターをご使用になりますと、故障やトラブルの原因になることがあります。 マスター芯の [①] 部分が、折れ曲がったり切れたりしていないかを確認してください。 マスター芯の [①] 部分には、プリントに必要な情報が入っています。 [①] 部分が折れ曲がったり切れたりしていないマスターをセットしてください。 (図 137 「マスターをセットする」)
D45	インクボトルを セットしてください	インクボトルが適切にセットされていない可能性があります。 インクボトルをいったん取り外して、セットし直してください。 (図 140 「インクボトルを交換する」)

■ E00-0000 : メンテナンスコール

番号	メッセージ	対処
E01	電池交換が必要です サービス実施会社に連絡してください	本機内部の電池が切れかかっています。 販売会社（あるいは保守・サービス会社）に、電池交換をご依頼ください。
E02	定期点検の時期がきました サービス実施会社に連絡してください	販売会社（あるいは保守・サービス会社）に、定期点検をご依頼ください。

■ F00-0000/G00-0000 : ワーニング



▶ 画面に [中止] [続行] が表示される場合があります。動作を中断するには [中止] をタッチします。動作を再開するには [続行] をタッチします。

番号	メッセージ	対処
F01	ドラムにマスターがついていません 製版を行ってください	[閉じる] をタッチした後、製版を行ってください。 重要 ▶ ドラムにマスターが付いていない状態で放置すると、ドラムが乾いて故障の原因になります。必ず、製版または【機密】(図 92)を行ってマスターを巻き付けてください。
F02	用紙サイズとプリントエリアが 合っていません ローラーを汚す可能性があります	製版されているサイズよりも小さい用紙がセットされています。 用紙サイズを確認して、適切な用紙をセットしてください。
F04	上限に達しました これ以上利用できません	あらかじめ設定された製版枚数または印刷枚数の上限に達しました。管理者に連絡してください。 (図 126 「認証設定」 - 「利用できる枚数の上限設定」)
F10	用紙サイズとプリントエリアが 合っていません ローラーを汚す可能性があります (続行は試し刷りキー)	製版されているサイズよりも小さい用紙がセットされています。 用紙サイズを確認して、適切な用紙をセットしてください。 続行するには、[試し刷り] キーを押してください。

番号	メッセージ	対処
F28	給紙圧レバーが「厚紙」に設定されています 給紙台の用紙に適しているかを確認してください	この画面は、[特殊給紙調整] (☞ 76) が [オート] に設定されている場合に、給紙圧レバーが [厚紙] の位置にあるときに表示されます。 使用する用紙を確認し、必要に応じて給紙圧レバーの位置 (☞ 29) を切り替えてください。
F32	ホールドメモリーがいっぱいのため、保存できません ホールドデータの整理を行ってください	[ホールド一覧] をタッチして、必要のない原稿データを削除してください。
F33	USB メモリーがいっぱいのため、保存できません USB データの整理を行ってください	[USB データ選択] をタッチして、必要のない原稿データを削除してください。
F34	データ数がいっぱいのため、保存できません 選択したフォルダーの整理を行ってください	[ホールド一覧] をタッチして、必要のない原稿データを削除してください。
F51	インクの消費期限が近づいています なるべく早めに交換してください	より良い状態でお使いいただくため、製造日から 24 カ月以内（常温保存）を目安にご使用ください。 (☞ 176 「消耗品について」)
F56	マスターの消費期限が近づいています なるべく早めに交換してください	より良い状態でお使いいただくため、製造日から 24 カ月以内（常温保存）を目安にご使用ください。 (☞ 176 「消耗品について」)
F57	インク、および、マスターの消費期限が近づいています なるべく早めに交換してください	より良い状態でお使いいただくため、製造日から 24 カ月以内（常温保存）を目安にご使用ください。 (☞ 176 「消耗品について」)
F65	不定形原稿ではオートサイズ選択できません 保存データサイズを選択して再スタートしてください	不定形サイズの原稿をセットしている場合は、[サイズ] (☞ 101) をタッチして保存データのサイズを指定してください。
		原稿がずれている場合は、原稿を正しい位置にセットし直してください。
F73	指定されている変倍率から用紙サイズを特定できません 用紙トレイを選択してください	この画面は、連携機（別売）使用時に表示されます。 [手差し] をタッチすると、A3 サイズでプリントされます。 [用紙選択] をタッチすると、連携機の用紙トレイを選択できます。
F74	本機の温度が低いため 指定されている印刷速度は使用できません	[190ppm] と [160ppm] を使用できるのは、ドラム内部の温度が下記のときです。 ・ [190ppm] : 15℃以上 ・ [160ppm] : 5℃以上 ドラムが冷えている場合は、部屋を暖めたり、速度 [5] 以下でしばらく印刷したりして、ドラム内部が十分な温度になるまでお待ちください。
F85	スキャンできません 外付コントローラが接続されていないか接続処理中ですか 確認してください	RISO コントローラ IS300（オプション）が正しく接続されているかを確認してください。 RISO コントローラ IS300 を接続しない場合は、[環境設定] の [外付コントローラ] (☞ 113) を [無効] に設定してください。
F90	ご使用のインクの在庫を確認の上 必要であれば発注をお願いします	該当色のインクボトルの在庫数が、[サプライ在庫管理] (☞ 116) で設定された数以下になりました。必要に応じて発注してください。

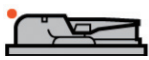
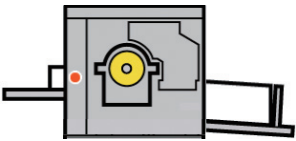
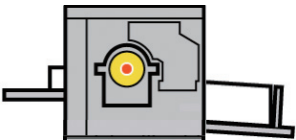
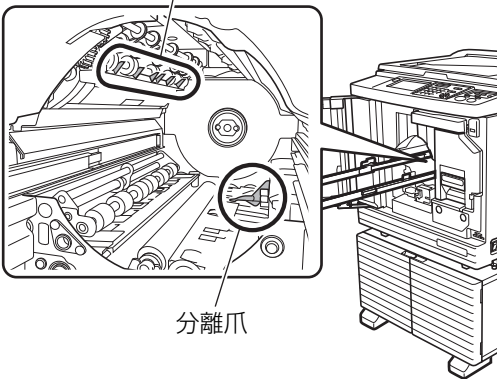
番号	メッセージ	対処
F91	ご使用のマスターの在庫を確認の上必要であれば発注をお願いします	マスターロールの在庫数が、[サプライ在庫管理] (図 116) で設定された数以下になりました。必要に応じて発注してください。
F93	現在の変倍率では製版可能サイズに入りきらない可能性があります確認してください	[変倍] (図 51) をタッチして、変倍率を変更してください。 変倍率を変更せずに [続行] をタッチすることもできます。 ただし、「製版範囲」 (図 16) より外側の部分は製版されないので、画像が欠ける可能性があります。
F94 F95	ープロテクトー 現在のマスターを破棄します	「実行する」をタッチすると、[機密] (図 92) が行われます。 (図 128 「使用済みのマスターを管理する [プロテクト]」)
F96	利用枚数の集計日がきました 管理者へ連絡してください	利用枚数の集計日が来たことを、管理者に連絡してください。 参考 ▶ [集計出力] (図 95) を実行するまで、電源 ON のたびにワーニング画面が表示されます。当月に [集計出力] を実行しない場合は、[利用枚数集計] (図 95) で [お知らせクリア] をタッチします。
G02	原稿が適切に読み取れませんでした 原稿の位置を確認してください	紙メモリー原稿が、原稿台ガラスに傾いてセットされていると、適切に読み取れないことがあります。 紙メモリー原稿をセットし直してください。 原稿台ガラスや原稿パッドに汚れがあると、適切に読み取れないことがあります。 原稿台ガラスを清掃してから、紙メモリー原稿の読み取りをやり直してください。 (図 150 「原稿台ガラスと原稿パッド」) 紙メモリー原稿に汚れ、しわ、折れ目などがあったり、指定外の場所 (図 65) に書き込みがあたりすると、本機で適切に読み取れないことがあります。 紙メモリー原稿をきれいな用紙にプリントし直すことをおすすめします。 当社推奨のプリンター以外でプリントされた紙メモリー原稿は、本機で適切に読み取れないことがあります。 紙メモリー原稿を当社推奨のプリンターでプリントし直すことをおすすめします。当社推奨のプリンターについては、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。
G03	原稿が正しくありません 以下の原稿をセットしてください	紙メモリー原稿のヘッダー部を確認し、エラー画面に表示されている情報と一致する紙原稿をセットしてください。
G11	現在セットされているインクとマスターの組合せが合っていません 同じグレードのインクとマスターをセットしてください	以下のページを参照し、推奨品のインクとマスターをご使用ください。 (図 176 「消耗品について」)

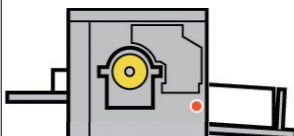
■ J00 : 通紙ジャムエラー

原稿または用紙がつまっている場所が、画面上に点滅表示されます。



- 参考
- ▶ 紙づまりを防ぐために、印刷に適した用紙を使用してください。
(14 「用紙について」)
 - ▶ 自動原稿送り装置（オプション）に原稿をセットするときは、適切な原稿を使用してください。
(13 「原稿について」)

エラー位置	対処
自動原稿送り装置（オプション） 	AF 給紙カバーを開けて、つまっている原稿を取り除いてください。 つまっている位置によっては、原稿台カバーを上げて、自動原稿送り装置の下側から原稿を取り除くこともできます。
給紙側 	給紙側を確認し、給紙台を下げてから、つまっている用紙を取り除いてください。 エラー表示が消えない場合は、[リセット] キーを押してください。 参考 ▶ 給紙圧レバーを切り替えると、紙づまりを防げることがあります。 (28 「給紙台と用紙のセット」)
ドラム周辺 	ドラムを引き出して、つまっている用紙を取り除いてください。 (143 「ドラムを交換する」) ⚠ 注意 • ドラム周辺や、ドラムユニットを外した本体内部にはインクが付いていることがありますので、手や衣服などが触れないように注意してください。手などにインクが付いたときは早めに洗剤で洗い落としてください。 • 本体内部に手を入れるときは、分離爪や排版爪に触れないように注意してください。分離爪や排版爪の先端は鋭利なため、けがの原因となることがあります。 

エラー位置	対処
排紙側 	排紙側を確認して、つまっている用紙を取り除いてください。

【消耗品情報入力ウィザード】画面が表示されたら

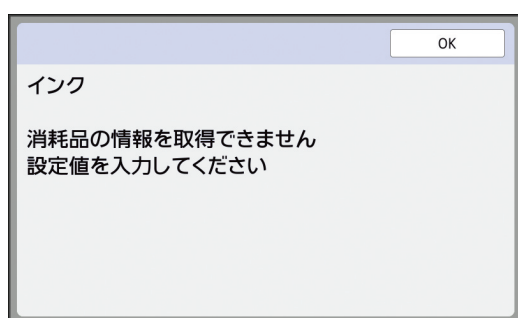
本機は、最適なプリント状態を保つために、消耗品から情報を得ています。
 情報を取得できなかった場合は、[消耗品情報入力ウィザード] 画面が表示されます。
 適切な設定値を入力してください。



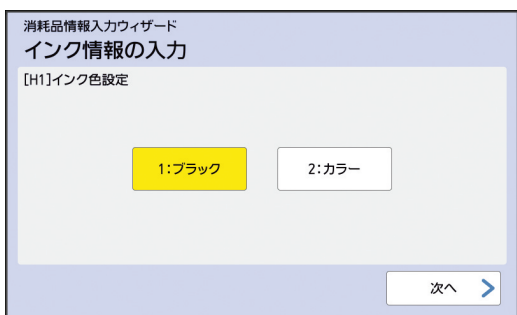
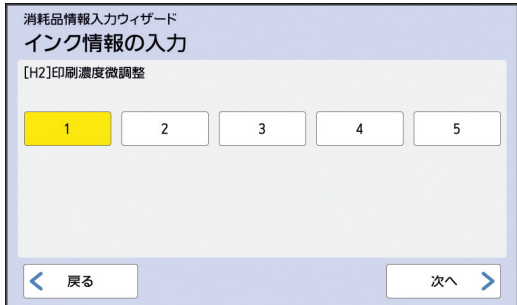
- ▶ 以下の操作を行うと、入力した設定値が消失するため、再入力が必要になります。
- 電源スイッチを OFF にして、再度 ON したとき
 - スリープ状態になった後、[ウェイクアップ] キーを押したとき

■ 【インク情報の入力】

①以下の画面で、[OK] をタッチします。



②以下の表を参考にして、項目を設定してください。

画面表示	設定内容	設定値
	[H1] インク色設定 現在使用しているドラムと同じ色を選択します。	1 : ブラック 2 : カラー
	[H2] 印刷濃度微調整 インクに合わせて、適正な印刷濃度になるように設定値を選択します。	1 (薄い) ～ 5 (濃い)

画面表示	設定内容	設定値
消費品情報入力ウィザード インク情報の入力 [H3]ファーストプリント印刷濃度調整 1 2 3 4 5 戻る 次へ	[H3] ファーストプリント印刷濃度調整 インクに合わせて、ファーストプリントが適正な印刷濃度になるように設定値を選択します。	1（薄い） ～ 5（濃い）
消費品情報入力ウィザード インク情報の入力 [H10]インク推奨消費期限設定 月 01 年 2018 ↑ ↓ (デンキー入力も可能) 戻る 次へ	[H10] インク推奨消費期限設定 ワーニング [F51] (158) を表示させる年月を入力します。	月： 01 ～ 12 年： 2001 ～ 2099

③設定が終了すると、確認画面が表示されます。
 設定値を確認して、[スタート] キーを押してください。基本画面に戻ります。

消費品情報入力ウィザード

インク情報の入力

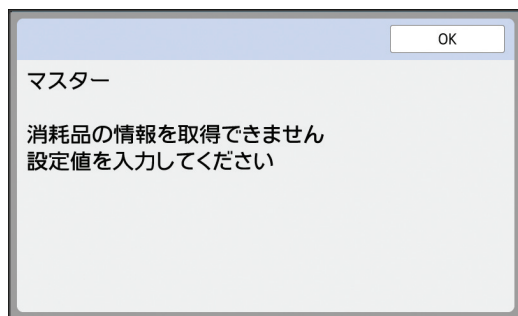
以下の入力内容でよろしいですか？
 設定値を確認して、スタートキーを押してください

項目	設定値
[H1]インク色設定	1
[H2]印刷濃度微調整	1
[H3]ファーストプリント印刷濃度調整	1
[H10]インク推奨消費期限設定	01/2018

戻る

■ [マスター情報の入力]

①以下の画面で、[OK] をタッチします。



②以下の表を参考にして、項目を設定してください。

画面表示	設定内容	設定値
	[H4] 製版濃度設定 マスターに合わせて、適正な製版濃度になるように設定値を選択します。	1 (薄い) ～ 10 (濃い)
	[H5] 印刷濃度微調整 マスターに合わせて、適正な印刷濃度になるように設定値を選択します。	1 (薄い) ～ 5 (濃い)
	[H6] ファーストプリント印刷濃度調整 マスターに合わせて、ファーストプリントが適正な印刷濃度になるように設定値を選択します。	1 (薄い) ～ 5 (濃い)

画面表示	設定内容	設定値
	[H11] マスター推奨消費期限設定 ワーニング [F56] (📖 158) を表示させる年月を入力します。	月： 01 ~ 12 年： 2001 ~ 2099

③設定が終了すると、確認画面が表示されます。
設定値を確認して、[スタート] キーを押してください。基本画面に戻ります。

消耗品情報入力ウィザード

マスター情報の入力

以下の入力内容でよろしいですか？
設定値を確認して、スタートキーを押してください

項目	設定値
[H4]製版濃度設定	1
[H5]印刷濃度微調整	1
[H6]ファーストプリント印刷濃度調整	1
[H11]マスター推奨消費期限設定	01/2018

戻る

「故障？」と思ったときは

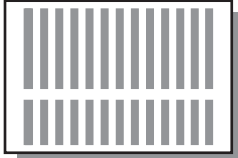
販売会社（あるいは保守・サービス会社）に連絡する前に、以下の表を確認して対処してください。

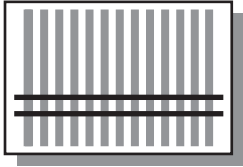
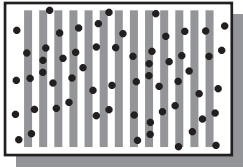


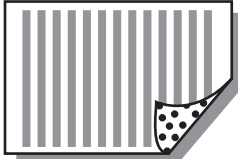
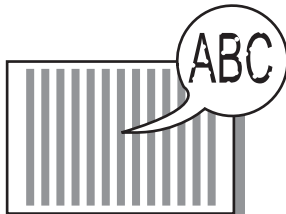
注意

本書に記載されている以外の作業（調整や修理など）は行わないでください。
調整や修理は、必ず販売会社（あるいは保守・サービス会社）に依頼してください。

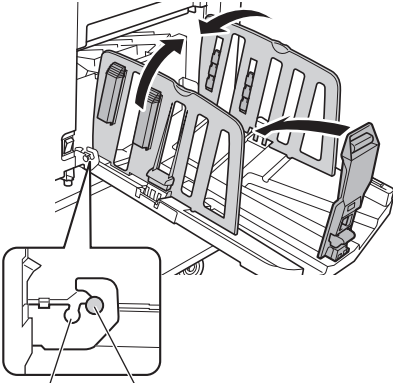
状況	チェックポイント	対処
電源は入っているのに、タッチパネルに何も表示されない。	スリープ状態ではありませんか？	操作パネルの［ウェイクアップ］キーが点灯しているときは、スリープ状態です。［ウェイクアップ］キーを押すと、操作できる状態になります。
電源を入れたのに起動しない。	電気は通じていますか？	- 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されているかを確認してください。 - 商用電源のブレーカーが落ちていないかを確認してください。
給紙台が閉まらない。	給紙フェンスは左右いっばいに広がっていますか？	電源を入れて、給紙台を最下部まで下げてください。その後、給紙フェンスロックレバーを立てて、給紙フェンスを左右いっばいに広げてから給紙台を閉じてください。 (☞ 28 「給紙台と用紙のセット」)
	給紙台が最下部まで下がりきる前に電源を OFF していませんか？	
ドラムが入らない。	正しい停止位置にドラムを回転させていますか？	ドラムを手で回したときは、作業後、必ず [▼] マークと [▲] マークが向かい合う位置までドラムを戻してください。
	ドラムをレールに正しく乗せていますか？	ドラムをレールに正しく乗せてください。 (☞ 143 「ドラムを交換する」)
インクボトルをセットしたのに、エラーメッセージが消えない。	インクボトルを正しくセットしていますか？	インクボトルを差し込んで、右方向に回し、ロックしてください。 (☞ 140 「インクボトルを交換する」)
	インクボトル先端のシールが傷付いたりはがれたりしていませんか？	シールが傷ついたりはがれたりしているインクボトルは使用できません。新しいインクボトルをセットしてください。 (☞ 140 「インクボトルを交換する」)

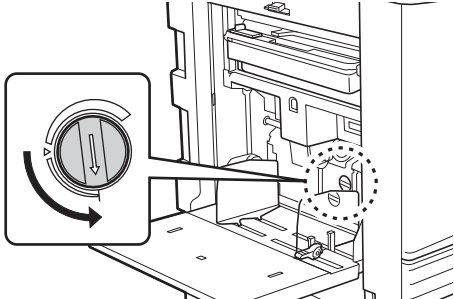
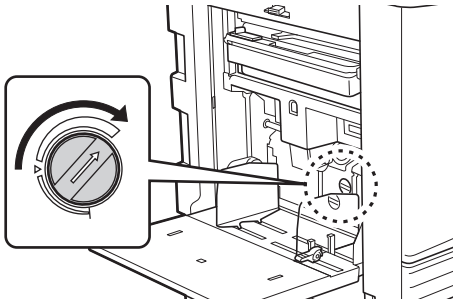
状況	チェックポイント	対処
マスターをセットしたのに、エラーメッセージが消えない。	マスターを正しくセットしていますか？	マスターロールは、マスター芯の [I] マークがある方を左にしてセットしてください。 (図 137 「マスターをセットする」)
	マスター芯の内側にある [I] 部分が折れ曲がったり、切れてしまったりしていませんか？	[I] 部分が折れ曲がったり、切れてしまったりしているマスターロールは使用できません。新しいマスターロールをセットしてください。 (図 137 「マスターをセットする」)
排版ボックスを取り外せない。	〔プロテクト〕が〔有効〕に設定されていませんか？	〔環境設定〕の〔プロテクト〕が〔有効〕の場合、排版ボックスは取り外せません。ただし、排版部でマスターがつまったり、排版ボックスがいっぱいになったりしたときは、排版ボックスを取り外せます。 (図 128 「使用済みのマスターを管理する [プロテクト]」)
	排版ボックスのロックレバーは解除されていますか？	ロックレバーを右にスライドして、ロックを解除してください。排版ボックスが施錠されている場合は、管理者に連絡して開錠してください。 (図 141 「排版ボックスのマスターを廃棄する」)
排版ボックスをセットできない。	排版ボックスのロックレバーは解除されていますか？	排版ボックスのロックレバー (図 141) を右にスライドして、ロックを解除してください。その後、排版ボックスをセットしてください。
何も印刷されていない。	原稿の裏表を逆にしてセットしていませんか？	正しい向きでセットしてください。 (図 31 「原稿をセットする」)
原稿をセットしていないのに原稿台カバーを閉じると、印刷モードから製版モードに自動で切り替わってしまう。	原稿台カバーを勢よく閉じていませんか？	本機は、印刷モードの状態では原稿台カバーを閉じるときに、原稿がセットされていると検知すると、製版モードに自動で切り替わります。しかし、原稿台カバーを閉じる勢が強すぎると、原稿がなくても原稿がセットされたと誤検知する場合があります。原稿台カバーは、静かに閉じてください。
プリントされた画像の一部が欠けている。	原稿台ガラスが汚れていませんか？	原稿台ガラスを、柔らかい布などで拭いてください。 (図 148 「お手入れのしかた」)
	マスターに付着物がありますか？	ドラムを引き出して、マスターに付着物がある場合は取り除いてください。 マスターとドラムの間に異物が挟まっている場合は、マスターをはがして異物を取り除いてください。その後、ドラムをセットして、製版し直してください。
	製版したとき、原稿より小さい用紙を給紙台にセットしていませんか？	製版されるサイズは、給紙台にセットされている用紙のサイズによって決定されます。 給紙台に、原稿と同じサイズの用紙をセットしてから製版してください。
印刷物に白い線が入っている。 	製版ユニットのサーマルヘッドや、自動原稿送り装置（オプション）のスキャナーガラスが汚れていませんか？	サーマルヘッドやスキャナーガラスを、柔らかい布などで拭いてください。 (図 148 「お手入れのしかた」)

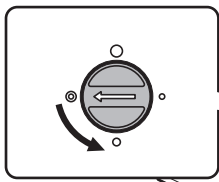
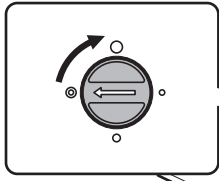
状況	チェックポイント	対処
印刷物に線が入っている。 	自動原稿送り装置（オプション）のスキャナーガラスが汚れていませんか？	スキャナーガラスを、柔らかい布などで拭いてください。 (図 148 「お手入れのしかた」)
印刷物の地が全体的に汚れている。 	新聞のように、地に色がついている原稿を使用していますか？	[読取濃度] (図 48) を薄くして、製版し直してください。
	原稿台ガラスが汚れていませんか？	原稿台ガラスを、柔らかい布などで拭いてください。 (図 148 「お手入れのしかた」)
印刷物の縁（フチ）がインクで汚れている。	製版したとき、原稿より大きい用紙を給紙台にセットしていませんか？	給紙台に、原稿と同じサイズの用紙をセットしてから製版してください。 製版されるサイズは、給紙台にセットされている用紙のサイズ（給紙フェンスの幅と用紙の長さ）によって決定されます。
	製版したとき、給紙フェンスは用紙の幅にぴったりと合っていましたか？	製版するときに、原稿よりも大きい用紙を給紙台にセットしていると、原稿の外側も製版されます。 そのため、原稿台カバーがしっかり閉じていないと、原稿の縁が影として製版されてしまうことがあります。
	[フルサイズ製版] が ON になっていませんか？	[フルサイズ製版] (図 54) が ON になっていると、原稿や用紙のサイズにかかわらず、ドラムの最大印刷範囲に製版されます。そのため、原稿台カバーがしっかり閉じていないと、原稿の縁が影として製版されてしまうことがあります。
	ハガキなどの厚い用紙を印刷しているときに、用紙の角がマスターに当たってマスターを傷つけていませんか？	製版し直してください。 本機で使用可能な用紙を使用してください。 (図 14 「用紙について」)
	製版後、時間が経過したマスターを使用していませんか？	製版し直してください。

状況	チェックポイント	対処
印刷物の裏がインクで汚れている。 	プレスローラーがインクで汚れていませんか？	ドラムを取り外して、プレスローラーを柔らかい布などで拭いてください。 (☞ 148「お手入れのしかた」) 印刷位置が用紙からはみ出すと、プレスローラーが汚れる原因になります。印刷位置は、用紙に収まる範囲内で調整してください。
	製版したとき、給紙フェンスは用紙の幅にぴったりと合っていましたか？	製版するときは、給紙フェンスを用紙の幅に合わせてください。 (☞ 28「給紙台と用紙のセット」) 給紙フェンスが用紙の幅に合っていないと、用紙サイズよりも広い範囲に製版されてしまいます。それによって、用紙からはみ出た部分のプレスローラーにインクが付き、用紙に転写されてしまうことがあります。
	インクが乾きにくい用紙を使っていませんか？	インクが乾く前に次の用紙が排出されてしまうために、用紙の裏にインクが付いています。 以下の対処法をお試しください。 • 乾きやすい用紙を使う。 • 印刷速度を遅くする。 [インターバル印刷] (☞ 75) [速度] (☞ 72) • インクを薄くする。 [濃度] (☞ 73) [読取濃度] (☞ 48) [省インク] (☞ 50)
プリントされた画像が薄い。文字がかすれている。 	ドラムを使用しない状態が長時間続いた後に、プリントしていませんか？	ドラムを長時間使用していないと、ドラム表面のインクが乾いてしまいます。この状態でプリントすると、刷り始めの数枚が薄く印刷されることがあります。 [試し刷り] キーを押して、何枚か印刷してから使用してください。 [アイドルリング] (☞ 92) を実行すると、刷り始めから鮮明に印刷できるので、余分な用紙の使用を減らすことができます。
	原稿自体が薄くありませんか？	[読取濃度] (☞ 48) を濃くして、製版し直してください。 えんぴつ書きの原稿を使うときは、[原稿モード] (☞ 45) を [えんぴつ] に設定してください。
	本機の設置場所やインクの保管場所が低温 (15℃未満) ではありませんか？	本機は、15℃以上の場所でお使いください。 低温の場所に保管されていたインクは、15℃以上の場所にしばらく置いてから使用してください。 (☞ 9「設置場所について」)
	[省インク] を ON にしていませんか？	[省インク] (☞ 50) を ON にして製版すると、印刷の仕上がりが通常よりも薄くなります。

状況	チェックポイント	対処
[連写] (多原稿連写) をしたが、片面が何も印刷されない。 	次の原稿のセットを指示するメッセージが表示されている間に原稿をセットしましたか？	2 枚目以降の原稿をセットするまでに一定時間が経過すると、自動的に製版が始まり、読み取られなかった分は余白になります。 時間が短すぎる場合は、[環境設定] の [連写待ち時間] (114) を変更してください。
	原稿を読み取っている間に [ストップ] キーを押しませんでしたか？	原稿を読み取っている間に [ストップ] キーを押すと、読み取りが中断されます。 すべての原稿が読み取られるまで、[ストップ] キーを押さないでください。
用紙がドラムに巻き付いている。	印刷物の天方向に、余白は十分にありますか？	印刷物の天方向 (排紙方向の先端) には、5mm 以上の余白が必要です。天地方向の印刷位置を下げて印刷してください。印刷位置を下げられないときは、余白ができるように縮小して製版し直してください。 (51 「原稿を拡大／縮小する [変倍]」)
	印刷物の天方向に、広い塗りつぶし面がありませんか？	印刷物の天方向 (排紙方向の先端) に広い塗りつぶし面があると、用紙がドラムに巻き付きやすくなります。原稿の天地を逆にして製版し直してください。[再製版] (75) の [180 度回転] を利用すると便利です。
	適切な用紙を使っていますか？	本機で使用可能な用紙を使用してください。 (13 「サイズ・重さについて」)
印刷物が丸まって排紙される。	用紙の紙目 (繊維の流れ) は通紙方向に沿っていますか？	紙目が通紙方向に沿うように、用紙をセットしてください。 (15 「紙づまりや給紙不良を避けるために」)
排紙された印刷物が排紙台にきれいに揃わない。	排紙フェンス、ストッパーの位置は適切ですか？	排紙フェンスとストッパーは、用紙サイズに合わせてセットしてください。 厚い用紙のときは、少し広めにセットしてください。 (29 「排紙台のセット」)
	給紙圧レバーの位置は適切ですか？	給紙圧レバーを、用紙の紙質に合わせて切り替えてください。 (28 「給紙台と用紙のセット」)

状況	チェックポイント	対処
印刷物が、排紙台のストッパーを越えて飛び出してしまう。	—	以下の手順で、排紙台の角度を水平にご使用ください。 ①排紙フェンスとストッパーをたたむ。 ②排紙台の左右を両手で持ち上げて、排紙台の軸を軸受けの B の位置に移動させる。  B 用紙が飛び出すとき A 通常位置

状況	チェックポイント	対処
用紙が給紙台からうまく送られない。(空送または重送される)	適切な用紙を使っていますか？	本機で使用可能な用紙を使用してください。 (図 14 「用紙について」)
	給紙圧レバーの位置は適切ですか？	厚紙や滑りやすい用紙のときは、給紙圧レバーを「厚紙」の位置に切り替えてください。 (図 28 「給紙台と用紙のセット」)
	サバキ板の角度は適切ですか？	状況に応じて、サバキ板角度調節ダイヤルを回して、サバキ板の角度を調節してください。 重要 ▶ 調節する前に、給紙台から用紙を取り除き、給紙台が最下部まで完全に下がっていることを確認してください。 ■ 用紙が空送されるとき ダイヤルを左に回してください。  ■ 用紙が重送されるとき ダイヤルを右に回してください。 

状況	チェックポイント	対処
(前ページから続く)	紙サバキ圧の調整は適切ですか？	状況に応じて、サバキ圧調節ダイヤルを回して、サバキ圧を調節してください。 重要 ▶ 調節する前に、給紙台から用紙を取り除き、給紙台が最下部まで完全に下がっていることを確認してください。 ■ 紙粉が出やすい用紙を使うとき 用紙が空送されるとき ハガキの裏面がめくれるとき ダイヤルを左に回してください。  ■ 用紙が重送されるとき ダイヤルを右に回してください。 
	[特殊給紙調整] は適切に設定されていますか？	必要に応じて [特殊給紙調整] (476) を設定してください。適切な調整値については、販売会社 (あるいは保守・サービス会社) にお問い合わせください。
プリントされた用紙がめくれたり、先端にしわがでたりする。	サバキ板の角度は適切ですか？	サバキ板角度調節ダイヤル (上図) を回して、サバキ板の角度を調節してください。
用紙がつまっていないのに、エラーメッセージが表示される。	舞い上がった紙が排出されていませんか？	印刷物の天方向 (排紙方向の先端) には、5mm 以上の余白が必要です。天地方向の印刷位置を下げてください。印刷位置を下げられないときは、余白ができるように縮小して製版し直してください。 (451 「原稿を拡大／縮小する [変倍]」)
	本機に直射日光が当たっていませんか？	本機に直射日光が当たると、センサーが誤検知することがあります。 カーテンなどで光を遮って、本機に直射日光が当たらないようにしてください。

状況	チェックポイント	対処
印刷速度が [190ppm] や [160ppm] にならない。	寒い場所で印刷していませんか？	[190ppm] と [160ppm] を使用できるのは、ドラム内部の温度が下記のときです。 ・ [190ppm] : 15℃以上 ・ [160ppm] : 5℃以上 ドラムが冷えている場合は、部屋を暖めたり、速度 [5] 以下でしばらく印刷したりして、ドラム内部が十分な温度になるまでお待ちください。
[速度優先製版] が使えない。	[速度優先製版] と併用できない機能を設定していませんか？	併用できない機能を設定すると、[速度優先製版] は動きません。 (📖 51 「製版時間を短縮する [速度優先製版]」)
パソコンから複数ページの原稿データを送信した。印刷枚数を複数に設定したのに、1 枚印刷するたびに製版が繰り返されてしまう。	パソコンの印刷ダイアログボックスで、[部単位で印刷] を選択していませんか？	本機で受信した原稿データを、いったん削除してください。削除するには、基本画面で [ジョブ削除] (📖 23) をタッチします。 パソコンの印刷ダイアログボックスで、[部単位で印刷] のチェックを外してから、原稿データを送信し直してください。 (📖 34 「パソコンからプリントする」)
パソコンから原稿データを送信したのに、本機で受信されない。	本機のタッチパネルに [環境設定] 画面が表示されていませんか？	[環境設定] 画面の [終了] をタッチして、基本画面に切り替えてください。
[スタート] キーが点滅している。	受信した原稿データが出力待ちの状態ではありませんか？	[スタート] キーを押して、プリントしてください。
本機の IP アドレスを設定したのに、再起動後に [DHCP を使用する] に変わってしまう。	ネットワーク上にある他の機器と、同じ IP アドレスを設定していませんか？	他の機器と重複しない IP アドレスを設定してください。



第 13 章

付録

消耗品について

本機で利用できる消耗品は、以下の通りです。

- ・仕様、種類は予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- ・価格については、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。

マスター・インク

マスターとインクは、製造日から24カ月以内（未開封、常温保存）を目安にご使用ください。より良い状態でお使い頂くため、購入後はできるだけ早めにご使用頂くことをおすすめいたします。それぞれの製造日は、梱包箱（外箱、内箱）と、マスター芯の内側、インクボトルの表面に記載されています。

■ マスター

以下の推奨品をご使用ください。

品名
RISO マスター F タイプ HG
RISO マスター F タイプ HD

■ インク

以下の推奨品をご使用ください。

品名
RISO インク F タイプ HG（ブラック）
RISO インク F タイプ（カラー*）

当インクは、（公財）日本環境協会が制定するデジタル印刷機のエコマーク認定基準の、インクに関するすべての認定基準に準拠しています。

*：色の種類については、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。

用紙

本機の性能やインクの特性を十分に活かす「理想用紙薄口」「理想用紙マルチ」「理想環境用紙」のご使用をおすすめします。

オプションについて

本機をより便利に使用するために、さまざまなオプションを用意しています。

お求めの際は、販売会社（あるいは保守・サービス会社）にお問い合わせください。

■ 自動原稿送り装置：AF-VII

（SF939G では標準装備）

約50枚までの原稿を、自動的に送ることができます。

■ ソフトデジタイザキットⅢ

（SF939G では標準装備）

タッチパネル上で、原稿の編集加工ができます。

■ カラードラム

ドラムを交換するだけで、印刷色を簡単に変更できます。（専用ケース付き）

■ オートフェンス排紙台

（SF939G では標準装備）

用紙サイズに応じて、排紙フェンスとストッパーの位置が自動的に調整されます。

■ 排紙台 W

340×555 mm までの用紙に対応できる排紙台です。

■ IC カード認証キットⅢ

IC カードを利用して、ユーザーごとの利用管理やセキュリティの強化ができます。

IC カードを利用するには、[環境設定] の [認証設定]（[図 123](#)）で設定する必要があります。

■ ST ソーターⅣ；NⅢ

[テープ仕分け] 機能（[図 89](#)）により、クラスターテープを差し込んで、印刷物の仕分けが簡単にできます。

■ 厚紙給紙アタッチメント

ハガキなどを安定して給紙するためのユニットです。

■ 封筒給紙アタッチメント

封筒を安定して給紙するためのユニットです。

■ コインベンダー

硬貨投入式のセルフサービス用課金システムです。

■ カードベンダー

プリペイドカード挿入式のセルフサービス用課金システムです。

■ RISO コントローラ IS300

本機をネットワーク対応の PostScript 3 プリンターとして使用するための専用コントローラです。

■ リゾープリンタードライバー Mac 用

本機を Mac OS で使用するためのプリンタードライバーです。

仕様

機種名	SF939	SF939G
製版方式	高速デジタル製版	
製版時間	約 20 秒 (A4 縦、等倍時) [速度優先製版] 設定時：約 18 秒 (A4 縦、等倍時)	
印刷方式	全自動孔版印刷	
読込系解像度	600×600 dpi	
書込系解像度	600×600 dpi [速度優先製版] 設定時：600×400 dpi	
原稿の種類	ブック (10 kg 以下) / シート	
原稿の紙質	自動原稿送り装置使用時： 片面搬送時：50 g/m ² ~ 128 g/m ² 両面搬送時：52 g/m ² ~ 105 g/m ²	
原稿サイズ	原稿台ガラス使用時：50 mm×90 mm ~ 310 mm×432 mm 自動原稿送り装置使用時：100 mm×148 mm ~ 300 mm×432 mm	
最大読込範囲	297 mm×432 mm	
用紙の紙質	46 g/m ² ~ 210 g/m ² (上質紙、中質紙、白更、上更、更紙、画用紙、再生紙、日本郵便株式会社製ハガキ)	
用紙サイズ	100 mm×148 mm ~ 320 mm×432 mm ^{*1}	
最大印刷範囲	291 mm×413 mm	
給紙台積載枚数	1000 枚 ^{*2} (積載高さ 110 mm 以下)	
排紙台積載枚数	1000 枚 ^{*2} (積載高さ 110 mm 以下)	
排紙揃え方式	ドミノ排紙方式	
印刷速度 ^{*3}	7 段階：60、80、100、120、130、160、190 枚/分	
印刷位置調整	天地 ±15 mm、左右 ±10 mm	
原稿モード	文字、写真 (標準、顔写真)、文字・写真 (標準、文字優先、写真優先、下地カット)、えんぴつ (こいめ、うすめ)	
印刷倍率	ズーム (50% ~ 200%)、独立変倍、等倍、A4 → ハガキ、B5 → ハガキ、周囲余白 (90% ~ 99%) 拡大 4 段階 (163%、141%、122%、116%)、縮小 4 段階 (87%、82%、71%、61%)	
操作	大型カラータッチパネル	
各種機能	原稿モード、読取濃度、変倍、用紙サイズ検知、重送検知、網点、コントラスト強調、トーンカーブ選択、N アップ、連写、かんたん連写、ブックモード、レイアウト原稿、とじしろ、フルサイズ製版、省インク、速度優先製版、プレビュー表示、AF オート製版 ^{*4} 、AF 読取面指定 ^{*4} 、逆順印刷、ホールド、オーバーレイ、印刷速度調節、印刷濃度調節、印刷位置調整、インターバル印刷、再製版、オート再製版、180 度回転、特殊用紙設定、プログラム、テープ仕分け ^{*5} 、合紙仕分け、メモリー、占有延長、デジタイザ ^{*6} 、アイドリング、機密、認証 POP 登録、カウンター表示、利用枚数集計、試し刷り、ダイレクトプリント、USB メモリープリント、紙メモリープリント、スキャンモード、RLP モード ^{*7} 、自動振分 ^{*7} 、環境設定、オートスリープ設定、オートシャット OFF 設定、シャット OFF 時刻、エコモード、プロテクト、RISO iQuality System	
カラーチェンジ	ドラム交換方式	
インク供給	全自動 (1000 ml / 本)	

マスター給・排版	全自動 (220 版相当/ロール)	
マスター排版方式	ボックス式 (縦捨て対応タイプ)	
電源	定格電圧 100 V、定格周波数 50-60 Hz、定格電流 5.0 A	
消費電力	オプション未接続時：最大 430W (レディ時 40W 以下、スリープ時 (消費電力：標準) 5W 以下、スリープ時 (消費電力：少ない) 0.5W 以下、電源 OFF 時 0.5W 以下) オプション接続時 ^{*8} ：最大 430W (レディ時 45W 以下、スリープ時 (消費電力：標準) 10W 以下、スリープ時 (消費電力：少ない) 1.5W 以下、電源 OFF 時 0.5W 以下)	
本体サイズ (幅 × 奥行 ^{*9} × 高さ ^{*10})	使用時：1420 mm × 705 mm × 1065 mm 収納時：780 mm × 705 mm × 1065 mm	使用時：1430 mm × 705 mm × 1100 mm 収納時：835 mm × 705 mm × 1100 mm
設置に必要な スペース (幅 × 奥行 × 高さ ^{*10})	1420 mm × 1310 mm × 1515 mm	1430 mm × 1310 mm × 1440 mm
質量 ^{*11}	約 111 kg	約 120 kg (自動原稿送り装置：AF- VII とオートフェンス排紙台を含む)
安全性	屋内専用 汚染度 2 ^{*12} 標高 2000 m 以下	
付属品	保証書 1 部 個人情報取扱シート 取扱説明書 1 式 使用許諾契約書 1 部 「リソープリンタードライバー」DVD-ROM 1 枚 「リソユーティリティソフトウェア」CD-ROM 1 枚 電源コード 1 本	
専用架台	RISO 架台 N タイプⅢ 660 (幅) × 695 (奥行 ^{*9}) × 400 (高さ) mm 約 18 kg RISO 架台 D タイプⅢ 645 (幅) × 675 (奥行 ^{*9}) × 400 (高さ) mm 約 21 kg RISO ドラム収納架台 S Ⅲ 645 (幅) × 675 (奥行 ^{*9}) × 400 (高さ) mm 約 38 kg	
オプション	自動原稿送り装置：AF- VII、ソフトデジタイザキットⅢ、カラードラム、オートフェンス排紙台、排紙台 W、IC カード認証キットⅢ、ST ソーターⅣ；N Ⅲ、厚紙給紙アタッチメント、封筒給紙アタッチメント、コインベンダー、カードベンダー、RISO コントローラ IS300、リソープリンタードライバー Mac 用	

* 1：オプションの排紙台 W 装着時は、[用紙サイズ登録] を設定することで 340 mm × 555 mm まで使用できます。ただし、紙質や用紙サイズによっては、紙揃えが安定しない場合があります。

* 2：理想用紙薄口 (64 g/m²) 使用時

* 3：[190ppm] は、ドラム内部の温度が 15℃未満の場合は使用できません。

[160ppm] は、ドラム内部の温度が 5℃未満の場合は使用できません。

* 4：自動原稿送り装置 (オプション) 装着時に使用可能

* 5：ST ソーター (オプション) 装着時に使用可能

* 6：ソフトデジタイザキット (オプション) 装着時に使用可能

* 7：連携機「Prioa」(別売) 接続時に使用可能

* 8：以下のすべてを接続した状態を指します。

- 自動原稿送り装置
- ST ソーター
- IC カードリーダー

* 9：奥行には、専用架台の補助足を含みます。

* 10：高さには、専用架台を含みます。

* 11：質量には、インク、マスター、架台を含みません。

* 12 :空気中のちりやほこりなどによる使用環境の汚染度合のこと。「2」は一般的な室内環境。

おことわり

- 製品の仕様や種類は、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 機械の改良、変更などにより、本書の図版や記載事項とお客様の機械が、一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

索引

記号・英数

[*] キー	21
[+] キー	21
[×] キー	21
[Ⓜ] アイコン	136
180 度回転	67, 75
1 原稿プログラム	84
1 原稿連写	56

A

AF オート製版	62
AF オート製版基本	112
AF 給紙カバー	20
AF 時自動フェイスアップ	105
AF 時自動リバース出力	106
AF 読取面指定	64
AF 読取面変更	112
AF 連続自動設定	112

C

[C] キー	21
--------------	----

I

IC カード	123
IPv4	105, 121
IPv6	121
IP アドレス	105

L

LAN インターフェース設定	113
LAN コネクター	18

N

N アップ	54
-------------	----

P

POP 登録	111, 118
Prioa	104
[P (プログラム)] キー	21

R

READY	23
RISO コンソール	130
RLP	104, 116
RLP 情報取得時間	116
RLP 情報設定	105, 116
RLP 名称	105
RLP 両面	84
RLP 両面待ち時間	116

S

SDHC カード	37
SD カード	37
[SNMP 設定] 画面	134

U

USB コネクター	18
USB スロット	19
USB データ選択	68
USB データ呼出	69
USB メモリー	13, 66
USB メモリー (自動製版)	39, 41

あ

合紙仕分け	88
合紙仕分け基本設定	112
アイドリング	92
網点	47
暗証番号	123

い

[一般情報] タブ画面	131
一般ユーザー	124
インク情報の入力	161
インクボトル	19
印刷	26, 72
印刷位置	74
印刷位置調整キー	21
印刷位置微調整	74
[印刷] キー	21
印刷工程	26, 62

印刷色基本設定	117
印刷速度	72
印刷速度基本設定	112
印刷速度調節キー	21
印刷濃度	73
印刷濃度基本設定	112
印刷濃度調節キー	21
インターバル印刷	75

う

[ウェイクアップ]キー	21
裏移り	75

え

液晶表示調整	111
エコモード	115
エラーメッセージ	154
エラー履歴送信	114
えんぴつ	46

お

オートアイドリング	115
オートクリア設定	114
オート再製版	76
オート再製版設定	115
オートシャット OFF 設定	114
オートスリープ設定	114
オートフェンス排紙台	20
オーナー	100
オーバーレイ	68, 108
お気に入り	111, 119
お知らせ日登録	95

か

カウンター表示	94, 108
カウントオールクリア	127
紙揃えプレートノブ	19
紙目	15
紙メモリープリント	65
環境設定	110
かんたん連写	59
管理者	124

き

起動アニメ選択	111
機密	92
逆順印刷	63
給紙圧レバー	18
給紙台	18
給紙台上下ボタン	18
給紙フェンス	18

く

グループ設定	125
グループ名称	127

け

ゲージシート	18, 49
原稿サイズ固定	113
原稿セットフェンス	20
原稿台カバー	18
原稿台ガラス	18
原稿排出トレイ	20
原稿パッド	18
原稿表示方向基本	117
原稿モード	45
原稿モード基本設定	112
現状印刷枚数	126
現状製版枚数	126

こ

孔版印刷方式	26
誤差拡散法	47
固定変倍	51
コピー / 移動	67
コントラスト強調	47

さ

サービス連絡先設定	111
サーマルヘッド	19
サイズ	101
再製版	75
最大印刷範囲	16
最低印刷枚数	115
サバキ圧調節ダイヤル	172
サバキ板角度調節ダイヤル	171

サプライ在庫管理	116
サプライ連絡先設定	111

し

[システム情報] タブ画面	131
自動 90 度回転	114
自動原稿送り装置	20
自動振分	33, 104
自動振分枚数	116
次ページ	23
写真	45
シャット OFF 時刻	115
周囲余白	51
周囲余白縮小率	114
集計出力	95
重送検知	81
重送検知基本設定	112
[受信ジョブ] 画面	23, 35
受信ジョブ自動振分	116
受信不可	23
出力範囲	67
出力待ち	23
省インク	50
上限印刷枚数設定	126
上限製版枚数設定	126
上限設定	125
消耗品	12, 176
消耗品残量	136
消耗品情報入力ウィザード	161
初期画面設定	111
ジョブ削除	23
ジョブリスト表示切替	111
[処理中] タブ画面	132

す

ズーム変倍	52
スキャン	38, 98
スキャン保存先設定	113
[スタート] キー	21
ストッパー	19
[ストップ] キー	21

せ

製版	26, 44
[製版] キー	21
製版工程	26, 62
製版範囲	16
製版ユニット	19
製版ユニット OK ボタン	19
製版ユニットカバー	19
製版ユニットレバー	19
占有延長	91, 114
占有延長時間	114
占有時間	91, 114

そ

操作パネル	18
速度	72
速度優先製版	51
速度優先製版基本設定	113
外付コントローラ	113

た

多原稿プログラム	84
多原稿連写	56
タッチパネル	21
試し刷り	26
[試し刷り] キー	21

ち

チケット連写	56
長尺	53

つ

通信 ER	23
-------------	----

て

データ名	99
テープ仕分け	23, 89
テープ仕分け基本設定	112
デジタイザ	84, 117
展開中	23
テンキー	21
電源スイッチ	19
電子ソート	105, 108

天方向..... 14, 15

と

トータルカウンター 94
 トーンカーブ選択 48
 特殊給紙調整 76
 特殊排紙調整 77
 特殊排紙調整基本 113
 特殊用紙設定 76
 独立変倍 51
 とじしろ 61
 ドラム 19
 ドラム OK ボタン 19
 ドラム情報 136
 ドラムレバー 19
 トンボ 60

な

南京錠 128

に

日時設定 114
 認証 POP 登録 93
 認証あり 42, 100
 認証有無 123
 認証画面 22
 認証機能 122
 認証しない 100
 認証する 100
 認証設定 115, 122
 認証設定消去 127
 認証データ 42
 認証登録番号 124
 認証なし 42, 100
 認証プリント 122
 認証方式 123

ね

ネットワーク設定 (IPv4) 113, 121
 ネットワーク設定 (IPv6) 113, 121
 [ネットワーク設定] 画面 133
 ネットワーク設定初期化 116
 [ネットワーク] メニュー 133

の

濃度 73

は

排紙ウイング 19
 排紙ウイング特殊 80
 排紙ウイング特殊基本 113
 排紙口数 105
 排紙台 19
 排紙フェンス 19
 排紙フェンスオープンボタン 20
 排紙フェンス調整 77
 排紙フェンス取出位置 115
 排版ボックス 18
 排版ボックス空き容量 136
 パスワード 130

ひ

日付と時刻 136
 表示言語 111
 表示設定 42

ふ

フェイスアップ 105, 108
 [フォルダー] タブ画面 133
 フォルダー名変更 113
 ブザー音 116
 ブックモード 49
 [プリンター] メニュー 132
 プリント 26
 プリント範囲 16
 フルサイズ製版 54
 プレスローラー 151
 プレビュー 23, 62, 67
 プレビュー表示 61
 プロキシ設定 114
 プログラム 84
 プロテクト 115, 128

へ

変倍 51
 変倍基本設定 112

ほ

[ホーム]画面	22
[ホーム]キー	21
ホールド	37, 39
[ホールド]タブ画面	132
ホールドデータ選択	68
ホールドデータ呼出	67
補助足	19
保存場所	99
本体認証	122

ま

枚数カウンター	21
前カバー	19
マスター	19
マスターガイド	19
マスター情報の入力	163
マスターロールストッパー	19

め

名称入力	25
メッセージエリア	22
メモリー	89
メモリーカード	37
メモリーカードスロット	18

も

文字	45
文字・写真	45
[モニタリング]メニュー	131

ゆ

[ユーザー情報]タブ画面	131
ユーザー登録	124
ユーザー名	130

よ

用紙	53, 120
用紙サイズ	53
用紙サイズ登録	113, 120
用紙トレイ	108
読取濃度	48
読取濃度基本設定	112

り

リセッダブル・カウンター	94
[リセット]キー	21
リソープリンタードライバー	13
リソースユーティリティソフトウェア	13
リバース出力	105, 108
利用停止	125
利用枚数	137
利用枚数集計	95
両面	105, 108

れ

レイアウト原稿	60
連携機	104
連写	56
連写待ち時間	114
連続	26, 33, 62
[連続]キー	21
連続基本設定	112
連続モード	35, 40

ろ

ログイン	130
------------	-----

アフターサービスについて

アフターサービスについてのご不明な点、またはサービスサポートメニューや製品についての詳細は、お買い上げの販売会社(あるいは保守・サービス会社)にお問い合わせください。お問い合わせは、お客様相談室(☎ 裏表紙)でも受け付けております。

無償修理

この製品には保証書を別途添付しています。保証書の記載内容をご確認いただいた上、大切に保管してください。保証期間中の修理の場合は、保証書を必ずご提示ください。

保証期間は、商品購入日より 1 年以内もしくはトータルカウンター表示が 100 万枚までのいずれか早期に達した方とします。その期間中において、本書に従った正常な使用状態で故障した場合には、保証書に記載されている保証規定に則り無償修理いたします。

有償修理

保証期間を過ぎた場合は有償となります。

また、次の場合は保証期間内であっても有償となりますのでご了承ください。

- 保証書のご提示がない場合
- 保証書の所定事項が無記入の場合、または記載内容が書き換えられている場合
- 使用上の誤り、不当な修理、改造等による故障や損傷
- 本取扱説明書に従った正常な使用が行われていない場合の故障や損傷
- 当社認定のカスタマーエンジニア以外の者による修理が行われた場合
- 当社推奨消耗品をお使いいただけないことに起因する故障
- ドラムの色変更に要する作業
- 有償部品の交換
- ご購入後の輸送、移動等による故障や損傷
- 火災、地震、その他天災地変による故障や損傷
- 上記以外で、当社の責任でない原因で生じた故障や損傷

有償部品

ブラテンローラー、サバキ板、ピックアップローラー、スクレーパー、排版ベルト、プレスローラー、原稿パッド、ドラムブロックシート、ドラムシールテープ、排紙除電ブラシ、除電バー、TPH 除電ブラシ、着版ブラシ

推奨消耗品

RISO マスター F タイプ HG、RISO マスター F タイプ HD、
RISO インク F タイプ HG(ブラック)、RISO インク F タイプ(カラー)

修理不能の場合

天災または強度の衝撃その他で破損がひどく、正常の性能に復元できない場合、および部品の入手が困難な場合など、修理ができない場合があります。詳しくは、お買い上げの販売会社(あるいは保守・サービス会社)にお問い合わせください。

補修用性能部品の保有期間と インク・マスターの提供期間

本製品の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)は、本製品の製造終了後、最低 7 年間保有しています。

インク・マスターは、本製品の製造終了後、最低 7 年間提供しています。

修理ご依頼に際しての 注意事項

- 本機では、当社の定める研修を受講し、カスタマーエンジニアと認定された者がメンテナンスを行うシステムを採用しております。修理を依頼される際には必ずカスタマーエンジニア認定証の提示を求め、該当するカスタマーエンジニアであることをご確認ください。また、保証規定による修理には、必ず保証書を添付してください。
- 万一故障と思われる事態が生じた場合は、まず本書に記載されている処置(操作手順、トラブル処理、警告表示の処理、ご注意)をご確認ください。完全に処置できない場合は、販売会社(あるいは保守・サービス会社)にご連絡ください。ご連絡の際には、故障箇所、内容などをできるだけ詳しくご説明ください。
- 修理完了後は修理伝票にご捺印またはサインをご記入ください。

使用済み製品について

本製品には、ご使用後に回収し部品の再使用(リユース)や再利用(リサイクル)をおこなうシステムがあります。また、このシステムで活用できない部分は環境への負荷が少ない方法で処理するシステムがあります。



お問い合わせ先

本体・オプション製品に関しては

お客様相談室 ☎0120-534-881

受付時間(月～金 10:00～12:00,13:00～17:00 土・日・祝日・当社休業日を除く)

当社製プリンタドライバ/ソフトウェアの操作に関しては

サポートセンター ☎0120-229-330

受付時間(月～金 9:00～17:30 土・日・祝日・当社休業日を除く)

理想科学工業株式会社

〒108-8385 東京都港区芝5-34-7田町センタービル 電話(03)5441-6666

ホームページ <https://www.riso.co.jp/>